



神戸製鋼グループ

環境・社会報告書

KOBELCO SUSTAINABILITY REPORT

2017



KOBELCO

社会を支え、未来を創る。 神戸製鋼グループの 環境・社会貢献活動を、 3つの視点で報告します。

コンプライアンスは、神戸製鋼グループが企業としての社会的責任を果たすための出発点です。コンプライアンスに基づく、公正で健全な企業活動について報告します。

生産工程における環境配慮、技術・製品・サービスを通じたCO₂排出量の削減など、地球環境への貢献という社会との“共通価値”を創造する多彩な活動について報告します。

1 コンプライアンスの 徹底



2 事業活動を通じた 環境への貢献



3 ステークホルダーとの つながりづくり



神戸製鋼グループは、素材、機械、電力の3つの柱で、社会を支える事業を進めています。その中には、地球温暖化ガスの削減や、次世代エネルギーの実用化など、地球環境を保全し、次の時代の基盤となる事業も少なくありません。

また、公正で透明な企業統治や、地域社会との共生も、神戸製鋼グループの変わらない目標です。世界に広がり、未来へと続く神戸製鋼グループの環境・社会貢献活動。その最先端の活動と成果を、3つの視点でご報告します。

株主・投資家様、お客様・お取引先様、地域社会の皆様、社員、海外の現地社会など、多様なステークホルダーとのつながりを深めるための活動を報告します。

2017年度版の編集方針

本報告書は、CSR委員会下部組織の報告書作成部会が、各部門との議論を通じて、ステークホルダーの皆様にとって関心の高い事項や、事業活動としての重要性(マテリアリティ)を考慮し、3つの編集の視点から報告内容を選択して企画・構成しました。

本報告書は、「GRIガイドライン第4版(G4)」「ISO26000 社会的責任に対する手引」を参考にすると共に、環境報告については「環境報告ガイドライン2012年版」を、また防災については2005年8月1日に公表された防災に関するPR文書(中央防災会議企業評価・業務継続ワーキンググループ)を参考に作成しました。

ガイドライン対照表



http://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/csr/kaiji/report/2017/

報告対象期間

本報告書は、2017年度版として2016年度(2016年4月1日から2017年3月31日まで)の、神戸製鋼グループの環境および社会に対する活動実績に基づいて作成しました(一部、対象期間外の内容を含みます)。環境への取り組みや社会貢献に関しての基本姿勢と、これまでの、そして現在、さらに将来の活動についても述べています。

報告対象組織

原則として、(株)神戸製鋼所および国内外グループ会社の活動を報告対象としています。

*報告対象会社は、当社ホームページに掲載しています。



http://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/csr/kaiji/report/2017/

主要な環境パフォーマンス一覧

神戸製鋼グループの主要な環境パフォーマンス一覧は、当社ホームページに掲載しています。



http://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/csr/kaiji/report/2017/



ECOWAY

神戸製鋼グループは、「環境」イメージの浸透と従業員の「環境」マインドの醸成を狙いとして、環境シンボルマークを設定しています。

フリーハンドの「青々と生い茂る木の葉」がナチュラルで優しいイメージを表現し、矢印と「ECOWAY」という言葉を組み合わせて「環境先進企業グループへの道を一歩ずつ確実に進んでいく企業姿勢」を表しています。

編集方針/目次	1
神戸製鋼グループの社会に対する「約束」	3
社長メッセージ	5

特集 KOBELCO流“働き方改革” 9

コーポレートガバナンス
コンプライアンス

コンプライアンスを徹底し、社会的責任を果たします。

コーポレートガバナンス	15
コンプライアンスの強化・徹底	17

環境報告

3つのVISIONに基づく環境経営で、「環境先進企業グループ」を目指します。

環境経営基本方針と6つの実施事項	19
2016年度の活動ハイライト	20
環境中長期目標とその取り組み	21
溶接事業部門のバリューチェーン	23
マテリアルバランス	25
あらゆる面で環境に配慮したものづくりの徹底	
地球温暖化対策	27
資源循環の促進	30
化学物質の適正管理	32
環境負荷の低減	33
技術・製品・サービスでの環境への貢献	
技術・製品を通じたCO2排出量削減	34
素材、機械、エンジニアリング分野での環境への貢献	35
社外からの表彰	37
研究開発での環境への貢献	38
環境関連情報の開示	39
環境会計	40
全員参加による取り組みの展開	40
リスク管理の徹底	41
海外事業所におけるリスク管理活動	42

社会性報告

多様な接点で、一人ひとりの“信頼”に応えます。

ステークホルダーとの関わり	43
2016年度の活動ハイライト	44
優れた製品・サービスの提供	45
株主・投資家の皆様との関わり	47
社会との共生	49
スポーツを通じた社会貢献	53
KOBELCO GREEN PROJECT(環境活動を通じた社会貢献)	55
社員が働きやすい職場環境	57
防災の取り組み	61
各事業所の環境保全への取り組み	63
読者の皆様からの評価	67
第三者コメント	68

神戸製鋼グループの 社会に対する「約束」

「KOBELCOの3つの約束」「KOBELCOの6つの誓い」に基づき、
全ての企業活動を通じて社会的責任を果たします。

神戸製鋼グループの企業活動の根底には、「3つの約束」と「6つの誓い」があります。神戸製鋼グループの社会に対する約束事として「KOBELCOの3つの約束」、3つの約束を果たすために、全社員が守るべき誓いとして「KOBELCOの6つの誓い」を定めています。「6つの誓い」は、優れた製品・サービスの提供や地域社会との共生、環境への貢献、ステークホルダーの尊重など、社員一人ひとりの行動を指し示す、行動規範となるものです。神戸製鋼グループは、全ての企業活動を「KOBELCOの3つの約束」「KOBELCOの6つの誓い」に則って行うことで、社会に誇れるグループになることを目指すと共に、環境と社会に貢献していきます。



KOBELCOの 6つの誓い

KOBELCOの 3つの約束

神戸製鋼グループの
社会に対する約束事であり、
グループで共有する
価値観です。

- 1 信頼される技術、製品、
サービスを提供します
- 2 社員一人ひとりを活かし、
グループの和を尊びます
- 3 たゆまぬ変革により、
新たな価値を創造します



企業としての社会的責任

社会と共に生き、社会的課題を解決する共通価値を創造します。

ものづくりを通じて社会の基盤を支えます。

事業を通じた環境・社会への貢献

素材系事業

鉄鋼 溶接 アルミ・銅

機械系事業

産業機械 建設機械 エンジニアリング

電力事業

電力供給

各拠点の活動やスポーツを通じた社会への貢献

CSR活動

品質管理

安全

防災

私たち神戸製鋼グループに属する全社員は、「KOBELCOの3つの約束」を果たすために、以下を宣誓します。

1 高い倫理観とプロ意識の徹底

私たちは、法令、社内ルール、社会規範を遵守することはもちろんのこと、高い倫理観とプロとしての誇りを持って、公正で健全な企業活動を行います。

3 働きやすい職場環境の実現

私たちは、安全で安心して働くことができる職場環境を実現します。また、一人ひとりの人格・個性・多様性を互いに尊重し、それぞれが最大限の能力を発揮して生き活きと働ける職場環境を実現します。

5 環境への貢献

私たちは、より豊かで住みやすい社会づくりを目指して、環境に配慮した生産活動を行い、技術・製品・サービスで環境に貢献するよう努めます。

2 優れた製品・サービスの提供

私たちは、安全かつ安心で、優れた製品・サービスを提供し、社会に貢献します。

4 地域社会との共生

私たちは、グループの基盤である地域社会に貢献するよう努めます。

6 ステークホルダーの尊重

私たちは、顧客、取引先、社員、株主等を含む幅広いステークホルダーを仲間として尊重し、健全かつ良好な関係を築きます。



TOP MESSAGE

**神戸製鋼グループの社会に対する約束事
「KOBELCOの3つの約束」のもと、
グループ一丸となって持続的に発展すると共に、
環境と社会に貢献していきます。**

神戸製鋼グループは新しい価値の創造とグローバルな成長を目指しています。

その目標に向けてどのような考え方で事業を展開していくのか。

また、どのようにCSR活動に取り組んでいくのか。


(株)神戸製鋼所 会長兼社長・川崎博也がお話しします。

幅広い分野にわたる複合経営で、 事業を通じた環境・社会貢献活動に 取り組みます。

神戸製鋼グループは1905年の創立以来、幅広い分野でものづくりを進め、優れた技術や製品を提供することで、環境や社会に貢献してきました。現在の事業領域は鉄鋼、溶接、アルミ・銅などの素材系事業、産業・建設機械、エンジニアリングなどの機械系事業、そして電力事業と多岐にわたっています。このように多くの事業で構成される複合経営を展開していることが、当社グループの大

きな特長です。

2016年度に策定した当社グループの中長期経営ビジョン「KOBELCO VISION “G+” (ジープラス)」において、2020年度、さらにそれ以降を見据え、「輸送機の軽量化」「エネルギー・インフラ」の2つを成長分野として設定しました。2つの成長分野は、当社グループが事業を通じて社会の課題解決に貢献していく中心的な分野でもあり、「素材」「機械」「電力」の3本柱の事業でこの成長分野に注力していきます。



株式会社 神戸製鋼所
代表取締役会長兼社長

川崎博也

自動車の軽量化による、 CO₂排出量削減に貢献します。

輸送機は環境負荷低減のため、ますます軽量化ニーズが高まっています。当社グループは自動車分野において、軽くて強い超ハイテンやアルミ製品を通じて軽量化に貢献しています。アルミ事業では、国内で板材、米国で鍛造品の製造設備増強を決定し、さらに米国で新たに押出・加工品の製造・販売拠点を設立しました。また、世界最大手のアルミ板圧延企業である米国ノベリス社と、韓国に板母材の製造拠点となる合弁会社設立を決定しました。

今後も超ハイテンやアルミ製品の高機能化を推し進めると共に、鉄とアルミの接合を軸としたマルチマテリアル化提案を通じて、自動車メーカーの軽量化ニーズに応えていきます。

水素関連ビジネスと電力事業などで、 「エネルギー・インフラ分野」に注力します。

「エネルギー・インフラ」分野では、水素関連ビジネスに注力しています。水素ステーションの実運用に近い形でさまざまな運転パターンの検証が可能な「水素ステーション総合テストセンター」を昨年設置、市場ニーズに合った製品

開発を進めています。今年2月には国内メーカーでは初となる、米国の定置式水素ステーション向け水素圧縮機と関連機器も販売開始しました。水素ステーション向けユニットの開発を進め、国内外の燃料電池車の需要拡大に備えていきます。

最後に電力です。2002年から電力卸供給事業として本格的にスタートした神鋼神戸発電所に加え、栃木県真岡市に125万kWのガス火力発電所を建設中で、2019年から2020年にかけて稼働予定です。神戸においても、地域の皆様のご理解を得ながら、2021~2022年度稼働に向けた新たな発電所建設のプロジェクトが進んでいます。電力の安定供給に貢献する第3の事業の柱として、基礎を固めていかなければなりません。

国内・海外で社員が積極的に 多彩な社会貢献活動を行っています。

国内の各事業所では、地域の子供たちへの楽器・教材の寄贈や、道路の清掃活動、お祭りやイベントの開催など、地元貢献するさまざまな活動を積極的に行っています。海外の事業所でも現地の文化や慣習を尊重しながら、学校への学用品の寄贈や募金活動などの社会貢献活動を行っています。

2013年度からスタートした「KOBELCO GREEN PROJECT」では、グループ社員が主体的に行う森林整備活動や、児童館出前エコ教室などの環境貢献活動を推進しています。また、子ども達に自然を大切にすることを育んでもらう「KOBELCO森の童話大賞」は2016年度で4回目を迎え、全国の小中高生から寄せられた作品から選ばれた金賞受賞作が絵本化され、後援自治体の学校や図書館に寄贈されています。

ラグビーをはじめとするスポーツを通じた社会貢献も、当社グループのCSR活動の一環です。ラグビーの裾野拡大と高校生ラガーの育成・強化を目的に高校ラグビーを支援しています。花園大会の特別協賛や合同チームによる夏の大会「KOBELCO CUP」の開催により、男子・女子ラグビーの支援を行い、2019年のワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピックなどに向けた日本のラグビーの振興に貢献しています。

社会に対する約束事であり、 グループで共有する価値観である 「KOBELCOの3つの約束」。

企業が一定の収益を確保し、成長し続けるためには、取り巻く環境の変化に適応し、常に変革を遂げていくことが求められます。企業が変わるということは、企業を構成する社長、

▶ 「KOBELCOの3つの約束」

- | | | |
|-------------------------|---------------------------|-------------------------|
| 1 信頼される技術、製品、サービスを提供します | 2 社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊びます | 3 たゆまぬ変革により、新たな価値を創造します |
|-------------------------|---------------------------|-------------------------|

▶ 「KOBELCOの6つの誓い」

- | | | |
|-----------------|-----------------|----------------|
| 1 高い倫理観とプロ意識の徹底 | 2 優れた製品・サービスの提供 | 3 働きやすい職場環境の実現 |
| 4 地域社会との共生 | 5 環境への貢献 | 6 ステークホルダーの尊重 |

役員、社員を含む全ての人が、現状に安住することなく、絶えず「変わり続ける」必要があるということです。

当社グループは昨年、中長期経営ビジョン「KOBELCO VISION“G+”」として「素材」「機械」「電力」の3本柱の事業体確立を目指した新中期経営計画をスタートしました。現在、その達成に向けたさまざまな戦略的な取り組みを推し進めており、これらが随時実行段階に入る重要な局面に差し掛かっています。

また、変化の激しい時代、かつ多様な価値観が存在する中で、当社は「働き方変革活動」や「ダイバーシティの推進」などの取り組みも開始しています。

このような状況において、改めてグループ全体の「核」となる価値観を共有し、グループ全員の思いを一つにする拠り所が必要と考えました。このため、2006年に策定した「企業理念」に今一度立ち戻り、グループ全員でこの価値観を意識・共有するための取り組みを開始することとしました。

そして、企業理念を、CSR、コンプライアンス、安全、品質管理などを含めた全ての企業活動に落とし込み、グループ内外に浸透させていくことによって、当社グループの持続的発展および企業価値向上を目指します。

今回、グループ全体の理念であることを分かりやすく示すため、「企業理念」を「KOBELCOの3つの約束」と呼ぶことに変更します。3つの約束は、当社グループの社会に対する約束

事であり、グループ全体で共有する価値観を示しています。

「KOBELCOの3つの約束」を実現するための、役員・社員全員の行動規範を策定しました。

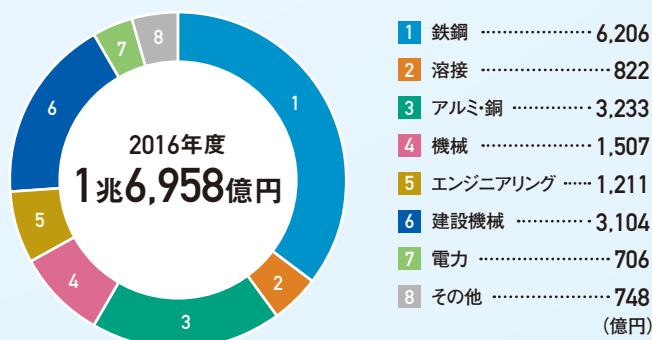
「KOBELCOの3つの約束」を果たすために、全社員が守るべき誓いとして「KOBELCOの6つの誓い」を新たに作り、全社員の行動規範としました。今後、この「KOBELCOの3つの約束」と「KOBELCOの6つの誓い」について、私自身の言葉で社員に語りかけ、対話をしていきます。私が最も大切にしている言葉である「行動」、すなわち「行って相手を動かせ、行けば相手は動いてくれる」を実践し、信念を貫く覚悟でこの活動に取り組みます。

社長も社員も一つになって、「誇り」「愛着」「魅力」あふれる企業集団を作り上げ、当社グループの持続的発展に向けた変革活動として「KOBELCOの約束 Next100プロジェクト」と名付けた次の100年に向けた活動を開始します。これからの神戸製鋼グループに、ご支援・ご鞭撻のほど、お願いいたします。

▶ 神戸製鋼グループの概要 [2017年3月31日現在]

会社名	株式会社神戸製鋼所
英文社名	Kobe Steel, Ltd.
グループブランド	KOBELCO
創立	1905年9月1日
設立	1911年6月28日
社長	川崎 博也
資本金	2,509億3,003万3,900円
売上高	連結：1兆6,958億円
従業員数	連結 36,951人 単体 11,034人(出向者を除く)
連結子会社および持分法適用関連会社	213社

▶ グループ事業別売上高(連結)



(注) 上記円グラフの各事業の売上高の合計から、各事業間の内部売上高などの消去額582億円を差し引いた金額が、連結売上高の合計額1兆6,958億円となります。



仕事とくらしが
共に充実する、
新しい生き方・働き方を
追求します。

代表取締役副社長 執行役員

梅原 尚人

Naoto Umehara

特集 | KOBELCO流

“働き方改革”

全ての社員が
イキイキと活躍できる
職場環境を目指して

一億総活躍社会を目指し、政府が推進する「働き方改革」。
多様な働き方を可能にし、社会に新しい活力を生むこの施策に、
神戸製鋼グループは「スタッフ働き方変革活動」として取り組んでいます。
この活動の目的や、日常業務を改革する KOBELCO流の仕事術など、
社員の目線で取り組む神戸製鋼グループ独自の
働き方改革をご報告します。

一人ひとりに新たな活力を
生む、これからの職場環境を
目指して。

神戸製鋼グループでは、優秀な人材の
確保・定着のために、年休取得の向上や
仕事と家庭の両立など就労環境の整備
を進めてきました。2016年度からは、業
務の効率化による時間創出、社員一人ひ
とりの時間の使い方の筋肉質化を目指
し、「スタッフ働き方変革活動」(以下、働
き方変革活動)を本格的にスタートさせて
います。

働き方変革活動は、「ワークスタイル変
革」「就業ルール変革」「業務変革」の3
本柱で構成されます。その最大の目的
は、社員一人ひとりの仕事と個人生活が
充実することです。働き方変革活動によ
り、生産性の向上や残業費などのコスト

■ 「スタッフ働き方変革活動」の全体像



Work Style Reform

ダウン、優れた人材の確保など、経営的に大きなメリットが期待できるでしょう。しかし、それは社員が働きやすい職場環境づくりの結果です。神戸製鋼グループにとって、最大の財産は「人」です。一人ひとりの仕事とくらしを共に充実させることが、いい仕事の源泉となり、経営的にも価値を生むのです。

定例会議の総時間を、 1年間で約3割削減しました。

これまで当たり前と思っていた業務の習慣を見直してみると、いかに無駄な時間を費やしていたかがよくわかります。時間だけを使って結論が見えない定例会議や、業務時間の2~3割を占めるメールの読み・書きなど、働き方変革活動では KOBELCO 流のルールを設け、無駄

な時間を徹底的に棚卸しします。その結果、2016年度の定例会議の総時間は、2015年度の57.6万時間から40.7万時間へと、16.9万時間の削減に成功しました。

新しいルールを浸透させるため、全スタッフを対象としたセミナーやe-ラーニング、社内イントラネットの活用など、さまざまな施策を実行に移しています。また、女性の採用比率の倍増や、入社15年以上の女性総合職の退職率の半減、ゼロ歳児を持つ男性社員の「育児のための特別休暇」取得の奨励など、ダイバーシティの推進にも全社を挙げて取り組んでいます。

**多様な社員が
やりがいを持って働ける、
知恵の時代が始まります。**

高度成長期やバブルの時代、大量生産や大量消費、それらを支える長時間の残業が日本の経済大国化を実現しました。現在は、あの時代とは異なり、企画や発想、ソリューション能力が重要視されます。新しい価値を生み出す知恵を創造するためにも、一人ひとりにゆとりの時間が必要なのです。

働き方変革活動は、神戸製鋼グループがモノづくりからコトづくりへ進化するために、多様な社員にやりがいを持って働いてもらう原動力になると考えています。そのためには、ある程度の例外も必要です。あまり型にはまったルールではなく、業務の事情に応じてしなやかに対応できる環境を整備することが、成功につながるのではないのでしょうか。

「働き方変革活動」

“BEFORE AFTER”

神戸製鋼グループの「働き方変革活動」では、業務の無駄をなくし時間を創出するKOBELCO流の会議やメール術、19時以降の残業を原則禁止する就業ルール変革などを推進しています。時間を創出するKOBELCO流スキルとはどのようなものか?活動によりどのような成果が上がったのか?「働き方変革活動」のBefore Afterをご紹介します。

KOBELCO流会議

「とりあえず会議」をなくし、会議時間は基本50分、最大80分に。

これまでの会議には、目的がはっきりせず、時間割やゴールが曖昧なまま長時間かける「とりあえず会議」がありました。「働き方変革活動」では、新しい会議のルールとして、これまでの会議の問題点を整理した「5つのファウル」、より良い会議にするための「5つのトライ」を設定。会議時間は基本50分で最大でも80分、会議中に議事録を付けるなどの改革が功を奏し、会議時間の大幅な削減を実現しました。

定例会議(年間)の削減
57.6万時間(2015年度)

40.7万時間(2016年度)
(△16.9万時間)

KOBELCO流メール

要点をすばやく的確に伝える、メールのルールとテクニック。

現代の仕事になくてはならないツールとなったメール。しかし、メールを読む・書く・探す手間はばかにならず、業務時間の2~3割がメール関連に費やされていました。「働き方変革活動」では、これまでのメール業務を分析し、速く、正確に、有効にメールを使いこなすための10ヶ条のルールを抽出。KOBELCO流メール術として浸透を図っています。

Before メールを読む・書く・探す時間に、業務時間の2~3割が費やされていました。

思いついたままに文面を作るため、要点が伝わりにくく、返信が必要か否かもはっきりしませんでした。

××さんからのメールの通り、5日の会議の資料に必要なデータが揃うのが来週になりそうですが、どうしましょうか?またもう1件のデータを添付します。グラフの体裁や表の内容などに違和感がないでしょうか。折れ線よりも棒グラフもよいかもしれないと考えたのですが、いったん折れ線グラフにしています。また、先日の件も今度相談させていただきます。ご確認よろしくをお願いします。

After

10ヶ条のルールで、メールは時間を生み出すツールになる。

「ぱっと見て内容・趣旨や返信の必要性・納期がわかる件名を」「冒頭に結論・要旨」など10ヶ条のメールルールを制定。もし2割の効率化ができれば、年間100時間もの時間を捻出できる試算となりました。

〇〇さん
さて、5日の会議の資料作成にあたり、下記2点質問です。10月6日までに回答をお願いいたします。

- 記
- ①資料の納期はいつですか?
●必要なデータの1つが来週提出でよいかと確認ありました。
●納期が今週中のようにしたら急いで作成してもらいます。
- ②もう1件のデータの内容(添付)のグラフは、折れ線グラフで違和感はないですか?
●棒グラフだと少し見づらいため、折れ線にしました。
以上、よろしくをお願いします。

就業ルールの変革

19時以降の残業原則禁止を、2016年度より実施。

19時以降の残業を原則禁止とし、業務上の理由で19時以降も就業せざるを得ない場合は事前に就業管理者に「時間外申請書」を提出し、了解を得た上で勤務する就業ルール変革を、2016年度より実施しています。

Before 忙しいのだから、残業や休日出勤は当たり前。

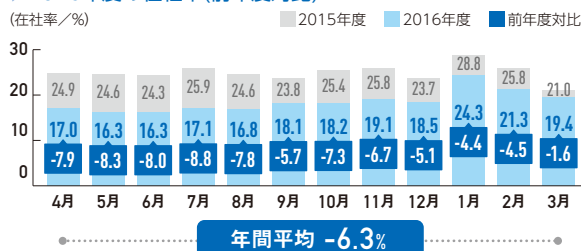
これまで、残業を正当化する意識がありました。しかし、本当に残業しなければ仕事が追いつかなかったのでしょうか?

After

仕事の段取りの効率化や上司とのコミュニケーションで、19時までにテキパキ仕事。

19時以降の残業を原則禁止にした結果、これまで時間がかかっていた業務を効率化し、上司や同僚とのコミュニケーションも良くなりました。作業の段取りや工夫により、残業しなくても済む仕事が多かったのです。2016年度は全社で19時以降の在社率を前年度対比6.3%減らすことができました。

▶ 2016年度の在社率(前年度対比)



全社で19時以降の在社率が
前年度対比6.3%減少



社内コミュニケーションの活性化

職場内での呼び名は、
役職名ではなく「〇〇さん」で。
社内のコミュニケーションが
スムーズになりました。



時間創出の取り組みには、コミュニケーションの活性化が不可欠です。社内のコミュニケーションを活性化するため、メールや職場内での呼び名を、役職名ではなく「〇〇さん」付けを推奨しています。あくまで「推奨」ですが、役員・管理職は職場のコミュニケーションを活性化するため「さん」付けを率先して実施しています。

専用サイトの開設

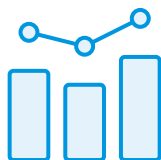
イントラネットで、
働き方変革活動を
浸透させています。



イントラネットに「働き方変革サイト」を開設。KOBELCO流会議ガイドや会議の実態に関するアンケート結果に加え、効率的な活動のヒントとして時間管理術や発想術などの資料を掲載しています。また、各部署の活動担当推進者向けのセミナーも実施しています。

コンサルタント導入

3つの「力」で、個人と組織の
より高い付加価値を
創造します。



働き方変革活動の実践にあたり、さまざまな企業や自治体実績のある専門のワークスタイルコンサルタントを招へいしています。「働き方変革活動」が成果を上げ、定着するために

- (1) 政治力 … トップの強いコミットのもと、組織・職制を通じて取り組みを推進する
- (2) 論理力 … 精神論ではなく、明確なハウ・ツーやフレームワークを共有し、効率的・効果的に進める
- (3) 心理力 … 一人ひとりの取り組み意欲を高め、維持するべく、活動趣旨の浸透や気持ちを盛り上げる工夫を行う

以上の3つの「力」を重視し、各職場での活動を推進しています。

女性の活躍支援

ダイバーシティを追求する、
神戸製鋼グループ
「女性社員のネットワーク」。



女性の活躍を支援する動きはグループ内に広がっており、グループ会社の女性社員同士で交流を図っています。

●(株)神鋼環境ソリューション

女性社員同士のネットワーク形成支援を目的に、「女性交流・勉強会」を毎年開催しています。神戸製鋼から女性管理職を招き、結婚、出産・育児や仕事と家庭の両立を図る中で直面した課題など、実体験を交えた話に参加者たちは熱心に耳を傾けていました。

●(株)神鋼エンジニアリング&メンテナンス(神鋼EN&M)・コベルコ建機(株)

2016年10月、神鋼EN&Mとコベルコ建機は、合同で女性社員交流会を初めて開催しました。両社は、ダイバーシティ推進において、技術系女性社員や女性総合職の就業継続を支援しており、両社が共通の課題に取り組む場として交流会が実現しました。

Work Style Reform

特集 | KOBELCO流「働き方改革」

社員が実践！これが、KOBELCO流 “WORK STYLE”

神戸製鋼グループは、「働き方変革活動」に取り組む前から、ダイバーシティ推進室を設置し、多様な社員の生き活きとした働き方を応援してきました。男性社員の育児休業や女性の活躍促進、会議の効率化など、KOBELCO流の「働き方改革」を実践する、社員たちのワークスタイルをご紹介します。



家族にも会社にも、頼られる存在を目指します。

2016年9月、3人目の子どもが生まれた時、1ヶ月間の男性育児休業を取得しました。上2人の子供がまだ3歳と2歳で身の周りの世話が必要だったため、料理や洗濯などの家事全般に加え、保育園の送迎や遊び相手を担当しました。

Muneaki Ikeda

鉄鋼事業部門技術開発センター
薄板開発部薄板開発室 池田 宗朗

育児休業にあたっては、業務分担やマンパワーの調整が必要になることから、取得の5ヶ月前には上司にその意思を伝えていました。その後、担当業務の変更により重要案件を担当することになり、躊躇もあったのですが、上司が「家族を大切にすることが第一」と声をかけてくださり、取得に踏み切りました。

実際に育児を行って実感したのは、子育てと開発業務は似ているということです。親の希望通りに子どもが行動してくれないように、ラポレベルでうまくいったことが、実際の工場のラインでは思い通りになりません。ただ、忍耐強く付き合えば、子育てもラインも必ず問題は解決できると信じています。仕事と育児の両立はまだ道半ばですが、いつかはいずれからも頼られる存在になれるようにがんばります。

育休取得が、仕事のタイムマネジメントを教えてくださいました。

育児休業を取得したきっかけの一つ目は、過去に、仕事と育児のバランスに苦心しながらも、限られた時間の中でどちらとも両立している上司の姿を見た経験から、将来、自分に子どもができた時にも、そのようにありたいと考えたことです。また二つ目は、妻とは常々、お互いのビジネスキャリアを維持しようと話をしていたことにあります。

2015年12月に子供が誕生した際、翌年4月に子どもが保育園に入園するまでの、2月～3月末までの2ヶ月間育休を取得しました。いざ育休を取得する直前になって、ちょうど担当していた市場が活況を迎えていたこともあり、改めて迷いが生じました。ですが、同じ

時期に「育休取得によって男性が得られる経験や学びは多い」との話も聞き、決断することができました。

現在も、育児や家事には継続して関わっています。フレックス制度を利用して、朝早く出社し、夕方に保育園に迎えにいらしています。育児・家事と仕事を両立するためには、タイムマネジメントやマルチタスクの遂行といった観点が不可欠です。より効率的な仕事の進め方を、育休が教えてくれました。

Sadamu Sasaki

機械事業部門
機器本部営業部 佐々木 勘



■ 神戸製鋼グループの「働き方変革活動」は、社外からも高く評価されています。

「健康経営銘柄」に3年連続で選定

「健康経営銘柄」は、従業員への健康保持・増進活動を推進する企業を、経済産業省と東京証券取引所が共同で認定するものです。神戸製鋼は3年連続で「健康経営銘柄」に選定されました。2016年度は726社の応募企業のうち、当社を含む24社が全国から選ばれました。



健康経営優良法人(ホワイト500)も同時受賞

神戸製鋼は、2017年度から経済産業省でスタートさせた「健康経営優良法人認定制度」の基準を満たしたとして、健康経営優良法人2017に認定されました。当社は、健康経営の取り組みを「見える化」し、従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んだこと、また環境が整っていることが評価されました。



大切なのは、 色々な人の考え方や 価値観を受け入れること。

私はダイバーシティについて社員に知ってもらおう仕事をしています。さまざまな研修や交流会の企画、福利厚生 NEWSの発行、グループ報での記事の掲載、ダイバーシティ推進サイトの更新など、自分の仕事が神戸製鋼のダイバーシティの推進につながっていることにやりがいを感じています。

多様な社員が生き生きと働けるようにするためには、「色々な人の考え方や価値観を受け入れること」が大切だと思います。異なる考え方に会った時、それを否定してしまうのではなく、相手の状況

Noriko Kimura

人事労政部ダイバーシティ推進室
木村 紀子



や気持ちを想像し、立ち止まって考えてみる。また、家族や友人と過ごす時間など、仕事以外の時間をしっかり持つことで気持ちにゆとりが生まれ、自分と異なる価値観も受け入れることができると思います。「働き方変革活動」などを通して残業時間が減り、一人ひとりが仕事以外の時間をしっかり持つことができれば、より良い職場づくりはよりスピード感を持って進むのではないのでしょうか。

Work Style Reform

会議中に、リアルタイムで議事録をつくる。

私は会議での議事録の作成を担当していますが、その作り方が会議の効率化に役立っています。まず、参加者にメールで時間割や課題を記載した会議案内を送信し、会議が始まったらそのメールに直接、会議内容を打ち込みます。そして会議終了後10分以内に再び参加者にメールを送る。それをもって議事録とするのです。

スピーディーでわかりやすい議事録作りにはコツがあります。たとえば、事前に課題に関する資料を読み込んでおく。会議中もモニターで議事録作成をリアルタイムで映し出し、その場の全員が会議の過程を共有する。会議中の発言は青、決まったことは

赤など、わかりやすく色分けする…など。最初のうちは時間内にまとめきれず、「すみません、あとで送らせてください」と言ったこともありました。いまでは議事録作りも上達し、会議の時間短縮に貢献しています。

Yuki Tokunaga

機械事業部門 企画管理部
徳永 優希



「なでしこ銘柄」「準なでしこ」に選定

「なでしこ銘柄」とは、女性活躍推進に優れた企業を選定・発表する事業として、2012年度より経済産業省と東京証券取引所が共同で実施しています。2015年度は、上場企業約3,500社から神戸製鋼をはじめ45社が選定。神戸製鋼は初の選定でした。2016年度は「準なでしこ」に選ばれています。



次世代認定マーク「くるみん」を2度取得

仕事と生活の両立を図るための環境整備への取り組みが評価され、子育てを積極的にサポートする企業に与えられる次世代認定マーク(愛称「くるみん」)を2度(2012年、2015年)取得しています。

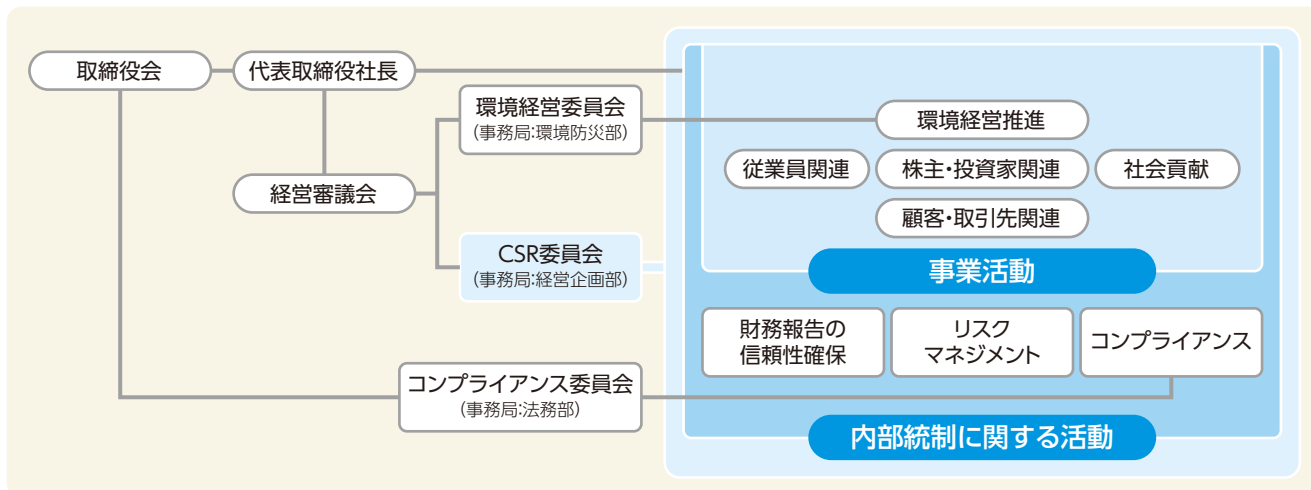


コーポレートガバナンス

CSR推進体制

企業としての社会的責任(CSR)を果たすため、神戸製鋼グループでは「CSR委員会」を中心に以下の推進体制をとっています。

▶ 推進体制図



神戸製鋼グループのCSRに関する基本方針の決定およびその活動を集約する機関として、2006年より「CSR委員会」を設置しています。

また、取締役会の諮問機関として「コンプライアンス委員会」

を設置しており、重要事項に関する審議・提言・進捗確認を行っています。

「CSR委員会」は、これらのCSRに関する活動を取りまとめ、「神戸製鋼グループ環境・社会報告書」として発行しています。

コーポレートガバナンスの強化と充実

神戸製鋼グループは、監査等委員会設置会社への移行や、独立社外取締役会議の設置など、コーポレートガバナンスのさらなる強化と充実を図っています。

1. 経営機構の考え方(経営機構、経営の委任範囲)

需要分野、事業環境、商流、規模などが異なる広範囲なセグメントによる複合経営を進め、そのシナジー効果を発揮させることが神戸製鋼の企業価値の源泉であり、持続的成長の礎となる技術開発やイノベーションの追求は、現場と一体となった議論無くしては達成できないと考えます。

さらに、複合経営の推進には、多岐にわたる事業に対するリスク管理や経営資源の分配などにつき、活発な議論や適切な意思決定と同時に、機動的な業務執行の監督を取締役会が行

うことが必要であり、そのためには、監督と執行を完全には分離せず、業務執行側に対する正しい理解を持ったメンバーが取締役会に参画することが望ましいと考えています。

こうした考えのもと、神戸製鋼はこれまで、幅広い事業に対する充実した監査を行うために、監査役がそれぞれ調査権限を持つ監査役設置会社を選択してきましたが、監督機能のさらなる強化、経営に関する意思決定の迅速化を図るため、監査等委員会設置会社に2016年6月に移行しました。

2. 取締役、取締役会の体制

① 取締役(監査等委員である取締役を除く。)

取締役(監査等委員である取締役を除く。))は、定款上の員数である15名以内とし、取締役会における実質的な議論を確保しつつ、取締役の多様性にも配慮した適切な人数で構成しています。

会長、社長の他、本社部門、事業セグメントおよび技術開発部門を統べる業務執行取締役などをメンバーとします。

ただし、活発な議論や適切な意思決定と監督をより高めるためには、社外の公正中立な視点や少数株主をはじめとするステークホルダーの視点を反映することが不可欠であるため、社外取締役を複数名招聘することを基本としており、現在、監査等委員でない社外取締役を2名招聘しています。(この2名以外に監査等委

員として3名の社外取締役を招聘しています。)

この社外取締役は、毎月開催される取締役会へ出席し、会社の持続的な成長のために必要な社外の公正中立な意見や少数株主をはじめとするステークホルダーの意見を踏まえた適切な助言と、こうした観点に基づいた議決権の行使、取締役会の監督、会社と経営陣の間の利益相反の監督の役割を担います。

② 監査等委員である取締役、監査等委員会の体制

監査等委員会設置会社である神戸製鋼は、会社法上の監査等委員会に関する規定(非業務執行取締役3名以上、そのうち過半数を社外取締役とする)に対し、透明性・公正性が担保され、広範囲な事業セグメントを持つ複合経営に対し十分な監査機能が

果たされるよう、監査等委員会を社内委員2名、社外委員3名の5名で構成することを基本としています。

また、会社法上、常勤の監査等委員の設置義務はありませんが、監査等委員会の決議により社内の監査等委員を常勤に指名することで、充実した監査が行えるようにしています。

また、社内の監査等委員は経営陣と監査等委員会との連絡、内部監査部門に対する指示・統制を担い、社外の監査等委員は、監査に対する専門的な知見の提供および公正性を担保する機能を担います。こうした機能を果たすため、社外の監査等委員は、監査に必要な知見を提供できる法曹界、金融界、産業界等幅広い分野から招聘します。

加えて、監査等委員には、常に財務および会計に関する相当程度の知見を有するものを配し、監査の実効性向上に配慮しています。

③取締役会と執行機能

取締役会は、重要な業務執行その他法定の事項につき審議・決議と業務執行の監督を担います。

ただし、取締役会が迅速な判断を阻害しないよう取締役会での審議基準を定め、一定の範囲で社長以下の業務執行の責任者に権限を委譲します。加えて、業務を執行する取締役を補佐する者として執行役員をおき、経営の委任と迅速な経営判断の実施ができる体制とします。取締役および執行役員の任期は、変化の激しい経営環境に機敏に対応するため、1年とします。

④独立社外取締役会議

神戸製鋼は、独立社外取締役の機能を最大限に活用すべく、経営陣の指名や報酬に対する客観的な意見の聴取、その他業務執行に関する情報の提供の場として独立社外取締役会議を設置しています。

独立社外取締役会議は独立社外取締役のみで構成され、定例会議を四半期に1度、その他必要に応じ臨時会議を開催します。

独立社外取締役会議には、適宜、業務執行取締役等が出席し、情報提供・意見交換を行います。

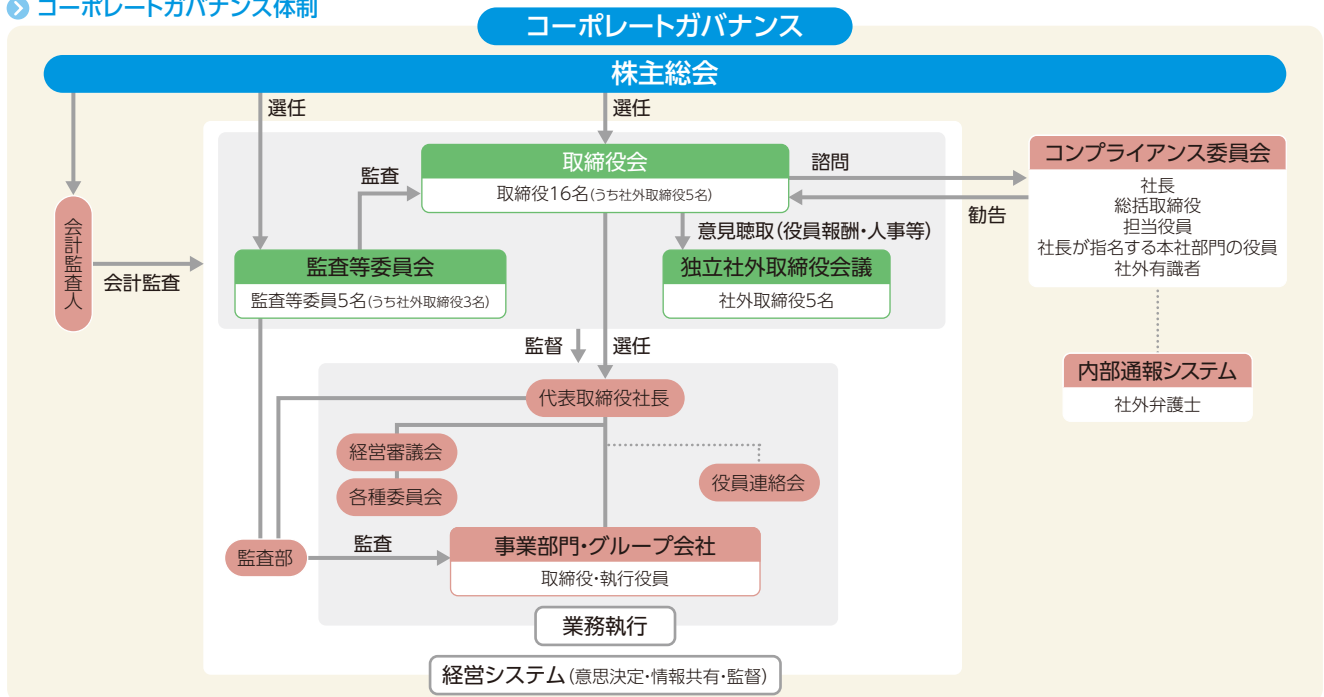
なお、監査等委員会、内部監査部門、内部統制部門との情報共有などを図るため、独立社外取締役会議の事務局を経営企画部が担い、これを監査部、人事労政部がサポートすることとしています。

⑤取締役会実効性評価

取締役会全体の実効性については、事業年度ごとに、各取締役に対するアンケートおよびアンケート結果に対する監査等委員会による一次評価を経たうえで取締役会において議論・評価を行い、課題の抽出を実施します。アンケート項目等については、毎事業年度の評価結果をもとに、取締役会において内容を見直すこととします。また、監査等委員会による各取締役に対するヒアリングは、この評価結果に基づいて行います。

なお、評価結果の概要については、当社ホームページで毎年度開示します。

コーポレートガバナンス体制



3. 取締役候補者の選定の考え方、役員報酬の考え方

神戸製鋼は、取締役が株主から負託を受けた役割を果たすために必要な資質に関する考え方および独立役員の基準を定めており、取締役候補者は、この考え方に沿って指名しています。

また、役員報酬については、中長期的な企業価値向上を図る上で、各々の役員が果たすべき役割を最大限発揮するため

のインセンティブとして機能するよう、基本報酬と、単年度の業績目標達成度に連動する業績連動報酬、ならびに企業価値向上に対する価値観を株主と共有することを目的とした株式報酬で構成しています。

※これらのコーポレートガバナンスに関する考え方、取り組みについては、「神戸製鋼所のコーポレートガバナンスに対する基本的な考え方、取組み」として当社ホームページ (<http://www.kobelco.co.jp>) 企業情報欄の「コーポレートガバナンス」に掲載しています。

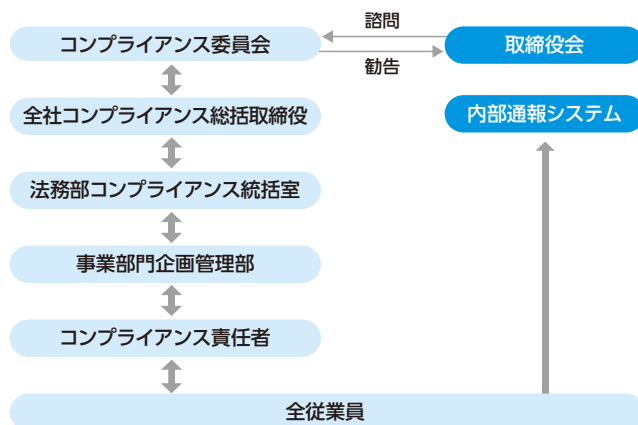
コンプライアンスの強化・徹底

神戸製鋼は、コンプライアンスを企業存立の大前提であると考えます。これからも経営陣が先頭に立ち、コンプライアンスの定着のための諸施策を推進していくことにより、コンプライアンスに対する“感度”が高い組織文化を持った企業グループを目指します。

コンプライアンス体制

神戸製鋼は、取締役会の諮問機関として「コンプライアンス委員会」を設置しています。社長を委員長とする社内委員3名に対し、公正中立な立場の社外委員が5名と過半数を占める同委員会では、コンプライアンス活動計画の立案および進捗状況の確認、「内部通報システム」への通報事案に関する審議などを行っています。

また、「**全社コンプライアンス総括取締役**」「**全社コンプライアンス担当役員**」、専門部署としての「**法務部コンプライアンス統括室**」を設置し、事業部門の企画管理担当部署や各部署に設置する「**コンプライアンス責任者**」と連携しながら取り組みを行っています。



コンプライアンス教育

神戸製鋼は、役員およびグループ会社の経営幹部を対象とした「**コンプライアンストップセミナー**」をはじめ、各階層別研修にコンプライアンスに関する内容を織り込み、社員がキャリアの節目ごとに幅広く研修を受ける機会を設けています。特にコンプライアンス責任者に対しては、毎年研修を受講することを要請しています。また、法令教育e-ラーニングを毎年実施し、全社員がコンプライアンスへの理解度を確保する機会としています。



▲ コンプライアンストップセミナー

コンプライアンス・マニュアルの整備

神戸製鋼は、「**企業倫理綱領**」の「**企業行動基準**」に記載された各項目について、より詳しく説明した「**社員のための行動手引き**」を作成し、全社的なコンプライアンス・マニュアルとして社員に配布しています。このマニュアルは、後述のリスク管理活動で全社が共有する「**共通リスク**」の項目と連動しており、リスク管理活動の基本マニュアルにもなるものです。



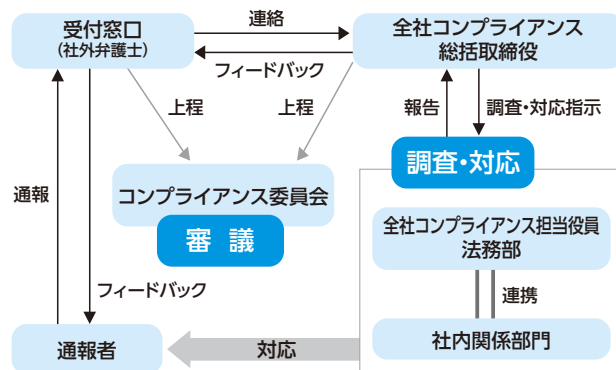
さらに、独占禁止法、下請法、個人情報保護法、安全保障貿易管理などの個別の法令マニュアルも整備し、社員が業務の中で疑問に思ったことを参照しやすい形で整理しています。

各種詳細マニュアル

- 独占禁止法遵守マニュアル
- 下請法遵守マニュアル
- 知的財産情報イントラネット
- 個人情報管理マニュアル
- 企業秘密管理マニュアル
- 安全保障貿易管理イントラネット
- 企業対象暴力対策マニュアル
- 公務員との付き合い方マニュアル
- セクシュアルハラスメント防止マニュアル

内部通報システム

法令・倫理などのコンプライアンス違反によるリスクの顕在化・拡大を未然に防止し、また早期に問題を把握し、対策を講じるためのしくみとして、「**内部通報システム**」を設置しています。これは、社内において法令に違反するような不正行為を発見した場合、中立的な立場にある弁護士会推薦の弁護士（社外弁護士）を受付窓口として通報できるようにしたものです。通報内容はコンプライアンス委員会で審議され、適切な対応につなげるしくみとしています。また、グループ各社にも展開し、有効に活用していきます。

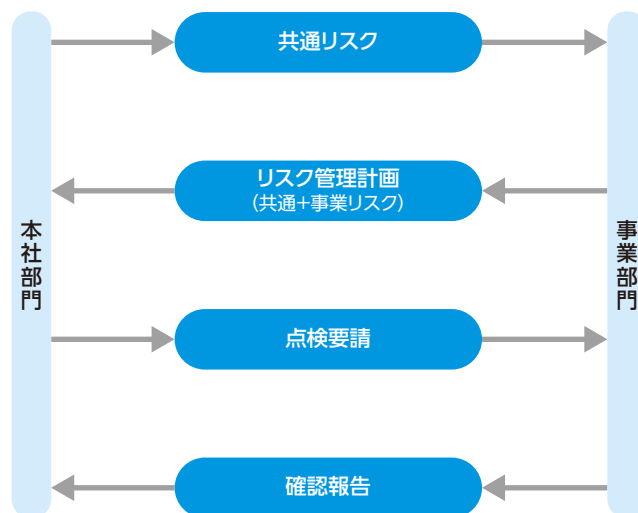


リスク管理活動

神戸製鋼グループは、自らの部署のリスクを、自らが点検し、改善につなげていくという「リスク管理活動」に取り組んでいます。

この活動は、本社部門が、法令や社会の変化を踏まえた上で発信した全社の「共通リスク」に基づいて、各部署が独自の「事業リスク」も加えて、「リスク管理計画」を策定し、事業の中で実行していくというものです。また、年度末には、一年間の活動結果を経営トップも含めた事業部門、部署の責任者が点検・確認して、次年度以降の取り組みにつなげています。

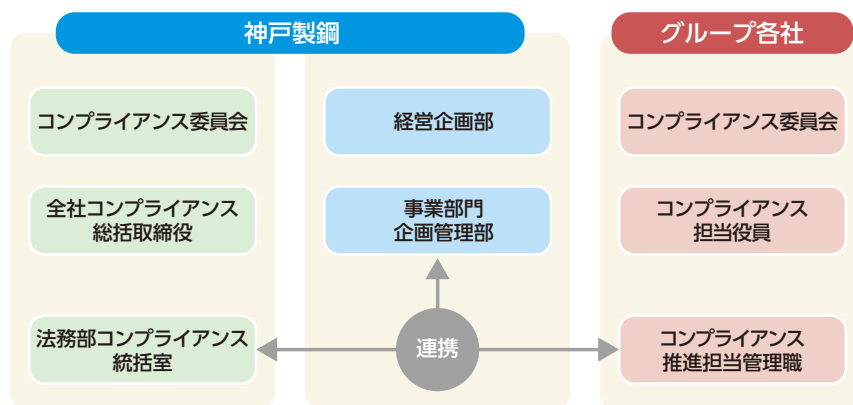
すなわち、各事業部門の中で、コンプライアンスも含めたリスク管理のPDCA(Plan, Do, Check, Action)のサイクルが回るしくみとし、この取り組みを継続することで、それぞれの事業の中に、コンプライアンスに対する「感度」が高い組織文化が定着することを目指しています。



グループでの取り組み

神戸製鋼グループは、グループ各社において、コンプライアンス委員会などの設置、「企業倫理綱領」の制定に加え、内部通報システムを導入しています。各社には「コンプライアンス担当役員」と「コンプライアンス推進担当管理職」を設置し、神戸製鋼と連携しながら各社での取り組みを進めています。

また、グループ会社においても、神戸製鋼と同様に、リスク管理活動に取り組んでいます。



「KOBELCOの3つの約束」と「KOBELCOの6つの誓い」の浸透を図り、全社員がコンプライアンスに対する高い“感度”を持って、社会の“信頼”に応えます。

全社コンプライアンスの総括 代表取締役副社長執行役員 梅原 尚人

神戸製鋼グループでは、法令や社会規範の遵守なくして企業の存立はあり得ないとの認識の下、コンプライアンスを経営の最重要課題の一つと位置付け、その徹底に取り組んでおります。

今般、グループの全社員が守るべき行動規範として「KOBELCOの6つの誓い」を制定し、その中の一つとして、「法令、社内ルール、社会規範の遵守はもちろんのこと、高い倫理観とプロとしての誇りを持って公正で健全な企業活動を行う」ことを、社員一人ひとりの“誓い”として打ちたてました。

今年度からは、従来の取り組みに加え、この「KOBELCOの6つの誓い」の浸透を図り、グループ全体でコンプライアンスに対する“感度”の高い組織文化を醸成して、社会の“信頼”に応えてまいります。



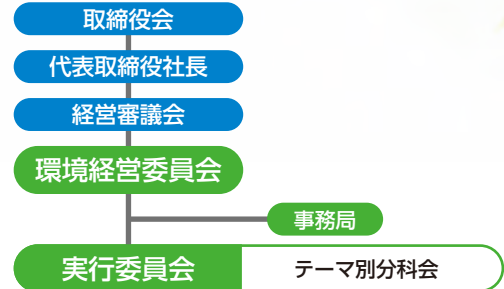
環境報告

3つのVISIONに基づく環境経営で、「環境先進企業グループ」を目指します。

神戸製鋼グループは、全ての生命体を育む健全な地球環境を次世代に引き継ぐことが私たちの使命であると認識し、環境経営基本方針と、6つの実施事項を策定しています。事業活動のあらゆる面で環境に配慮する環境経営の推進に努めています。

6つの実施事項を検討・提言する機関として「環境経営委員会」を設置し、グループの全従業員が参画する環境経営で「環境先進企業グループ」を目指します。

グループ環境経営推進体制



環境経営基本方針

神戸製鋼グループは、環境先進企業グループとして右記を実践することにより、社会的責任を果たすと共に、環境力を高め企業価値を向上させる。

VISION. 1
環境に配慮した生産活動

VISION. 2
技術・製品・サービスでの環境への貢献

VISION. 3
社会との共生・協調

グループ環境経営の実践によるさらなる企業価値向上
(グループの環境力向上)

6つの実施事項

- | | |
|--|-----------------------------------|
| 1 あらゆる面で環境に配慮したものづくりの徹底 | 3 環境関連情報の開示 P39 |
| ● 地球温暖化対策 P27~29 | 4 社会との共生・協調 P55~56 |
| ● 資源循環の促進 P30~31 | 5 全員参加による取り組みの展開 P40 |
| ● 化学物質の適正管理 P32 | 6 リスク管理の徹底 P41~42 |
| ● 環境負荷の低減 P33 | |
| 2 技術・製品・サービスでの環境への貢献 P34~38 | |

神戸製鋼グループは、環境経営を着実かつ地道に推進します。

環境経営委員会委員長(執行役員) 後藤 有一郎

神戸製鋼グループは、「環境に配慮した生産活動」、「技術・製品・サービスでの環境への貢献」、「社会との共生・協調」を3本柱とした環境経営基本方針を定め、グループ環境経営を実践しています。

環境管理の徹底によりグローバルに広がる各生産拠点において地域社会やお客様から信頼を得つつ、低炭素社会の実現に向けて、「輸送機の軽量化」や「エネルギー・インフラ」分野などで社会に貢献する企業グループを目指します。



ECO HIGHLIGHTS /// 2016年度の活動ハイライト

1

あらゆる面で環境に
配慮したものづくりの徹底



事業所への省エネルギー技術診断

▶ P.29

2

技術・製品・サービスでの
環境への貢献



都心型バイオガスシステムが
「環境・設備デザイン賞」を受賞

▶ P.37

3

環境関連情報の開示



第13回国際水素・燃料電池展
(FC EXPO2017)に出展

▶ P.39

4

社会との共生・協調



第4回 KOBELCO 森の童話大賞

▶ P.55

5

全員参加による
取り組みの展開



神戸製鋼グループ環境会議を開催

▶ P.40

6

リスク管理の徹底



海外グループ会社の現地環境調査

▶ P.42

環境中長期目標とその取り組み

神戸製鋼グループは、環境経営基本方針に基づいた「6つの実施事項」について、2016-2020年度「中期環境経営計画」を策定し、環境に配慮した事業活動を推進しています。

2016年度は「中期環境経営計画」の初年度として、目標達成に向けた各種取り組みを開始しました。

実施項目	長期方針	中期での目標
1 あらゆる面で環境に配慮したもののづくりの徹底 地球温暖化対策 資源循環の促進 化学物質の適正管理 環境負荷の低減	あらゆる事業活動において省エネルギー、CO ₂ 削減を推進し、地球温暖化防止に貢献する。	<ul style="list-style-type: none"> ■各業界策定の低炭素社会実行計画達成に向け、引き続き省エネルギー活動に取り組んでいく。
	埋立処分量ゼロを目指した活動を継続する。	<ul style="list-style-type: none"> ■継続して廃棄物処分量の削減を図り、新たに制定される業界の自主行動計画目標を達成する。 ■「鉄鋼スラグ製品の管理に関するガイドライン」に従い適切な処理を行う。
	「神戸製鋼グループ 有害化学物質管理方針」に基づき有害物質削減に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ■化学物質の適正管理、削減・代替活動に取り組むと共に、PCB特措法やフロン排出抑制法への適切な対応を行う。
	自主管理の徹底を図り、環境負荷低減に継続的に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ■きめ細かな操業管理、設備管理を継続し、ばい煙などの環境負荷低減に取り組む。
2 技術・製品・サービスでの環境への貢献	全ての製品開発・技術開発において、環境に配慮し、環境調和型製品や新たなビジネスを創出する。	<ul style="list-style-type: none"> ■輸送機の軽量化、水素社会の実現、電源の多様化など環境・エネルギー分野の課題に関して、神戸製鋼グループ全体で取り組み、低炭素社会の実現に貢献する。
3 環境関連情報の開示	環境関連情報を積極的に開示し、利害関係者とのコミュニケーションを図る。	<ul style="list-style-type: none"> ■情報開示を継続し、あらゆるステークホルダーとコミュニケーションを図る。
4 社会との共生・協調	環境の側面から社会との共生・協調を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ■「KOBELCO森の童話大賞」、「森林整備活動」、「児童館出前エコ教室」を3本柱とするKOBELCO GREEN PROJECTを推進し、地域社会などとの共生・協調を図る。
5 全員参加による取り組みの展開	神戸製鋼グループの全社員が、継続して環境マインドの向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ■階層別教育、e-ラーニング、グループ会社への環境教育などを継続し、環境意識の啓発を行う。またコベルコ エコライフ ノートへの参加を奨励し、環境意識啓発を図る。
6 リスク管理の徹底	リスク低減に向け、常に組織的、計画的に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ■本社による現地環境監査を継続しつつ、対象のグループ会社、関連会社を広げ、自立した環境管理体制の充実を図っていく。 ■海外のグループ会社に日本同様の環境経営の浸透を図りつつ、環境確認調査などによりリスク管理の向上を図る。

自己評価		○：計画通りに進捗 △：課題あり ×：計画未達	
2016年度の実績		2017年度の取り組み	掲載ページ
<ul style="list-style-type: none"> ■各業界の低炭素社会実行計画目標達成に向けた省エネルギー投資に取り組みつ、地道な省エネ活動を積み重ねた。 	評価 ○	<ul style="list-style-type: none"> ■2016年度に引き続き、中期計画に基づき、省エネルギーに取り組む。 	27
<ul style="list-style-type: none"> ■各事業部門で策定した廃棄物処理計画は順調に進捗しており、2020年度の自主行動計画目標達成の目処が立った。 ■鉄鋼事業部門の3事業所ではガイドラインを遵守し、適切に運用した。 	評価 ○	<ul style="list-style-type: none"> ■各事業部門で策定した廃棄物処理計画に取り組む。 ■「鉄鋼スラグ製品の管理に関するガイドライン」に従い適切な処理を行う。 	30
<ul style="list-style-type: none"> ■トランスなどのPCB廃棄物の処理は計画通り進捗しており、フロン排出抑制法への対応については、対象事業所への注意喚起や現地監査などで徹底を図った。 	評価 ○	<ul style="list-style-type: none"> ■PCB廃棄物については計画通り取り組み、フロンの適正管理については、現地監査などで徹底していく。 	32
<ul style="list-style-type: none"> ■ばい煙や排水の管理を徹底し、排出量の抑制を継続して実施した。 ■加古川製鉄所では、降下ばいじんの製鉄所影響の自主管理目標を全ての月で達成した。 	評価 ○	<ul style="list-style-type: none"> ■きめ細かな操業管理、設備管理を継続し、ばい煙などの環境負荷低減に取り組む。 	33
<ul style="list-style-type: none"> ■高砂製作所に建設した水素ステーション総合テストセンターにて、市場ニーズにあった製品開発のため、実運用に近い形でさまざまな運転パターンや充填シミュレーションの検証を開始した。 	評価 ○	<ul style="list-style-type: none"> ■水素ステーションの普及に向け、当社の技術、サービスの販売促進を図り、グループ会社全体で低炭素社会への貢献に取り組む。 	34
<ul style="list-style-type: none"> ■環境・社会報告書、ホームページ、環境モニターなどにより環境情報を公開した。また、各種展示会に出展し、当社グループの環境関連技術・製品の紹介を行った。 	評価 ○	<ul style="list-style-type: none"> ■情報開示を継続し、あらゆるステークホルダーとコミュニケーションを図る。 	39
<ul style="list-style-type: none"> ■第4回「KOBELCO森の童話大賞」は、社内12事業所が立地する全自治体の後援を得て作品募集を行い、600件を超える応募があった。 ■児童館出前エコ教室は3カ所、森林整備活動は春秋の2回、KOBELCOの森、ECOWAYの森で行った。 	評価 ○	<ul style="list-style-type: none"> ■「KOBELCO森の童話大賞」、「森林整備活動」、「児童館出前エコ教室」を3本柱とするKOBELCO GREEN PROJECTを推進し、地域社会などとの共生・協調を図る。 	55
<ul style="list-style-type: none"> ■環境会議の開催、階層別教育、e-ラーニングにより、従業員の環境意識、知識の向上を図った。 ■コベルコ エコライフ ノートによる家庭における環境意識啓発を図った。 	評価 ○	<ul style="list-style-type: none"> ■階層別教育、グループ会社への環境教育などを継続し、環境意識の啓発を行う。またコベルコ エコライフ ノートへの参加を奨励し、環境意識啓発を図る。 	40
<ul style="list-style-type: none"> ■生産拠点では環境マネジメントシステムにより環境管理レベルの向上を図ると共に環境監査などでその状況を確認した。 ■中国およびタイのグループ会社の現地環境確認調査などを実施し、環境管理レベルの向上を図った。 	評価 ○	<ul style="list-style-type: none"> ■生産拠点従業員への教育を通じて環境管理レベルの向上を図ると共に、環境監査などの実施により、その状況を確認する。 ■中国、マレーシア、シンガポールのグループ会社の現地環境調査などを実施し、各社の環境管理レベルの向上を図る。 	41

溶接事業部門のバリューチェーン

溶接事業部門は、「世界で最も信頼される溶接ソリューション企業」を目指し、溶接材料、溶接ロボットシステム、施工技術など、溶接のトータルソリューションを提供しています。その多彩な技術や製品は、開発・設計段階から廃棄・リサイクルまで、すべての過程において省エネルギーやCO₂排出量削減など、環境負荷の低減に貢献しています。

技術開発・設計において、環境負荷を低減するよう考慮しています。

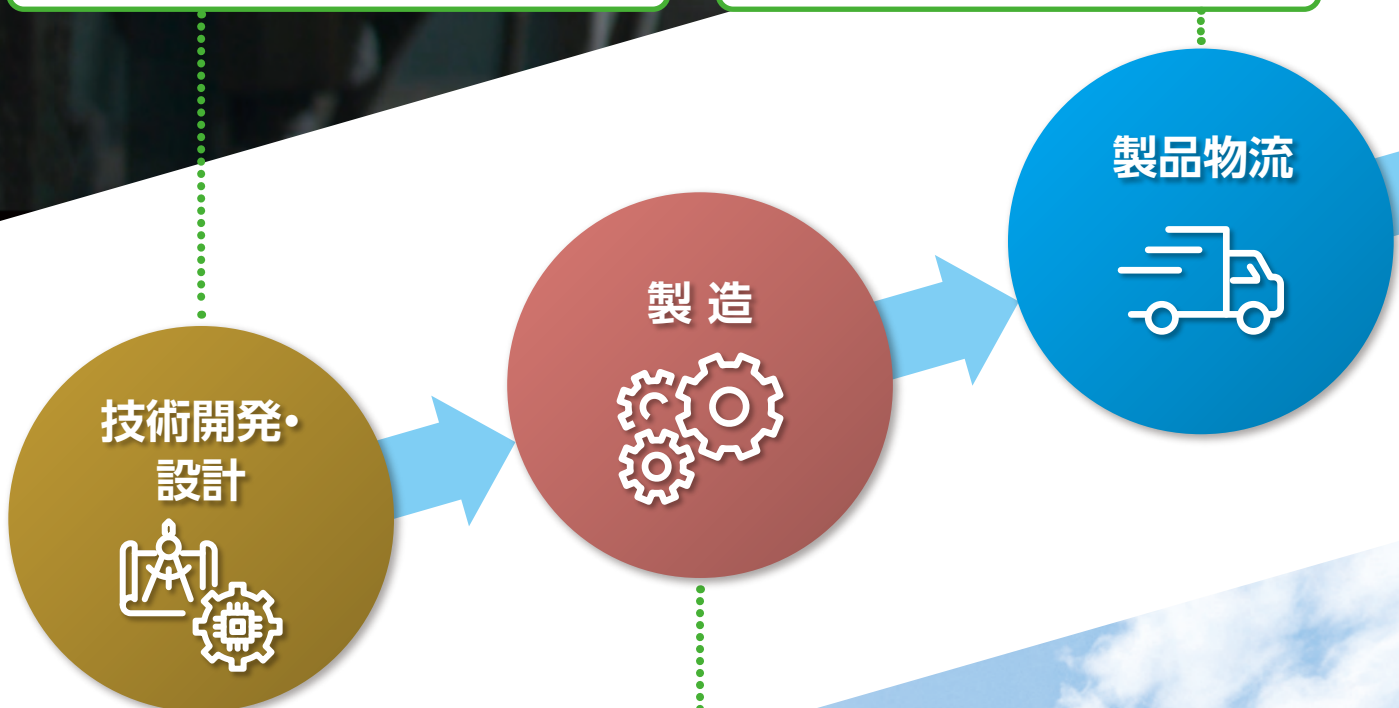
取り組み事例

さまざまなニーズに応える溶接材料・施工技術の開発
CO₂排出量の削減に向けて自動車や船舶などの輸送機の軽量化を図る中で、軽くて強い鋼板を溶接する技術が必要です。このような社会的ニーズに応える多様な溶接材料や施工技術を開発しています。

製品の輸送時における環境負荷の低減に配慮しています。

取り組み事例

モーダルシフトの実施や製品の出荷ルート最適化
トラックから鉄道や船舶へ輸送手段を切り替えるモーダルシフトを最大限実施。また、中間倉庫を介さず工場から直接お客様に製品を出荷するなど、輸送に要するエネルギー使用量を削減しています。



環境負荷低減に考慮した生産方法を採用すると共に、省エネルギーにも積極的に取り組みます。

取り組み事例

西条工場の省エネルギー活動が省エネ大賞を受賞
ボイラ設備の無駄な燃焼排除やエネルギーロスの防止により、省エネルギー化とCO₂排出量削減などの成果が評価され、2013年度省エネ大賞の「省エネルギーセンター会長賞」を受賞しました。



TOPICS

省エネパトロールの実施

エネルギー使用の合理化を図るため、工場内の全ての施設に対して、設備改善やエアリーク箇所等の是正などの活動に従業員全員で取り組んでいます。



廃棄物の総量を低減するため、再資源化などを推進しています。

取り組み事例

最終埋立処分量の低減

廃フラックスの発生量の低減を図ると共に、これまで埋立処理されてきた中和汚泥をセメント原料などに再資源化するなど、最終埋立処分量を低減しています。

廃棄・リサイクル



お客様による使用



輸送機軽量化や作業環境改善など、さまざまなニーズに応じて開発した多様な溶接材料や技術を提供しています。

溶接事業の主要製品

溶接材料

神戸製鋼では約800種類の溶接材料を製造・販売しており、造船・鉄骨・自動車をはじめ、あらゆる産業のものづくり力向上に貢献しています。

被覆アーク溶接棒



世界的に最も汎用的な溶接材料で、建築・鉄骨をはじめ、あらゆる産業分野で使用されています。

ソリッドワイヤ



主に自動車や建築、建設機械分野で使用されており、ロボットとの組み合わせによる連続溶接が可能です。

フラックス入りワイヤ



主に造船や橋梁分野で使用されており、溶接時間の短縮や溶接部の品質向上に貢献しています。

取り組み事例

超ハイテン鋼板用の溶接材料

CO2排出量の削減に向け、自動車の軽量化が期待される超ハイテン鋼板の溶接を実現したTRUSTARC™ MG-S120Tを製品化し、市場への導入を進めています。

溶接ロボットシステム

建築鉄骨や建設機械分野において国内トップの実績を誇ります。溶接工程の自動化、高能率化のみならず、お客様でのコストダウンと高品質化の実現を図るなど、最適な溶接ソリューションを提供しています。

取り組み事例

ヒューム発生量を半減したREGARC™プロセス

従来に比べて大幅にヒュームやスパッタの発生量を低減した溶接施工法REGARC™プロセスと、この技術に適したワイヤを組み合わせることで、作業環境改善に貢献しています。



マテリアルバランス

神戸製鋼グループは、事業活動のあらゆる面で環境に配慮する環境経営を展開しています。その一環として、エネルギー効率の向上と、副生ガスや排熱、水、資源などの有効利用、副産物の再資源化に継続的に取り組んでいます。

神戸製鋼における資源・エネルギーの利用状況

鉄鋼事業部門

神戸製鋼のエネルギー使用総量の92%を占める鉄鋼事業部門は、2016年度に1,101万トンの鉄鉱石と599万トンの原料炭・コークス、9PJ^{※1}の石炭、石油、都市ガスなどの燃料および60万MWhの購入電力を使用しました。生産工程で生成するコークス炉ガス、高炉ガス、転炉ガスなどの副生ガスを鋼材加熱用の燃料や自家発電所の燃料などとして、ほぼ全量を有効に活用しています。さらに、排熱を利用した発電を積極的に実施しており、副生ガスによる発電と合わせて、生産工程で使用する電気の60%以上をエネルギー回収による発電でまかなっています。

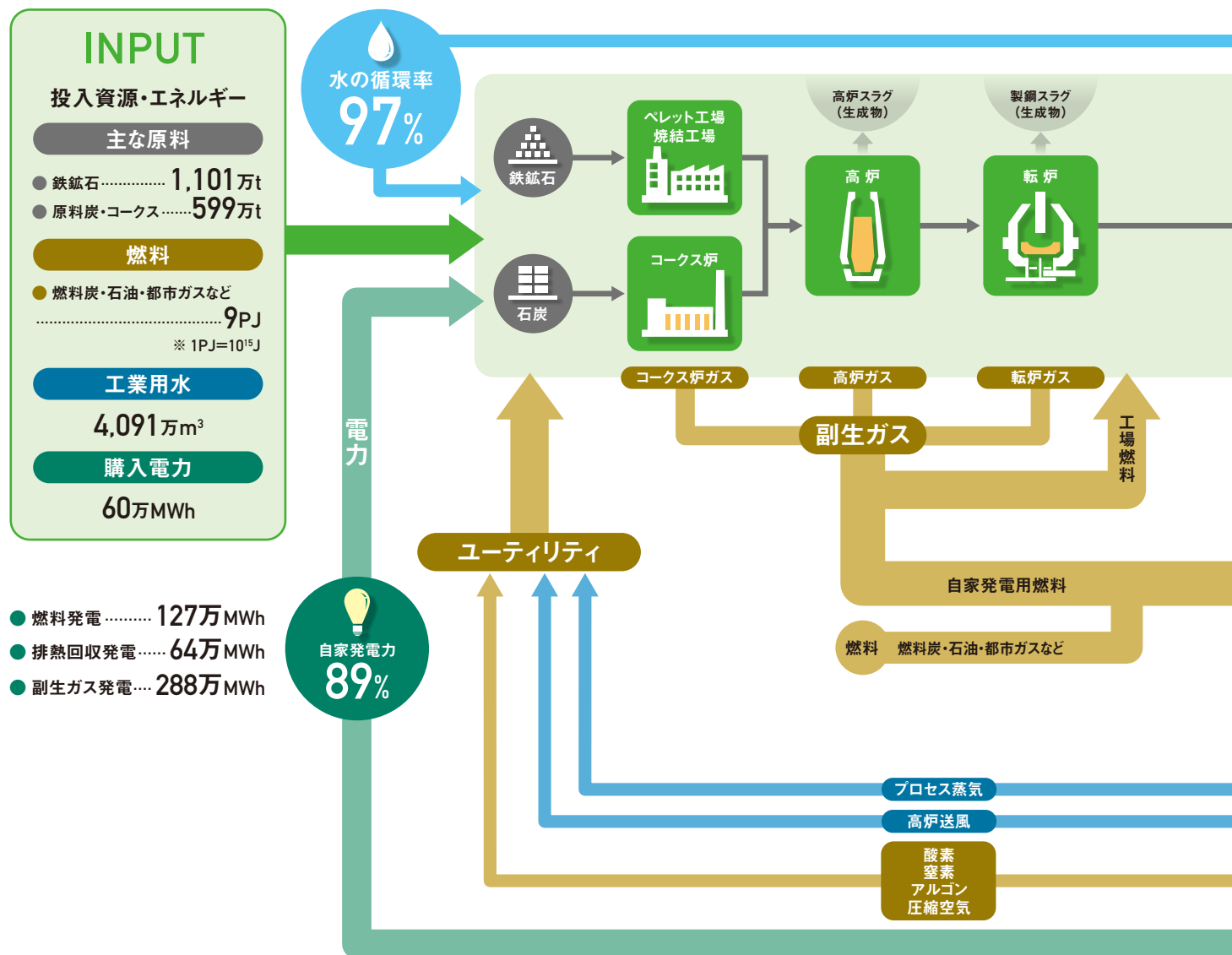
また、生産工程から生成する鉄鋼スラグ^{※2}と、ダスト、スラッジなどの副産物については、社内で原料として再利用する他、セメント用資材や路盤材にするなど有効活用を図っており、副産物の96%をリサイクルしています。

今後も、資源やエネルギーの効率的な利用およびその技術開発を進めるなど、あらゆる面で環境に配慮したものづくりを進めていきます。

※1 1PJ=10¹⁵J

※2 鉄鋼スラグ：鉄鋼精錬の際に溶融した銑鉄などから分離・回収する生成物。高炉スラグや製鋼スラグなど。

鉄鋼事業部門における資源・エネルギーの利用状況(2016年度)



溶接事業部門

溶接事業部門は、金属製の線材やフープと、溶剤、水ガラスなどを原料として、溶接に使用する溶接棒や溶接ワイヤを生産しています。2016年度は、藤沢、茨木、西条、福知山の各工場合計で、16万トンの原料と、エネルギーとして6.1万MWhの電力や0.2PJの都市ガスなどの燃料を使用して、15万トンの製品を生産しました。結果として、1.4万トンの副産物が発生しましたが、そのうち98%をリサイクルしています。

溶接事業部門における 資源・エネルギーの利用状況(2016年度)

INPUT		OUTPUT	
原料		製品	
線材、フープ、溶剤、水ガラスなど	16万t	溶接棒、溶接ワイヤなど	15万t
エネルギー		副産物	
購入電力	6.1万MWh	発生量	1.4万t
都市ガスなど	0.2PJ	リサイクル率*	98%

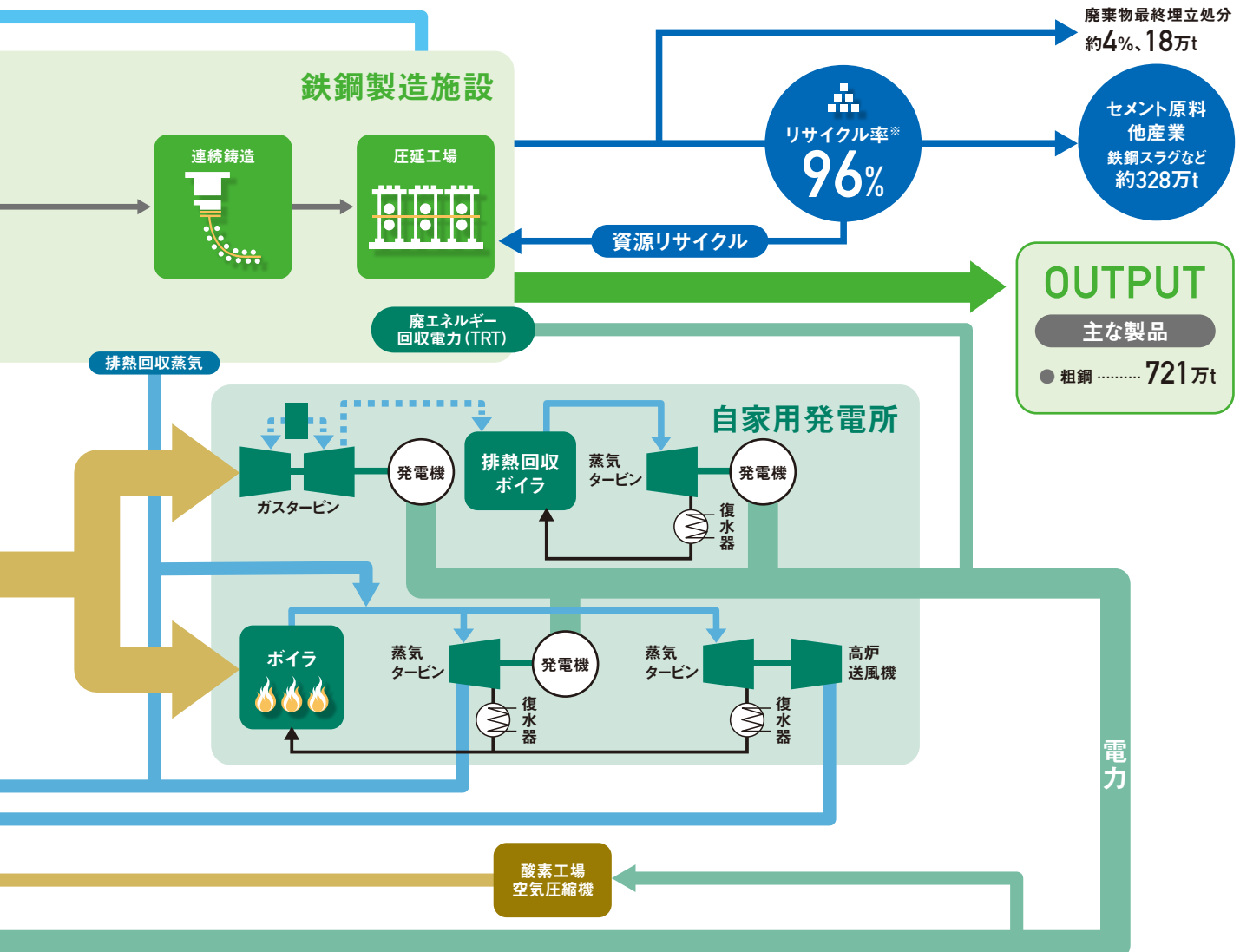
アルミ・銅事業部門

アルミ・銅事業部門は、アルミ、銅の地金やスクラップなどを原料として、各種アルミ製品および銅製品を生産しています。2016年度は、49万トンの原料と、エネルギーとして51万MWhの電力や4.3PJの都市ガスなどの燃料を使用して、44万トンの製品を生産しました。溶解・鑄造に伴う鉱さいや集じんダスト、排水スラッジなど、3.1万トンの副産物が発生しましたが、97%をリサイクルしています。

アルミ・銅事業部門における 資源・エネルギーの利用状況(2016年度)

INPUT		OUTPUT	
原料		製品	
アルミ地金、銅地金など	49万t	アルミ製品、銅製品	44万t
エネルギー		副産物	
購入電力	51万MWh	発生量	3.1万t
都市ガスなど	4.3PJ	リサイクル率*	97%

※リサイクル率：発生量のうち、最終埋立処分以外の処理を行った量の比率



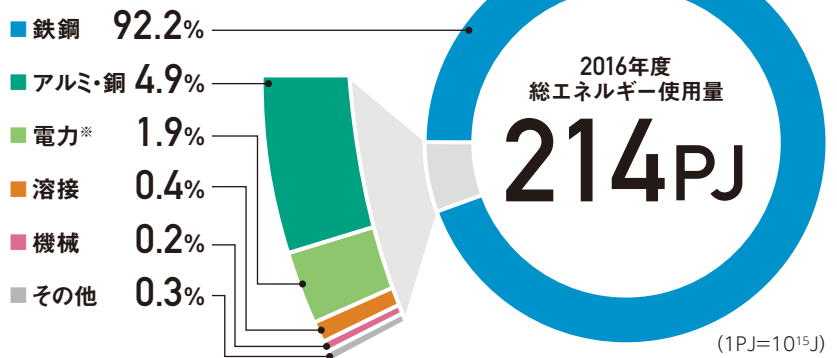
地球温暖化対策

神戸製鋼グループは、地球温暖化問題に対して、事業活動のあらゆる面で省エネルギーなどの合理化や研究開発を推進し、温室効果ガスの排出削減に取り組んでいます。

生産工程におけるエネルギー使用量

神戸製鋼グループは、2016年度、グループ全体で214PJのエネルギーを使用しました(原油換算552万kl)。
そのうち、約92%が鉄鋼関連事業、約5%がアルミ・銅関連事業で使用されています。

▶事業部門別エネルギー使用量(グループ会社含む)



*電力事業部門は、2016年度より鉄鋼事業部門の電力卸供給事業と本社部門の新規電力プロジェクトが統合され、新設されました。

CO₂排出量実績と排出削減の取り組み

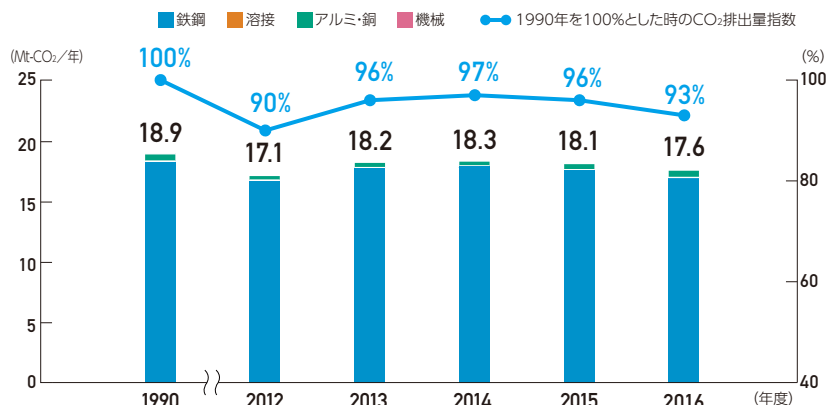
神戸製鋼事業部門排出量合計

神戸製鋼は、2016年度、各事業部門合計で17.6MtのCO₂を排出しました。そのうち、約97%が鉄鋼事業部門、約3%がアルミ・銅事業部門で排出されています。

2016年度実績は、前年度比で3%減少、1990年度比では7%減少しております。

生産性改善、設備の高効率化やエネルギーロス低減などによる省エネルギー活動に継続的に取り組んでいきます。

▶神戸製鋼合計 CO₂排出量の推移(試算値)



*アルミ銅事業部門は95年度の排出量を、機械事業部門は97年度の排出量を基準値として、90年度の排出量に算入。
*2016年度の購入電力の排出係数は未公表のため、2015年度実績を使用しています。
*電力等の係数の見直しにより過年度分にさかのぼって、再計算しています。

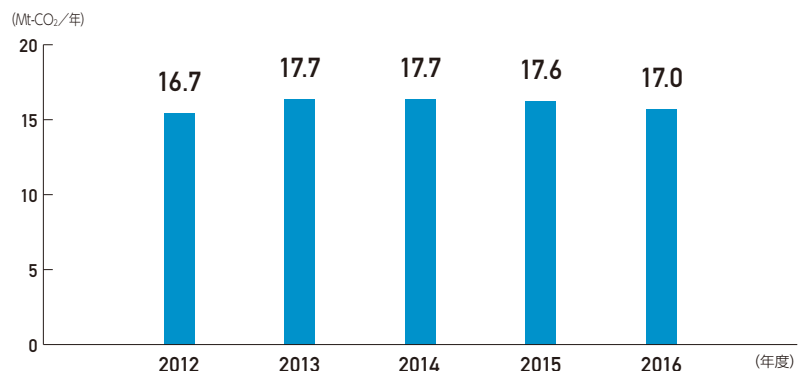
鉄鋼事業部門

鉄鋼事業部門では、2016年度に、さまざまな設備改善や操業改善などを行っています。

2016年度実績は前年度比で3%減少しています。

今後も、業界目標である「低炭素社会実行計画」の達成に向けて、省エネルギー対策、環境負荷の低減を進めていきます。

▶鉄鋼事業部門 CO₂排出量の推移(試算値)



*コークス製造を含めた鉄鋼事業部門合計での試算値。
*2016年度の購入電力の排出係数は未公表のため、2015年度実績を使用しています。
*電力等の係数の見直しにより過年度分にさかのぼって、再計算しています。

溶接事業部門

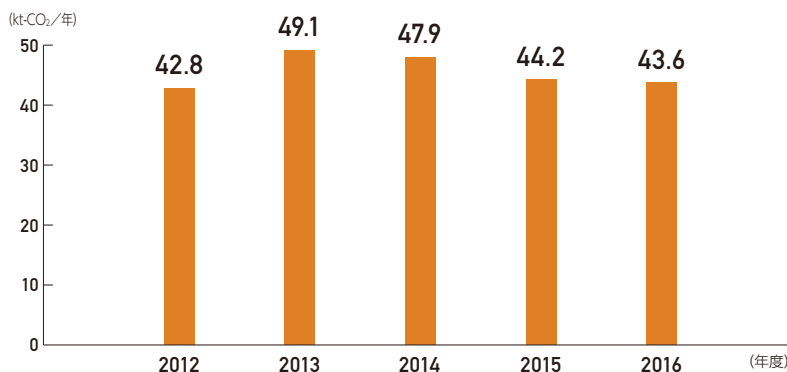
溶接事業部門では、設備の高効率化やエネルギーロス低減を図っています。

2016年度は各事業所で照明のLED化や設備のインバータ化を計画的に実施しています。

2016年度実績は前年度比で1%減少しています。

今後も、さらなる省エネルギー対策、環境負荷の低減を進めていきます。

▶溶接事業部門 CO₂排出量の推移(試算値)



※電力等の係数の見直しにより過年度分にさかのぼって、再計算しています。

アルミ・銅事業部門

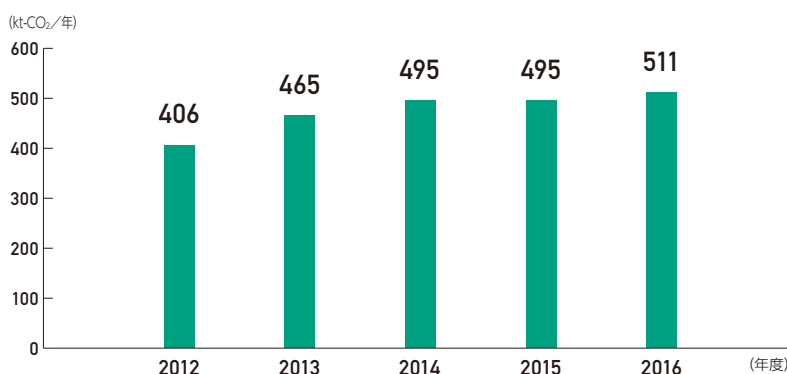
アルミ・銅事業部門では、石油系燃料から天然ガスへの計画的な燃料転換、合わせて生産性向上、高効率設備の導入によるエネルギーの効率化を図っています。

2016年度は各事業所において、高効率ボイラーへの更新、照明のLED化、ファンのインバーター化などを実施しています。

2016年度実績は前年度比3%増加しています。

今後も、業界目標である「低炭素社会実行計画」の達成に向けて、省エネルギー対策、環境負荷の低減を進めていきます。

▶アルミ・銅事業部門 CO₂排出量の推移(試算値)



※電力等の係数の見直しにより過年度分にさかのぼって、再計算しています。

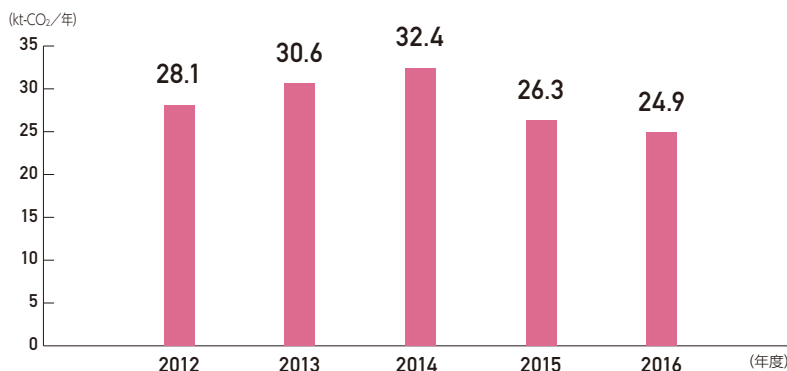
機械事業部門

機械事業部門では、省エネルギー型圧縮機やヒートポンプなどの需要が拡大する中、設備の高効率化、生産性改善、省エネコンサルによる助言を受けて、エネルギー効率の改善を図っています。

2016年度実績は前年度比5%減少しています。

今後も、業界目標である「低炭素社会実行計画」の達成に向けて、省エネルギー対策、環境負荷の低減を進めていきます。

▶機械事業部門 CO₂排出量の推移(試算値)



※電力等の係数の見直しにより過年度分にさかのぼって、再計算しています。

全社横断的省エネルギー支援活動の取り組み

事業所への省エネルギー技術支援と人材育成活動

神戸製鋼の事業所では地球温暖化防止、エネルギーコスト削減を目的に省エネルギー活動に取り組んできました。

2015年度に、ものづくり推進部内に省エネルギー推進グループを設置し、専門家による事業所への省エネルギー技術支援(燃焼設備診断、省電力診断)、省エネ交流会(省エネルギー活動事例や省エネルギー技術情報の共有化など)の開催、省エネルギー教育を実施し、省エネルギー活動のさらなる活性化や現場技術者のレベルアップに取り組んでいます。

燃焼設備診断では社内事業所に設置された大小さまざまな燃焼設備に対して、詳細な測定に基づいた熱診断を行い、幅広い切り口からさらなる省エネルギー提案を行うと共に、実施段階において技術指導を行っています。

2016年度末時点で8事業所11設備に対して、各々の設備で10%を上回る省エネルギー、CO₂排出量に換算して計9,500トン/年の削減提案を終え、事業所にて実行しています。さらに2017年度下期から活動対象をグループ会社まで拡大する予定です。



▲ 熱診断の様子

年3月からエネルギー使用量の大きな6事業所を対象に実施しています。教育は各事業所にて教室を開き、その事業所に実在する設備を教材としています。受講者は若手スタッフが主で計62名、10カ月間程度の基礎技術コース終了後は、応用コースとして省エネルギーの実践を通じたOJT教育に取り組んでいます。



▲ 福知山工場 省エネルギー勉強会

燃焼設備の診断による省エネルギー提案活動の進捗状況

事業部門	事業所	設備	進捗
鉄鋼	神戸製鉄所	鋼材連続加熱炉	済み
		均熱炉	推進中
	高砂製作所	鍛圧加熱炉	済み
		還元炉	推進中
溶接	福知山工場	焼鈍炉	済み
	茨木工場	乾燥炉	済み
	西条工場	乾燥炉	推進中
アルミ・銅	真岡製造所	均熱炉	済み
		アルミ溶解炉	済み
	長府製造所	銅板連続加熱炉	済み
		ヒレットヒーター	済み
機械	高砂製作所	アルミ溶解炉	済み
		乾燥炉	済み

物流分野における省エネルギーの取り組み

神戸製鋼グループでは、原料から製品納入に至るまで、最適で迅速な物流による省エネルギーを目指しています。トラックから鉄道、船舶を利用した輸送へのモーダルシフトの拡大、輸送時の積載効率改善、車両大型化による輸送効率改善や、回航時の利用拡大などを進めています。

また、2016年度には、神戸製鋼向け鉱石専用船である「神山丸」が完成しました。本船は今治造船(株)にて建造され、運航管理は(株)商船三井にて行います。燃費向上につながるデザインや、70~250℃の中低温暖熱源が利用可能な排熱回収システムなどの省エネルギー技術を備えており、環境に配慮した次世代船となっています。



▲ 神山丸

グループ会社の取り組み

神戸製鋼グループ各社においても、生産工程、物流における省エネルギーを推進しています。記載事項の他にも、不要時の消灯、空調設備の温度管理など、幅広い取り組みを実施しています。

取り組み事例

会社名	事業所所在地	主な取り組み事例
三和鐵鋼(株)	愛知県海部郡	工場照明をLEDに更新
(株)セラテクノ	岡山県備前市	プレス機に省エネタイプの油圧ユニットを導入
(株)テザックワイヤロープ	大阪府貝塚市	クーリングタワーをインバータ方式に更新
日本高周波鋼業(株)	富山県射水市	熱処理炉を更新し断熱性を改善
阪神溶接機材(株)	岡山県岡山市	冷却水ポンプを省エネタイプに更新
(株)コベルコパワー神戸	兵庫県神戸市	2号ボイラ洗浄に伴う付着スケール除去・ボイラ差圧改善によるタービン効率改善
神鋼線材加工(佛山)有限公司	中国広東省佛山市	排熱回収によりLPG使用量を削減
神鋼汽車鋁部件(蘇州)有限公司	中国江蘇省蘇州市	冷却水ポンプをインバータ方式に更新
無錫圧縮機股份有限公司	中国江蘇省無錫市	工場屋根に太陽光発電を設置

その他の取り組みは、ホームページをご覧ください。

 http://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/csr/kaiji/report/2017/

資源循環の促進

神戸製鋼グループは、限りある資源を有効に活用するために、生産工程・オフィスにおいて廃棄物の発生抑制に取り組んでいます。生産工程から得られる副産物などの付加価値を高めたり、新規利用用途の開発・導入により、積極的にリサイクルを進めています。また、出荷する製品の梱包仕様の見直しによる再利用や、オフィス系業務では、会議資料の電子化・IT化などをグループ全体で積極的に進めることにより、紙資源使用量の低減に努めています。

廃棄物発生抑制とリサイクルの推進

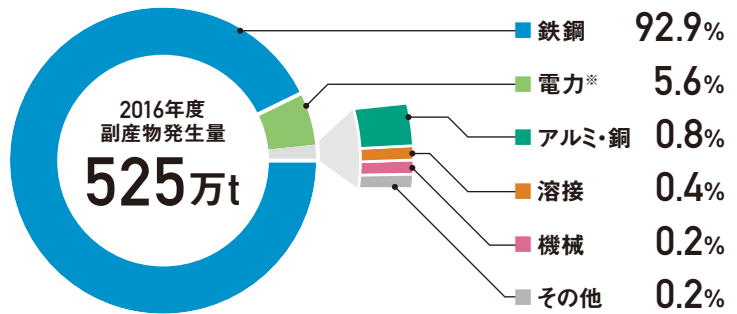
神戸製鋼グループでは、海外グループ会社を含め2016年度に総計525万トンの副産物が発生し、そのうち92.9%が鉄鋼関連事業のものでした。製鉄所では、鉄鋼スラグ（製鉄工程で分離回収した副産物）や、ダストの再資源化・高付加価値化を進めてきました。

2016年度は、鉄鋼事業部門において一過性の高炉改修工事などがあり、再資源化率は神戸製鋼全体で95.6%、神戸製鋼グループ全体（含海外グループ会社）で95.8%となりました。

神戸製鋼グループでは、歩留向上や副原料の使用量の削減を図ることにより、発生量そのものを低減する根本的な対策を積極的に進めています。これらの対策は、各業界で定める自主行動計画（最終埋立処分量あるいは再資源化に関する数値目標）に基づく新たな目標（2020年度時点）達成にも貢献するものです。

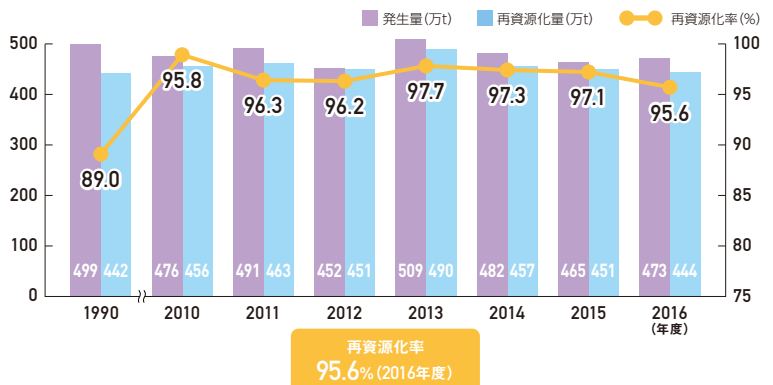
神戸製鋼グループ（含海外グループ会社）は、22万トンを最終埋立処分しました。引き続き、廃棄物発生量の抑制、再資源化や新規リサイクル技術の開発および高付加価値化を通じて、最終埋立処分量の削減を進めていきます。

▶事業部門別発生量（国内・海外グループ会社含む）



※電力事業部門は、2016年度より鉄鋼事業部門の電力卸供給事業と本社部門の新規電力プロジェクトが統合され、新設されました。

▶発生量および再資源化量と再資源化率の推移（神戸製鋼）



※再資源化率=再資源化量/処理対象量

鉄鋼事業部門（国内、海外グループ会社）

加古川製鉄所、神戸製鉄所、高砂製作所ではダスト類のリサイクル技術の開発、鉄鋼スラグの発生量削減、新規用途の開発を継続的に進めています。その結果、2016年度の最終埋立処分量は約18万トンになりました。

2016年度、加古川製鉄所・神戸製鉄所から、高炉スラグが233万トン、製鋼スラグが95万トン副次的に生成されました。これについても、鉄鋼スラグ協会が定める「鉄鋼スラグ製品の管理に関するガイドライン」に基づき、適切に運用・管理しています。

鉄鋼スラグの新規リサイクル用途開発の一環として兵庫県淡路島岩屋港などで行ってきた実証試験で、藻場育成促進などが認められ、2016年3月にスラグ石材1,000トンが、兵庫県神戸市内の海域工事（須磨地区潜堤築造工事）の潜堤構築材として初めて採用されました。当社は、今後も海域環境改善に向けた取り組みを継続すると共に、海域工事に用いられる天然石代替として鉄鋼スラグ製品の利用拡大を進めていきます。



▲スラグ石材設置現場（須磨海岸沖）



▲潜堤構築材（中詰材：スラグ石材）

溶接事業部門(国内、海外グループ会社)

溶接事業部門では、事業所ごとに資源循環に関する活動計画を策定し、各種の対策を推進しています。そのノウハウについては、定期的開催する会議を通じて、事業部門での情報共有を進めています。

国内事業所では、廃フラックスの分別などを行い、路盤材やセメント原料としてリサイクルに取り組んでいます。

海外事業所では、国内事業所で実施している製品包装材料の再利用などを展開し、廃棄物発生量の低減を図っています。

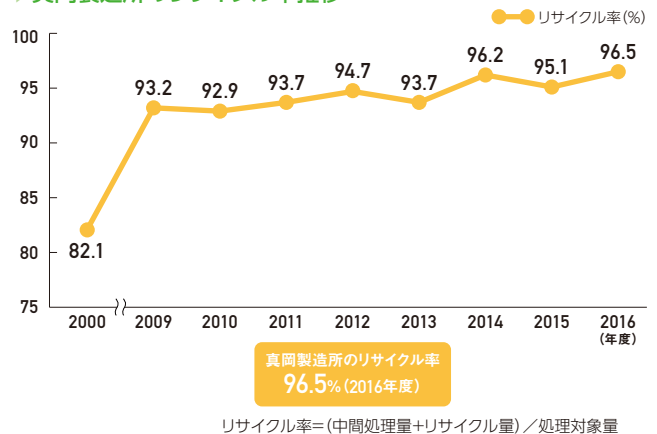
アルミ・銅事業部門(国内、海外グループ会社)

アルミ・銅事業部門では、事業所内での廃棄物抑制の取り組みだけでなく、他事業部門と連携して資源循環率改善活動を進めています。

真岡製造所では溶解工程で発生するアルミ灰を加古川製鉄所の溶銑脱硫工程で使用しています。また、真岡製造所の2016年度のリサイクル率は、96.5%と過去最高となりました。

海外グループ会社では、国内拠点と連携して素材スクラップ発生低減による歩留改善に取り組んでいます。

▶真岡製造所のリサイクル率推移



機械事業部門(国内、海外グループ会社)

機械事業部門では、これまで実施してきた各種の対策を確実に定着・継続させることにより、再資源化率を高いレベルで安定的に維持しています。

汎用圧縮機を生産する播磨工場では、近隣のサプライヤーや海外からの調達品の運搬時、通箱化(梱包材の強度を高め繰り返し使用)することで廃棄物の削減を行っています。また、従来古紙などは焼却処分としていましたが、現在はリサイクルしています。

非汎用圧縮機や産業機械を生産する高砂製作所では、加工工程で使用する工具を再研磨し寿命延長を図っています。また、試運転で使用した作動油をろ過処理して再利用するなどに取り組んでいます。

電力事業部門(国内グループ会社)

電力卸供給事業を営む(株)コベルコパワー神戸・神戸発電所では、燃料である石炭を燃やした後に残る石炭灰や排煙脱硫装置で発生する石こうを、それぞれの貯蔵サイロで保管した後、セメント原料などに全量リサイクルしています。



▲ 石炭灰サイロ



▲ 石こうサイロ

化学物質の適正管理

神戸製鋼グループでは、PRTR法やPCB特別措置法、フロン排出抑制法といった法令や規制を踏まえ、化学物質の取扱・排出・廃棄などについて適正に管理しています。

PRTR法・化審法への対応

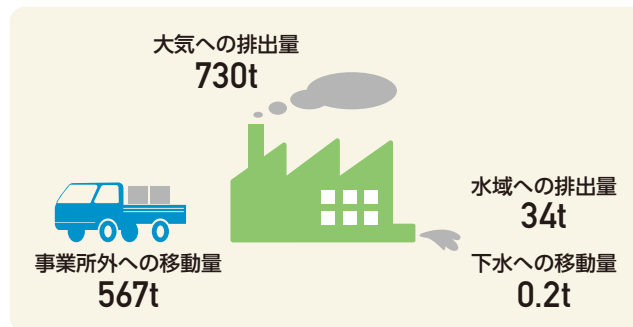
神戸製鋼グループでは、PRTR法^{*1}や化審法^{*2}に関する化学物質について、使用量・排出量・移動量を把握すると共に、使用量の削減や排出量の抑制に向けた活動に取り組んでいます。

神戸製鋼グループ各事業所(国内)のPRTR法に基づく届出予定値の合計は、取扱物質55種類、排出量^{*3}764トン、移動量^{*4}567トンでした。

取扱物質の移動・排出状況等の詳細については、ホームページに掲載しています。

 http://http://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/csr/kaiji/report/2017

神戸製鋼グループのPRTR法届出予定値の合計



- ※1 PRTR(Pollutant Release and Transfer Register) 「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」
- ※2 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律
- ※3 排出量は、大気・水域への排出量の合計
- ※4 移動量は、事業所外・下水への移動量の合計

廃PCB電気機器の管理

PCB(ポリ塩化ビフェニル)が含まれる使用済みのトランス、コンデンサなどについては、「PCB廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」に基づき、適切に保管・管理しています。神戸製鋼グループでは、処理を委託する際に現場立会を行うなどの管理ルールを関係者に教育すること、さらに環境監査などにおいても管理状況を確認すると共に、法に定められた期限での適正処理に取り組んでいます。

フロン類の管理

エアコンなどの空調機器や圧縮機などの冷媒として用いているフロン類については、フロン排出抑制法(フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律)に基づき、適正な管理を実施しています。

神戸製鋼グループでは、フロン類を含む機器の定期点検による機器の維持管理などを通じてフロン類の大気中への排出抑制に努めています。

化学物質の排出削減活動の一例

事業所名/会社名	事業所所在地	活動内容
茨木工場	大阪府茨木市	潤滑剤を非PRTR物質に代替
神戸溶接サービス(株)	神奈川県藤沢市	試験に使用しているエタノールを再生利用し、使用量を削減
長府製造所	山口県下関市	洗浄剤を非PRTR物質に代替
(株)コベルコ マテリアル銅管	神奈川県秦野市	塗料を非溶剤仕様へ切り替え
神戸線材加工(佛山)有限公司	中国広東省佛山市	製造工程の適正化により、洗浄薬品の使用量削減
Kobe Welding of Korea CO.,LTD.	韓国慶尚南道昌原市	洗浄剤をより環境負荷が小さい物質へ代替

環境負荷の低減

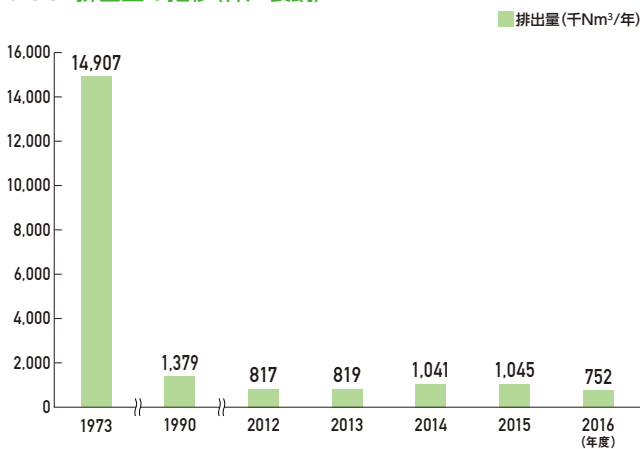
神戸製鋼グループは「環境に配慮した生産活動」を環境経営方針の一つとして位置付け、継続的な生産工程の改善、設備更新や効率の良い最新設備の導入、環境負荷物質の除害設備の導入など、あらゆる面で環境に配慮したもののづくりを徹底し、ばい煙などの環境負荷の低減に取り組んでまいりました。引き続き、排出抑制に努めてまいります。

大気汚染対策

ばい煙の排出状況

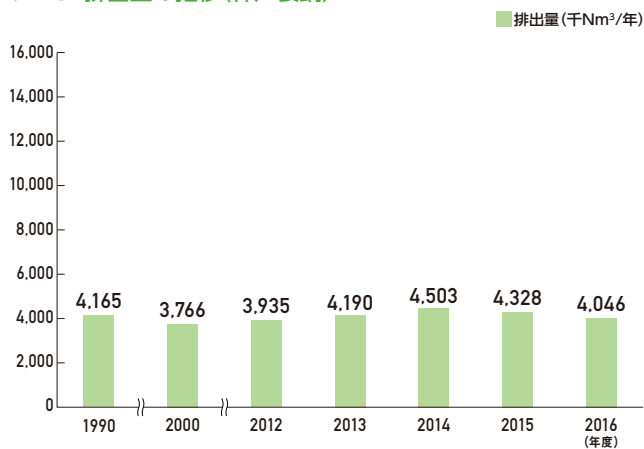
生産工程などで発生するSOx(硫黄酸化物)については、省エネルギー化による燃料の削減や低硫黄燃料の使用、都市ガスへの燃料転換などにより発生を抑制を図ると共に、脱硫などの排ガス対策を行ってきました。

▶SOx排出量の推移(神戸製鋼)



一方、NOx(窒素酸化物)については、低NOx燃焼技術の導入や省エネルギー対策により排出量の抑制に努めてまいりました。

▶NOx排出量の推移(神戸製鋼)

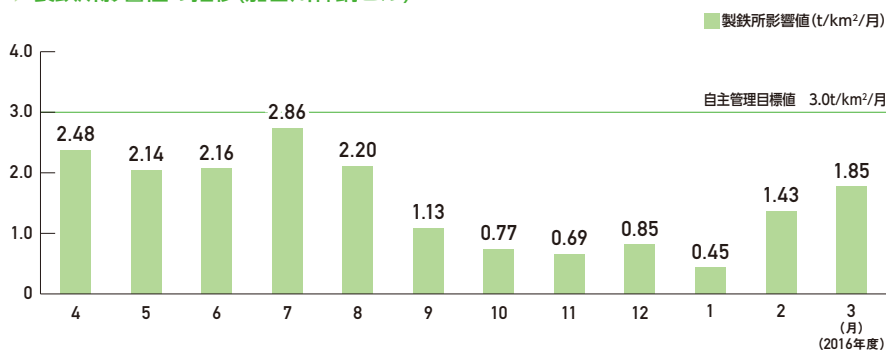


加古川製鉄所における粉じん対策

加古川製鉄所では、近隣3カ所の降下ばいじんに係る製鉄所影響値を3t/km²/月以下とする自主管理目標値を定め、種々の対策を講じてまいりました。

2016年度は、全箇所で目標を達成しました。

▶製鉄所影響値の推移(加古川神鋼ビル)

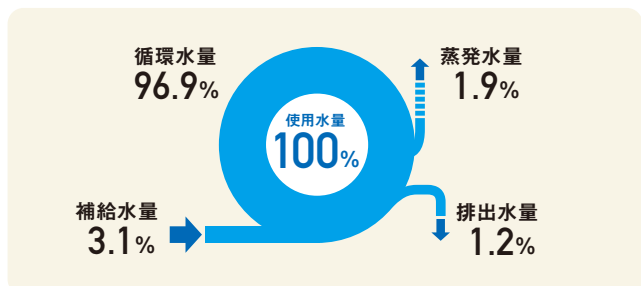


水質汚濁対策

生産工程の改善や再生水の利用によって節水に取り組んでいます。また、生産工程からの排水の特性に適した処理システムで浄化することで公共水域への汚濁負荷物質の抑制を図っています。

製鉄所では、各生産プロセスからの排水を、凝集沈殿、砂ろ過などにより浄化した後、再び所内で循環利用しており、加古川製鉄所では約97%の水を循環利用しています。

▶水のリサイクル状況(加古川製鉄所)



技術・製品・サービスでの環境への貢献

神戸製鋼グループは、鉄鋼、アルミ・銅などの素材分野や機械、エンジニアリング分野など幅広い分野で、これまでに蓄積した生産技術、エンジニアリング技術やノウハウを活かし、環境に配慮した技術・製品・サービスを提供することで、環境に貢献しています。

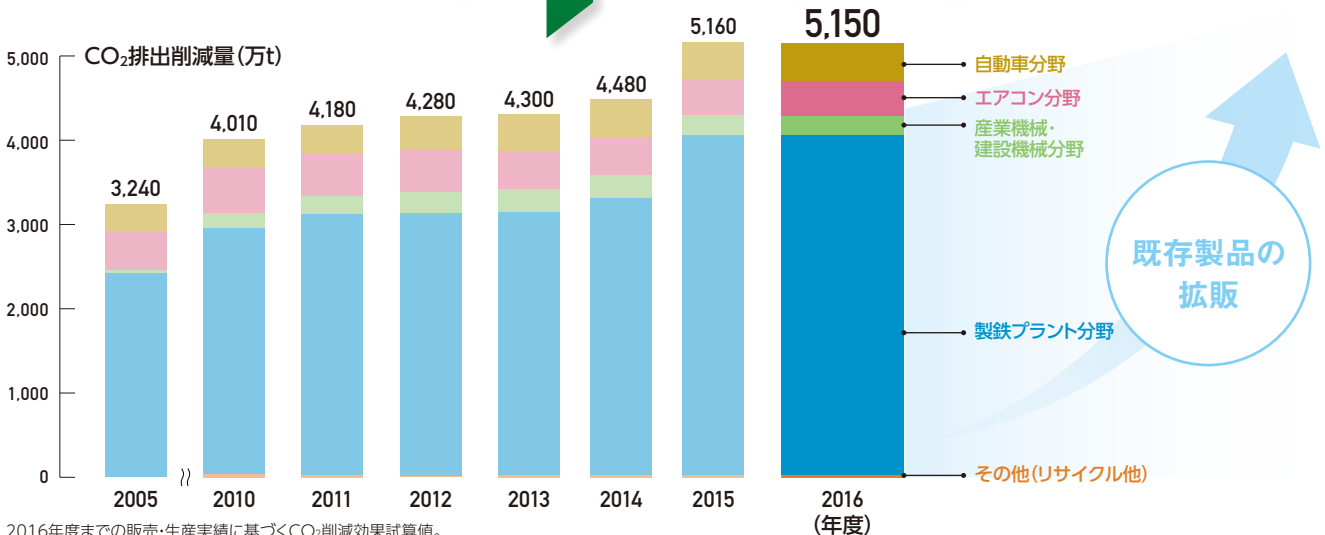
技術・製品を通じたCO₂排出量削減

神戸製鋼グループは、独自の技術や製品を通じて、社会のさまざまな分野でCO₂排出量削減に貢献しています。



2016年度における
神戸製鋼グループ製品による
CO₂排出量削減効果
(海外分含む)

約5,150万トン



2016年度までの販売・生産実績に基づくCO₂削減効果試算値。
係数の見直しなどにより過年度の数字を修正する場合があります。

素材、機械、エンジニアリング分野での環境への貢献

神戸製鋼グループは、鉄鋼、アルミなどの素材分野や機械・エンジニアリング分野でこれまで蓄積した生産技術、エンジニアリング技術やノウハウを活かし、環境に配慮した技術・製品・サービスを提供することで環境保全に貢献しています。

「船用バイナリー発電システム」の海上試験完了、2019年度より販売開始

船舶における排熱を利用した発電量としては世界最大規模

神戸製鋼は、旭海運(株)、三浦工業(株)と共同で開発を進めている「船用バイナリー発電システム」について、2016年12月に実船搭載での海上試験に合格し、このほど(一財)日本海事協会の認証を取得しました。2019年度の販売開始を予定しています。

従来、船舶用エンジンに付属する過給機*からの排熱は、利用されることなく廃棄されてきました。本システムは、船舶用としては世界で初めてこの過給機からの排熱を熱源として発電し、その電力を船舶の補助電源などに活用するものであり、エネルギーの有効活用にご貢献します。

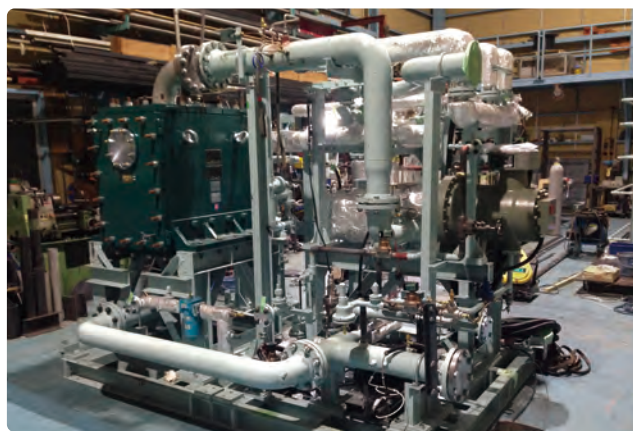
今回の海上試験では、目標であったエンジン出力7,500kW時に125kWを発電することを確認しました。これは、船舶の発電機における使用燃料の約20~25%に相当し(諸条件により変動)、船舶における排熱を利用した発電量としては世界最大規模となります。

3社は、本システムを通じて未利用エネルギーの有効活用を進めていきます。

*過給機：エンジンへ空気を送り込むことで高出力を得るための装置。

「船用バイナリー発電システム」独自の特長

1. エンジン出力5,000kWクラス以上への適用が可能
2. 船舶用エンジンは負荷変動が大きいが、神戸製鋼製のスクリュ式バイナリー発電機を利用することで、低負荷から高負荷まで幅広いレンジで発電が可能。
3. 各部品は、船体構造を切断することなくパーツハッチから搬入可能なため、就航中の船舶にも適用可能。



▲ システム外観(搭載前)

米国向け水素ステーション用 All in one コンパクトパッケージ「HyAC mini-A」の開発・販売開始

神戸製鋼は、2017年4月より、米国の定置式水素ステーション向けに高圧水素圧縮機、冷凍機、蓄圧器に加え、ディスペンサーをセットにした「HyAC mini-A(ハイアック ミニ エー)」の販売を開始しました。本モデルの特長は、神戸製鋼が2014年より国内の水素ステーション向けに販売している「HyAC mini」と比較し設置面積を10%削減させたことと、燃料電池自動車(FCV)への充填機であるディスペンサーを新たにセットにしている点です。

国内メーカーで海外の水素ステーション向けに水素圧縮機お

よびその他機器を販売するのは、当社が初となります。神戸製鋼は、米国カリフォルニア州にある圧縮機関連の子会社であるKobelco Compressors America, Inc. と協力し、拡販を進めていきます。



▲ 「HyAC mini-A」外観

橋梁用ロングライフ塗装用鋼板「エコビュー®」がNETISで活用効果評価済み技術「VR」の認定を取得

神戸製鋼の橋梁用鋼板の一つである、ロングライフ塗装用鋼板(商品名:エコビュー®)が、2016年12月6日付けで橋梁用厚鋼板としては初めて国土交通省の新技術情報提供システム(NETIS)の「VR」技術認定を受けました。「エコビュー®」は、鋼橋の塗装の塗り替え周期延長を可能にする共に耐久性向上にもつながる厚鋼板で、約40橋の実績があります。これは、「エコビュー®」が複数の国土交通省直轄工事で採用され、国土交通省が直接、「エコビュー®」の優れた耐食性能を評価、確認した技術であることが証明されたことを示すものです。

「エコビュー®」は「VR」技術認定を受けたことで、お客様が設計および施工段階においてより容易に採用できることから、今後、さらなる採用拡大に向け、利用技術提案活動を積極的に推進し拡販を図っていきます。



▲ 「エコビュー®」を適用した橋梁

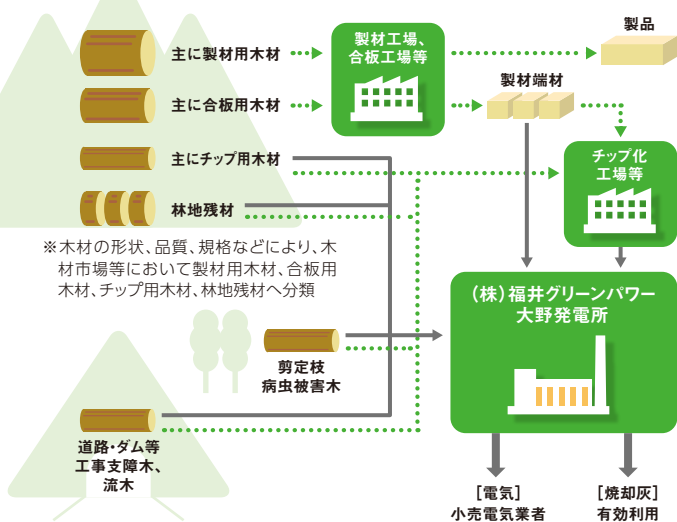
木質バイオマス発電所が営業運転開始

(株)神鋼環境ソリューションが出資する(株)福井グリーンパワーは、2016年4月、福井県大野市において大野発電所(木質バイオマス発電設備)の営業運転を開始し、以降、大きなトラブルもなく順調に稼働しています。

主に福井県内で発生する未使用間伐材や端残等の一般木材など年間7~8万トンの木材を燃料として発電を行い、再生可能エネルギーの固定価格買取制度(FIT制度)に基づき売電する事業を担います。大野発電所の発電規模は7,000kWで、これは一般家庭約1万5千世帯分に相当します。

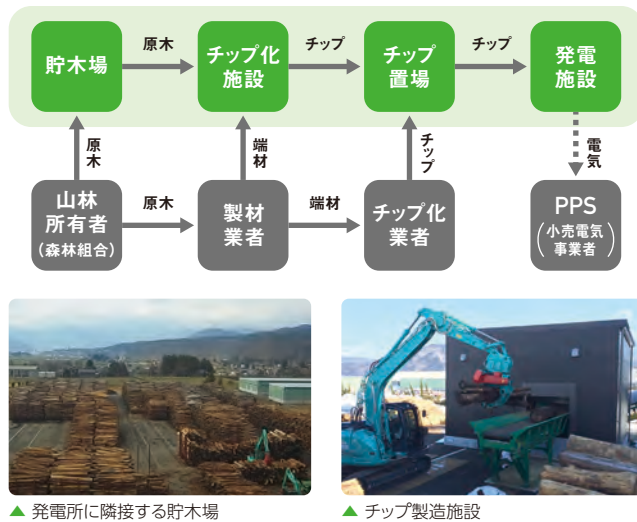
(株)神鋼環境ソリューションと(株)福井グリーンパワーは、本事業を通じて、持続可能な森林づくりと福井県内の林業再生、並びに未利用エネルギーの有効活用による循環型社会の構築に貢献します。

事業スキーム



▲ 大野発電所(木質バイオマス発電設備)外観

貯木から発電までの一貫体制



▲ 発電所に隣接する貯木場

▲ チップ製造施設

新技術搭載の金属リサイクル分野向け新型機を発売

コベルコ建機(株)は、金属リサイクル分野向け新型機に先進のマグネットシステム「eマグ」を搭載した25トン級マグネット装着機を2016年9月に発売しました。「eマグ」は、新型ハイブリッド油圧ショベルSK200H-10に搭載している、コベルコ建機(株)が独自開発した発電電動機などの技術を活用しており、マグネット吸着力を飛躍的に向上させて高い作業性を実現しました。また、従来のシステムに比べ構造がシンプルとなったため、メンテナンス性も大幅に向上しています。

販売を開始したSK260DLC-10のマグネット装着機は、「eマグ」を搭載することで、同じ仕事量で従来機比▲17%の燃費削減を可能としています。2017年4月には30トン級の発売を開始し、今後も20トン級の発売を予定しています。

コベルコ建機(株)は、これからも人と環境にやさしい循環型社会創出のために、創造的な「知と技」によって、革新的なソリューションを提供していきます。



▲ 25トン級マグネット装着機[SK260DLC-10]

TOPICS!

社外からの表彰 神戸製鋼グループの環境に配慮した技術・製品・サービスなどは、社外からも高い評価を得ています。

都心型バイオガスシステムが第14回環境・設備デザイン賞「入賞」を受賞

(株)神鋼環境ソリューション、(株)竹中工務店、三機工業(株)の3社は、2014年春に全面開業した高さ日本一の複合ビル「あべのハルカス」に納入した「都心型バイオガスシステム※」に対し、(一社)建設設備総合協会主催の第14回環境・設備デザイン賞 設備器具・システムデザイン部門入賞を受賞し、2016年5月18日に授与式が行われました。

本製品は、下記の点で画期的なシステムであり、今後同様の事例が増加し、都市インフラの一つとして普及することが期待されます。

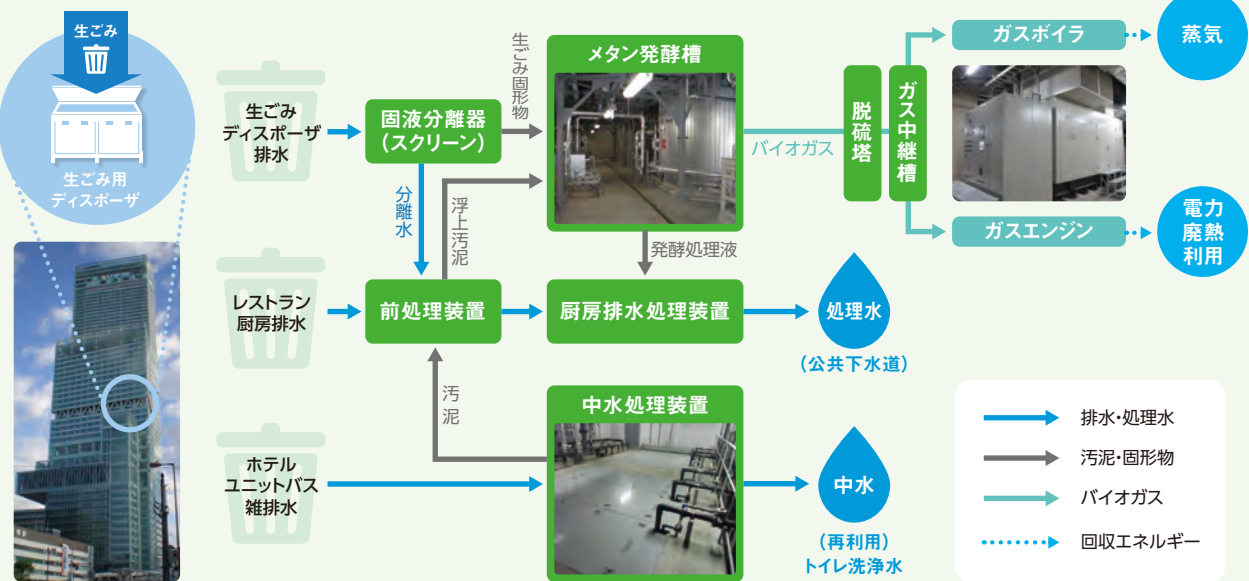
1. 従来は費用をかけて場外処分していた生ごみと汚泥の大部分をビル内で処理できる。
2. メタン発酵方式を採用しているため、生ごみと汚泥から都市ガス代替となるバイオガスが得られ、メタン発酵処理水は下水放流できる。
3. 生ごみは排出箇所からディスポーザーで破砕して水と共に送るので、運搬労力・電力が少なくて済む。



※都心型バイオガスシステム

百貨店やホテル、レストランなどの複合ビル内で発生した生ごみ(食品廃棄物)や厨房排水からバイオガスを作り出しエネルギー源として再利用する設備です。ビル内各所で発生する生ごみはディスポーザーで破砕し、発酵槽へ配管搬送します。メタン発酵により発生するメタンガスはガスエンジンやボイラなどの燃料として利用することができます。

都心型バイオガスシステム



世界最高磁場のNMR装置(1020MHz)が文部科学大臣表彰「科学技術賞」を受賞

神戸製鋼、国立研究開発法人物質・材料研究機構(NIMS)、国立研究開発法人理化学研究所(理研)、(株)JEOL RESONANCE(日本電子(株)の子会社)の4社は、2015年7月に開発完了済みの「世界最高磁場のNMR装置※(1020MHz)」に対し、文部科学省主催の平成28年度文部科学大臣表彰において「科学技術賞」を受賞しました。

高い磁場を発生させるために、NMR装置には超電導線材・超電導マグネットが使われており、神戸製鋼グループのジャパンスーパーコンダクタテクノロジー(株)が製造しています。超電導線材・超電導マグネットは電流を抵抗ゼロで流すことが可能なため、省エネルギーに貢献できる製品であり、送電機器、発電機、核融合炉などの省エネルギー機器の開発にも採用されています。



※NMR装置(nuclear magnetic resonance)

物質へ磁場をかけ、発生した原子核の磁気的エネルギーを精密に測定することにより、分子構造を調べることが可能な装置です。磁場が高い程感度が高くなり、従来は困難であった複雑な構造を解析することが可能です。人体内部の疾患や組織の状態を解析するために使用されるMRIや水素の比率の差異を分析することが可能なため、食品の産地証明や化学薬品の中にある分子の特定・分析などに使用されています。

詳細はホームページをご参照ください。

http://www.kobelco.co.jp/releases/1194609_15541.html

研究開発での環境への貢献

再生可能エネルギー利用水素ステーションの実証

神戸製鋼グループは、水素源の一部を再生可能エネルギーから生み出す、より低炭素な水素利用が可能な次世代水素ステーションの実証に取り組んでいます。

水素ステーションなどのネットワークの構築と、FCV(燃料電池自動車)による水素の利用が始まっています。まだ黎明期であることから、再生可能エネルギーに由来する低炭素な水素のみでサプライチェーンを構成するには、再エネ電力供給・水電解・水素貯蔵/供給それぞれの技術および規模・コストに課題があります。

神戸製鋼グループでは、水素利活用時の低炭素化を進めるため化石燃料由来の水素ステーションに中規模の水電解装置を付設し、再エネ由来の水電解水素を混合して利用する

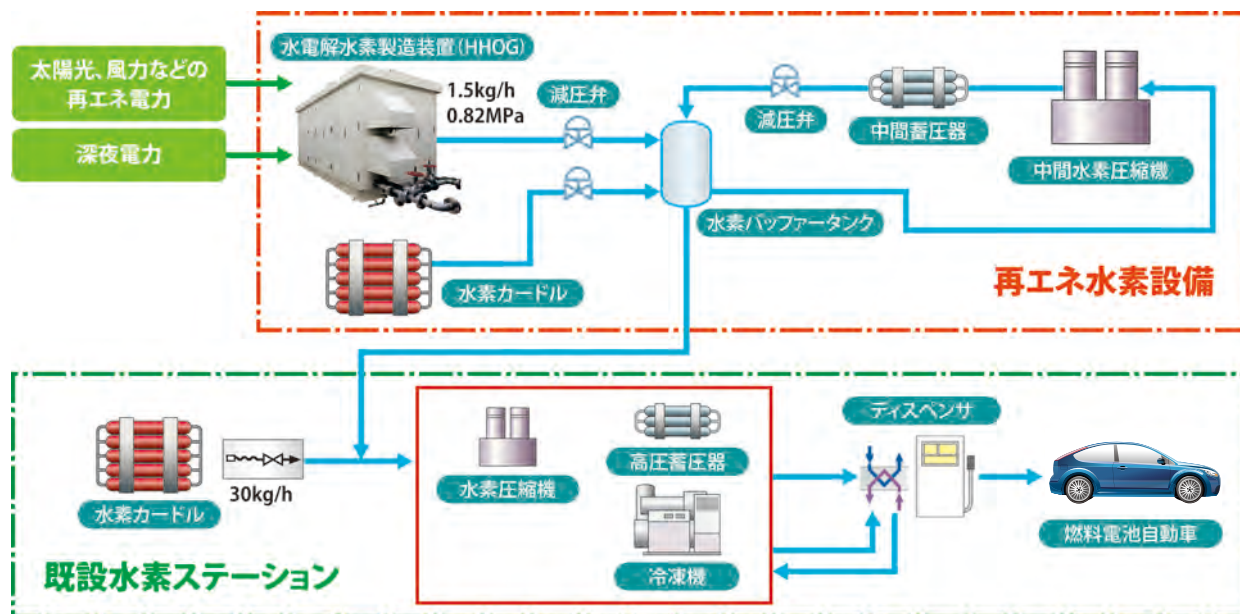
ことで、より低炭素な水素の利用を実現し推進するための取り組みを開始。水電解水素利用システムの基本設計および運用方案策定、時間変動が予想される再エネ由来水電解水素の昇圧・蓄圧・制御システムを設計・製作し、有効性確認と社会受容性の拡大を目指しています。

この実証は、環境省のCO₂排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業の「中規模(1.5kg/h程度)の高圧水素を製造する再エネ由来水素ステーション関連技術の開発・実証」に採択され、水素ステーションエンジニアリング・建設事業を行っている(株)神鋼エンジニアリング&メンテナンスと水電解水素製造装置を製造・販売している(株)神鋼環境ソリューションが共同で2016~2017年度に実施します。

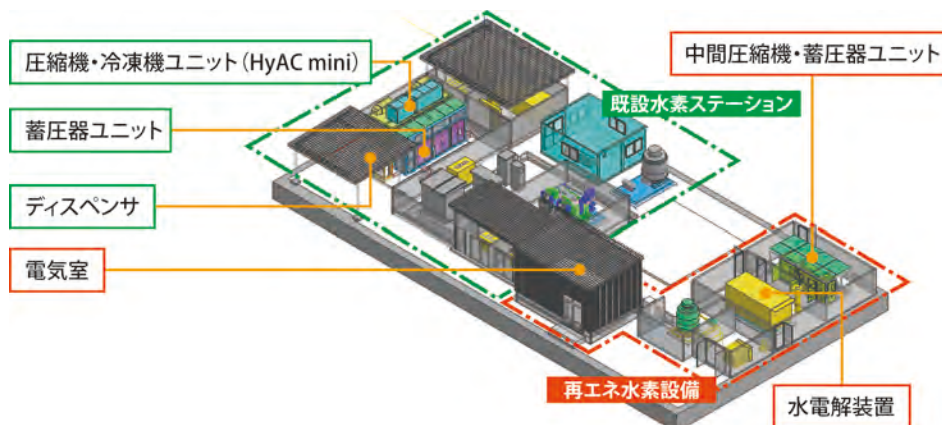
設備基本仕様

平均供給能力	300Nm ³ /h以上、5kg×約3分充填、6台/時間×12時間営業=72台充填/日
再エネ水素供給能力	20Nm ³ /h、再エネ水素100%の場合 8台充填/日、72台充填/日だと平均12%の再エネ水素混合(24時間水素製造)

設備フロー



配置イメージ



環境関連情報の開示

神戸製鋼グループは、環境経営に関わる活動をステークホルダーの皆様にご伝えるために、環境情報を積極的に公開しています。事業所においては、地域の皆様との対話を定期的に行うなど、環境コミュニケーションにも取り組んでいます。

環境・社会報告書の発行

神戸製鋼は、環境報告書の第1号を1999年に発行して以来、毎年環境への取り組みを紹介しています。2006年からは社会性の取り組みと共に「環境・社会報告書」として発行しています。今後も神戸製鋼グループの環境経営に関わる活動の成果を広くお伝えできるよう努めていきます。より詳しい環境データや取り組み事例、過去の報告書は、ホームページをご覧ください。

http://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/csr/kaiji/report/

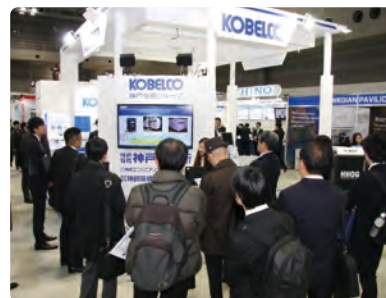


展示会への参加

神戸製鋼グループは、展示会への出展などを通じて環境に貢献する技術・製品・サービスを紹介します。

2016年度は、「国際フロンティア産業メッセ2016」や「メッセナゴヤ2016」、「第13回国際水素・燃料電池展(FC EXPO 2017)」などに参加しました。

「第13回国際水素・燃料電池展(FC EXPO 2017)」は、東京ビッグサイトにて2017年3月1～3日に開催されました。神戸製鋼グループでは、All in one コンパクトパッケージ「HyAC mini」、HHOG(水電解式高純度水素発生装置)、拡散接合型コンパクト熱交換器「DCHE」など、当社グループの水素関連機器について幅広く出展しました。



▲ 第13回国際水素・燃料電池展(FC EXPO 2017)

公開モニターによる関連情報の開示

加古川製鉄所、神戸製鉄所および神戸発電所では、製鉄所のばい煙排出量などの関連情報を、各地に設置したモニターを通じてリアルタイムで公開しています。

加古川製鉄所環境情報公開モニター設置場所	加古川市役所、播磨町役場別府および尾上の地元町内会の公民館
神戸製鉄所、神戸発電所環境情報公開モニター設置場所	灘浜サイエンススクエア 灘浜ガーデンバーデン

地域社会とのコミュニケーション

環境保全の取り組みをご理解いただくために、加古川製鉄所、神戸製鉄所にて地域の皆様への現地説明会を実施し、合計126人の方に参加いただきました。

また、環境に関するお問い合わせ窓口として、加古川製鉄所と神戸製鉄所に環境フリーダイヤルを開設しています。今後も皆様の一つひとつのご意見に耳を傾けていきます。

TOPICS!

日本政策投資銀行から環境格付で最高ランクの評価を獲得

神戸製鋼は、平成29年日本政策投資銀行(DBJ)による環境格付*において「環境への配慮に対する取り組みが特に先進的」という最高ランクの評価を受けました。当社の環境への取り組みや社会貢献活動が評価された結果です。

*日本政策投資銀行の「環境格付」制度を利用する際に取得するもの。企業の環境経営を評価し、格付に応じて、貸出金利が優遇される。



環境会計

神戸製鋼グループは、環境保全活動に継続的に取り組んでいます。環境保全活動に関わる費用と効果を把握し、ステークホルダーの皆様にご理解を深めていただくため、情報を開示しています。

環境関連投資と環境保全効果

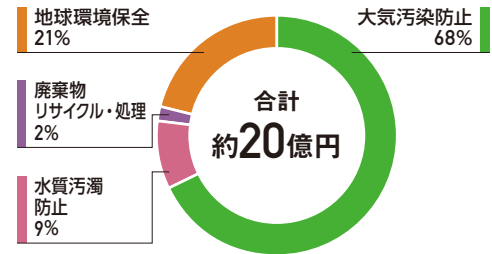
神戸製鋼では、環境負荷低減のために環境対策設備の新設や維持管理に継続して投資を行い、さまざまな面から環境対策を進めています。

2016年度は、主に機器の高効率化や熱効率の改善による省エネルギー、集じん機の設置・更新、ばい煙や粉じんの低減、配管などの更新による汚水の漏洩リスクの低減などを目的に約20億円を投資しました。これらの投資は、CO₂排出量の削減や大気環境負荷低減、水質汚濁防止に寄与しています。

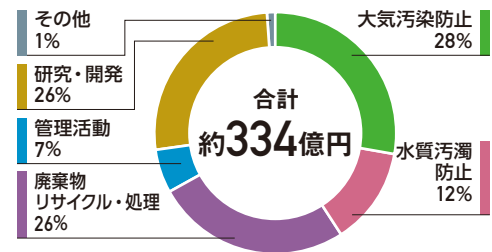
また、2016年度の費用額の合計は約334億円で、その内訳は大気汚染防止に約28%、水質汚濁防止に約12%、廃棄物リサイクル・処理に約26%となっています。さらに、技術・製品・サービスでの貢献として、水素ステーション向け装置機器類の開発、自動車・航空機用材料の製造に関する技術開発に取り組むなど、研究・開発に総費用額の約26%を投じています。

今後も、環境保全に関わる対策を継続的に実施していきます。

▶ 2016年度 投資額の内訳(神戸製鋼)



▶ 2016年度 費用額の内訳(神戸製鋼)



全員参加による取り組みの展開

神戸製鋼グループの全従業員が、環境に関する意識を高め、常に環境に配慮した行動が行えるよう、環境教育・学習を継続して実施すると共に、コベルコ エコライフ ノート(環境家計簿)やエコオフィス活動などの取り組みを推進しています。

環境意識の向上

神戸製鋼グループ環境会議

神戸製鋼グループは、環境情報の共有化、環境への取り組みの横展開などを図ることを目的に、毎年「神戸製鋼グループ環境会議」を開催しています。2016年度はグループ会社29社を含め85人が参加し、各事業所での環境負荷低減などの有益な活動事例や失敗事例の発表、法令改正内容の確認などを行いました。

グループ全体で環境への取り組み強化を図ると共に、環境意識の向上に努めていきます。



▲ 神戸製鋼グループ環境会議

環境教育・学習

神戸製鋼は、2006年度から環境教育・学習を階層別(事業所の職制ごと)の教育に織り込み、継続的に実施しています。また、イントラネットを利用したe-ラーニングを定期的に行い、従業員の環境意識向上と環境法令の周知徹底を図っています。

環境関連資格取得の推進

環境管理の取り組み強化や環境意識の向上を図るべく、公害防止管理者やエネルギー管理士など事業所ごとに必要な資格取得を推進しています。

▶ 環境関連有資格者数(神戸製鋼)

資格	有資格者数	資格	有資格者数
公害防止管理者(大気関係)	256	公害防止管理者(ダイオキシン類関係)	61
公害防止管理者(水質関係)	194	公害防止主任管理者	7
公害防止管理者(騒音・振動関係)	202	エネルギー管理士	165
公害防止管理者(粉じん関係)	53	環境計量士	15

リスク管理の徹底

神戸製鋼グループは、事業活動に伴う環境リスクを把握し、リスク低減活動を実施すると共に、日常の管理手順を定め、適切な管理を実施しています。また、環境監査などの活動を通じて、法令遵守の徹底や環境管理の強化に継続して取り組んでいます。

環境管理の強化

神戸製鋼の事業所については、ISO14001などの環境マネジメントシステムを導入しています。PDCAサイクルを通じて、環境管理の強化を図っています。また、本社環境防災部は各事業所の法令遵守状況を书面および現地監査を通じて確認しています。

グループ会社についても、環境リスクの大きい事業所は

ISO14001などの環境マネジメントシステムを導入し、環境管理の強化を図っています。神戸製鋼は、各グループ会社事業所の、法令遵守状況を书面および現地調査を通じて確認しています。現地調査および調査では、さらなる改善が必要なリスクを抽出し、リスク低減を図っています。



▲ 現地監査 (神戸製鉄所)



▲ 現地調査 (神鋼鋼線工業(株))

緊急事態対応訓練

各事業所にて、環境リスクを抽出し、リスク低減を図ると共に緊急事態対応の訓練を定期的を実施しています。

訓練後は、反省会などで課題を抽出し、PDCAサイクルを回しています。



▲ 重油漏洩防止訓練 ((株)セラテクノ)

2016年度の行政による指示・指導

神戸製鋼およびグループ会社において、環境法令について重大な違反はありませんでしたが、関係行政から指示や指導を受けました。指示・指導事項については適切に対応しました。

行政による指示・指導件数

	大気	水質	その他
神戸製鋼	3	4	3
グループ会社	1	5	1

行政による指示・指導の事例

- ・ 産業廃棄物の中間処理業者を変更した際、委託契約外の産業廃棄物をマニフェスト未交付のまま処理委託しました。関係行政から再発防止と法令遵守の徹底を図るよう指示を受け、中間処理業者変更時の対応ルールを整備すると共に、関係従業員への教育を実施しました。
- ・ ばい煙発生施設に該当する加熱炉の排出ガス流量値が届出最大値を超過したため、関係行政から指導を受けました。測定時に非正常作業に伴って燃焼空気量が過剰供給されたことが原因であり、定常操業状態での測定を徹底するよう周知しました。

海外事業所におけるリスク管理活動

神戸製鋼グループは、グループの環境経営基本方針に則り、世界各地に広がるグループ事業所での環境管理の徹底を図っています。

海外グループ会社の現地環境調査を実施

神戸製鋼グループでは、国内の事業所・グループ会社と同様に海外グループ会社においても、将来的には日本国内に準じた環境管理体制を整備していくこととしています。そのために、2009年度より世界各地の製造拠点を対象として神戸製鋼が主体となった「現地環境調査」などを行い、現地の環境管理状況を確認し、必要な是正対応や管理強化を図っています。

2016年度はタイにおいて生産拠点となっているグループ会社に対して、環境管理状況の実態把握と問題点の抽出を現地調査で行い、その結果をもとに必要な是正措置を行っています。中国においても、生産拠点となっているグループ会社ごとに管理規程を策定し、運用を開始しました。今後も継続して、海外事業所の環境管理を強化するための取り組みを継続して実施します。



▲ 現地環境調査(タイ)



海外拠点との情報共有・連携

近年生産拠点が増加した中国において、グループ会社とより密接に連携し、きめ細かく支援を行うため、統括会社である神鋼投資有限公司(KCHD)に2015年4月から環境担当者を配置しています。KCHD環境担当者は、中国グループ会社の環境管理を支援するため、最新の環境関連法令情報の定期的な発信、中国グループ会社の環境管理担当者を対象とした交流会などを行っています。

また、多くのグループ生産拠点を有するアメリカでは、統括会社であるKobe Steel USA, Inc(KSU)の環境担当者がEHS(Environment, Health & Safety)ミーティングにおける生産拠点の環境担当者との情報共有などを行っています。その他地域においても環境情報共有体制のレベルアップや環境セミナーの開催などで、コミュニケーションを図っています。今後もこのような活動を継続し、環境リスクの低減に努めていきます。



▲ 中国での交流会

TOPICS!

環境負荷低減への取り組みで表彰(アメリカ オハイオ州)

PRO-TEC Coating Company(以下、PRO-TEC)は、溶融亜鉛めっき鋼板・冷延ハイテンの製造・販売を目的として1990年に設立された拠点です。2016年、PRO-TECの環境負荷低減に向けた取り組みが、オハイオ州環境局からEncouraging Environmental Excellence (E3) Achievement awardを受賞しました。



▲ PRO-TEC Coating Company

工場での環境管理に関する教育(タイ サムットプラカーン県)

タイにおける各種溶接材料の生産拠点であるThai-Kobe Welding/Kobe Mig Wire Thailand Co., Ltd.では、従業員に対しさまざまな環境教育を行っています。2016年度は、工程排水の管理、化学物質の移動量の把握・集計などについて教育しました。



▲ 環境教育の様子

ISO14001:2015認証取得(中国 江蘇省)

自動車サスペンション用アルミ鍛造品の製造・販売を目的として2010年に設立された神鋼汽車鋁部件(蘇州)有限公司は、2017年1月にISO14001:2015の認証を取得しました。



▲ 神鋼汽車鋁部件(蘇州)有限公司

社会性 報告

多様な接点で、 一人ひとりの “信頼”に応えます。

ステークホルダーとの関わり

神戸製鋼グループは、ステークホルダーの皆様と、さまざまな接点でつながっています。お客様・お取引先様、株主・投資家様、地域社会の皆様、従業員…。それぞれの立場を尊重し、ご意見・ご指摘に応えながら、多様なシーンで社会に貢献することで、企業としての社会的責任を果たしていきます。ステークホルダーの皆様と、共に生き、共に発展するために。神戸製鋼グループは、“あなた”との信頼をつくります。



地域社会の 皆様

P49~56

地域に息づく良き企業市民の一人として、各地の事業所を起点に、環境保全活動を支援し、地域社会とふれあい、貢献する活動を続けます。

株主・ 投資家様

P47~48

経営の透明性を高め、グループ全体での企業価値向上を図ることで、健全で良好な関係づくりに努めます。



お客様・ お取引先様

P45~46

優れた製品・サービスの提供を通じて、お客様やお取引先様の期待と信頼にお応えします。

海外の 現地社会

P52

海外の文化や慣習を尊重し、その国の企業の一つとして現地社会の発展に貢献する活動を目指します。



社員

P57~60

社員の人格・個性や人権を尊重し、多様な人材がのびのびと活躍できる職場環境づくりを進めます。

ご意見・ご指摘

活動のステップアップ

KOBELCO

HIGHLIGHTS ON SOCIETY /// 2016年度の活動ハイライト

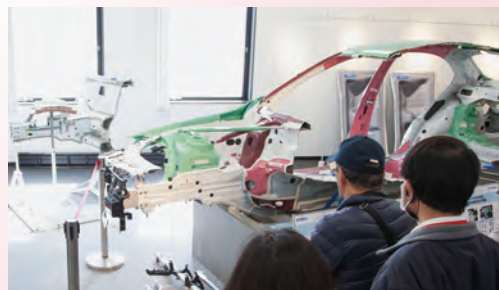
お客様・お取引先様



ものづくり推進活動を担う
「ものづくり推進リーダ会議」

▶ P.45

株主・投資家様



株主の皆様の事業所見学会に
累計5,365人をご招待

▶ P.48

地域社会の皆様



近隣の小学校へ赴き
「ものづくり教室」を開催

▶ P.50

海外の現地社会



バンコクのフットボールクラブの
キッズ部門にヘッドキャップを寄贈

▶ P.52

社員



「健康経営銘柄」に
3年連続で選定

▶ P.59

優れた製品・サービスの提供

「KOBELCO の3つの約束」の一つ『信頼される技術、製品、サービスの提供』を実践するため、「ものづくり力」強化のためのさまざまな取り組みを通じて、国内外のお客様・お取引先様に信頼され、満足される「優れた製品・サービス」を提供していきます。

ものづくり推進活動

ものづくり推進部は、神戸製鋼グループのものづくり力強化に向け、「情報共有」「シナジー発揮」「人材育成」などに取り組んできました。

これからも、「品質力の強化」「現場ものづくり力の強化」

「省エネ」などの課題にも取り組み、神戸製鋼グループ全体のものづくり力の強化により、信頼される製品、サービスの提供に努めていきます。

神戸製鋼グループ内での連携強化

各工場の代表者が参加する『ものづくり推進リーダ会議』を通じて、全社施策に関わる意見交換や優れた事例の情報共有を図ると共に、個別の要素技術に関わる専門技術者同士

の交流の場である『生産技術交流会』を通じて、グループ全体での技術レベルの向上を図っています。

ものづくり推進リーダ会議

神戸製鋼グループのものづくり推進活動の窓口として各工場に「ものづくり推進リーダ」(工場長、副工場長クラス)を設置し、「ものづくり推進リーダ」が集まる『ものづくり推進リーダ会議』を定期的開催しています。ここでは、社内外での先進事例の紹介、実施中の施策の推進状況の共有や新たな

施策に関する討議などを行っています。

紹介した事例をそれぞれの工場における改善活動の参考にしてもらい、要望があれば紹介事例の工場との交流会なども個別に企画しています。



▲ 新たな施策に関する討議



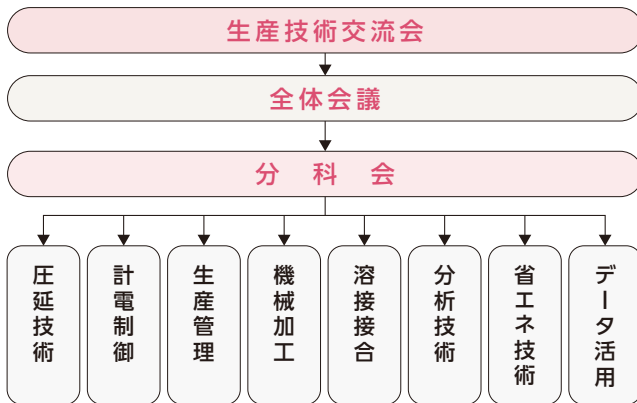
▲ 優れた事例の共有

生産技術交流会

グループ内で共通性の高い技術分野については、同じ技術分野の技術者同士の交流の場として『生産技術交流会』を設けています。

『生産技術交流会』は、現在、下表に示す8つの技術分野に

生産技術交流会



▲ 溶接技能の練習会

ついて分科会を設けて活動を行っています。

『生産技術交流会』の各分科会には、事業部門や会社の枠を超えてその分野の技術者が参加して、「情報共有」「人材育成」「事業貢献」の3つの課題に取り組んでいます。

生産技術交流会の取り組み

狙い	活動
情報共有	講演会
人材育成	勉強会
事業貢献	プロジェクト活動



▲ 機械加工分科会の勉強会

品質力強化の取り組み

神戸製鋼グループの各事業所はISO9001などの品質マネジメントシステムを採用し、顧客満足度調査を通じた品質向上に取り組んでいます。

顧客満足度調査でいただいたお客様からの貴重なご意見、ご要望は経営幹部、関係者で共有し、お客様に信頼され、満足される製品・サービスを提供できるよう、「ものづくり力」の強化を図っています。

改善観点の優先順位

1. Safety (安全)	安全第一
2. Quality (品質)	安全を確保し、品質改善
3. Delivery (納期)	安全と品質を確保し、生産性改善
4. Cost	安全、品質、生産性を確保し、コストダウン

現場ものづくり力強化の取り組み

神戸製鋼グループでは、現場ものづくり力のベースとなる「5S活動*」を重要な活動ととらえ、ものづくりに携わる全職場を対象にした5S活動の強化を進めています。

また、現場の改善活動(QCサークル活動)も積極的に推進しています。特に、年に1回、「KOBELCO QCサークル大会」を開催し、神戸製鋼グループ全体に横串をととした情報共有や啓発を図り、活動レベルの底上げを目指しています。

*5S活動：5Sとは、整理(Seiri)・整頓(Seiton)・清掃(Seisou)・清潔(Seiketsu)・躰(Sitsuke)の頭文字をとったもの。ものづくりの現場で重視される、職場環境を整備する活動を指します。



▲ 5S点検の様子



▲ KOBELCO QCサークル大会

株主・投資家の皆様との関わり

神戸製鋼グループは、中長期的な視野に立った事業展開を推進することにより、グループ全体での企業価値向上に努めています。その中で、株主の皆様への利益還元はもちろんのこと、株主・投資家の皆様をはじめとするあらゆるステークホルダーとのコミュニケーション、経営の透明性の向上を重要課題と認識し、適正かつ迅速な情報開示と、幅広い情報公開を進めていきます。

株主還元

神戸製鋼は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つとして位置付け、中長期的な視野に立った事業展開を推進することにより、グループ全体での企業価値向上に努めています。

成果の配分につきましては、当社の財政状態、業績の動向、先行きの資金需要などを総合的に考慮することとし、配当につきましては、継続的かつ安定的に実施していくことを基本としつつ、各期の業績および配当性向などを勘案して決定していきます。

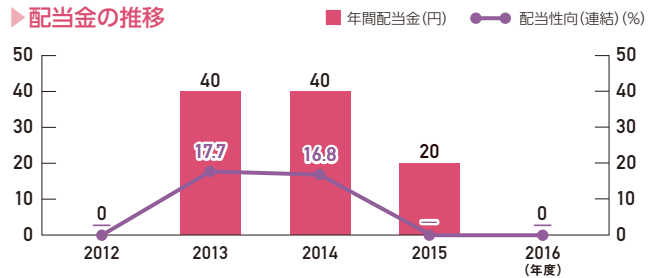
内部留保資金につきましては、将来の成長のために必要な投資などに充てることを通じて、収益力の向上に努めると共に、財務体質の改善・強化を進めていきます。

また、業績に応じた利益配分を考慮する上で、基準とする配当性向につきましては、当面の間、連結純利益の15%から25%程度を目安としています。

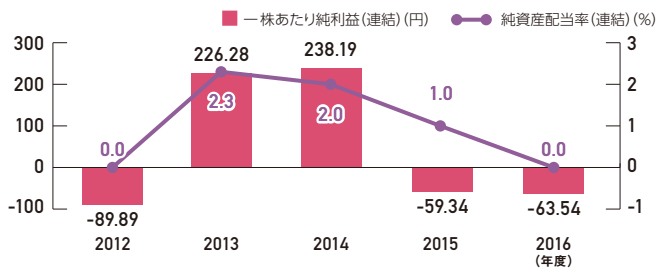
剰余金の配当につきましては、会社法第459条第1項および第460条第1項に基づき、取締役会の決議によって定める旨を定款に定めています。

これに基づき、定款に定める基準日である中間期末および期末に、年2回の配当を取締役会決議により実施することを基本としています。それ以外を基準日とする配当を行う場合には、別途取締役会にて基準日を設定した上で行います。

▶ 配当金の推移



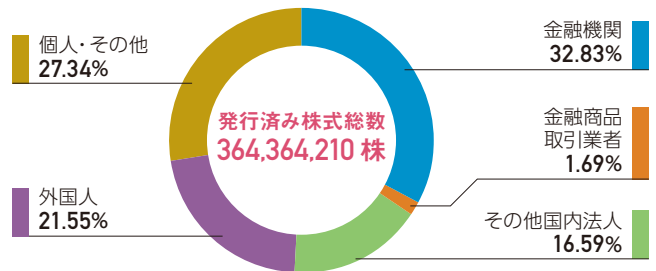
※2012年度、2015年度および2016年度の配当性向は、連結純利益が損失のため、[-]で表記しています。
 ※2016年10月1日付で10株を1株に併合する株式併合を実施したため、2012年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、年間配当金を記載しています。なお、2012年度および2016年度の配当は見送りいたしました。



※2016年10月1日付で10株を1株に併合する株式併合を実施したため、2012年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純利益を算定しています。

株主の状況

▶ 所有者別株式分布 (2017年3月31日現在)



情報開示

株主や投資家の皆様に長期的かつ安定的に信頼・支援をいただくために、説明責任の遂行が極めて重要であると考え、企業情報や財務情報の適時・適切な開示に努めています。

情報開示に関しては、法定開示基準の遵守、証券取引所の定める適時開示に関する規則に則った開示はもちろんのこと、これ以外の情報であっても、投資判断に関わると考えられる開示可能な情報については積極的に、迅速かつ継続的に発信することに努めています。また、海外の株主・投資家の皆様に対し同じ情報が発信できるよう英文開示にも合わせて取り組んでいます。

こうした取り組みにより神戸製鋼グループの経営状況や

事業活動状況を十分にご理解いただき、適正な企業価値評価を得ることを目指しています。



▲ 株主の皆様へ

株主・投資家の皆様とのコミュニケーション

株主の皆様とのコミュニケーション

株主総会を、株主の皆様とコミュニケーションする場としてとらえ、できるだけ多くの方に議決権を行使していただくために、招集通知の早期発送、神戸製鋼ホームページへの早期の掲載、海外向けの英文での開示、開催日の集中日回避などの工夫をすると共に、インターネット（携帯電話、議決権行使プラットフォームへの参加含む）を通じて議決権を行使いただける環境を整えています。

また、株主の皆様が多様な事業を営む神戸製鋼グループに対する理解を深めていただく機会として、2007年度より株主の皆様を対象とした見学会を開催しています。これまでに合計19回の開催を数え、5,365人（同伴者様含む）をご招待しました。これまでにご覧いただいた事業所は以下の通りです。

事業所	主な事業内容	場所
加古川製鉄所	鉄鋼	兵庫県加古川市
神戸製鉄所・神戸発電所	鉄鋼・電力	兵庫県神戸市
高砂製作所	鉄鋼[鋳鍛鋼・チタン・鉄粉]、機械	兵庫県高砂市
真岡製造所	アルミ[アルミ板]	栃木県真岡市
神戸総合技術研究所	研究開発	兵庫県神戸市
コベルコ建機(株) GEC・五日市工場	建設機械	広島県広島市

今後も、さまざまな事業所をご覧いただき、理解を深めていただけるよう、見学会を開催していきます。新たな事業所での開催や、開催機会の増加なども検討していきます。

株主見学会の様子



▲ 神戸製鉄所



▲ 神戸発電所



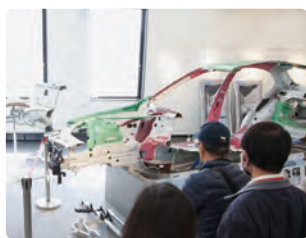
▲ 神戸発電所



▲ 真岡製造所



▲ 真岡製造所



▲ 神戸総合技術研究所

機関投資家の皆様とのコミュニケーション

国内の機関投資家や証券アナリストの皆様を対象に、神戸製鋼の経営方針や経営成績および財務状況をご理解いただく機会として、年4回の決算説明会を開催しています。

また、国内外の機関投資家や証券アナリストの皆様との個別面談を行い、継続的なコミュニケーションに努めています。

個人投資家の皆様とのコミュニケーション

個人投資家の皆様には、神戸製鋼ホームページ(<http://www.kobelco.co.jp>)を通じて、半年に1度株主の皆様へ送付する「株主の皆様へ」などの発行物の他、アニュアルレポートや有価証券報告書、この環境・社会報告書など幅広い情報を提供し、会社説明会も実施しています。

2015年度に更新したホームページでは、新着ニュースの掲載や、冊子の閲覧だけでなく、神戸製鋼グループの製品・技術をわかりやすく検索いただけるようにレイアウトを構成し、映像による製造現場のご紹介や需要分野から当社グループの製品・技術を見ていただけるページを設けるなど、より深くご理解いただけるような工夫を凝らしています。

また、この他にも、海外の投資家の皆様にも神戸製鋼グループを知っていただけるよう、英語版や中国語版のホームページを開発しています。

神戸製鋼グループは、株主・投資家の皆様から末永く信頼いただけるよう、そして、中長期的な企業価値向上に向けて、今後も情報開示およびコミュニケーションの質的向上に努めていきます。

The screenshot shows the Kobelco website's investor relations section. It includes a navigation menu, a '株主・投資家情報' (Shareholder/Investor Information) section with a table of financial data, a '新着情報' (Latest News) section with a list of recent announcements, and sections for '経営方針' (Business Policy), '財務ハイライト' (Financial Highlights), 'IRライブラリ' (IR Library), 'IRカレンダー' (IR Calendar), '株式情報' (Share Information), and '電子公告' (Electronic Announcements). The website is in Japanese and features a clean, professional design.

▲ 神戸製鋼ホームページ

社会との共生

神戸製鋼グループでは、それぞれの事業所が、地域社会に貢献するさまざまな活動を行っています。次世代の育成支援や地域交流・地域振興、海外での社会貢献活動、スポーツを通じた社会貢献、環境活動を通じた社会貢献など、社会の皆様と共に生きる、神戸製鋼グループの活動をご報告します。

次世代の育成支援

未来を担う子ども達の育成を支援する活動に、各地の事業所が継続して取り組んでいます。

コベルコ地域社会貢献基金

神戸製鋼は、創立100周年を機に、2006年度に「コベルコ地域社会貢献基金」を設立しました。2016年度は支援活動開始から11年目となり、未来を担う地域の子ども達を対象に、18の事業所(グループ会社含む)が、地元の施設や団体を通じて子ども達に遊具や楽器、教材などを寄贈しました。



▲ 茨木工場「ソフト素材の遊具で遊ぶ幼児」



▲ 神鋼建材工業「木製の積み木で街を作る子ども達」



▲ 高砂製作所「たくさんのおもちゃを受けとる園児」



▲ 神戸製鉄所「自然体験型イベント」



▲ 大安工場「新しいおもちゃに夢中の子ども達」

2016年度コベルコ地域社会貢献基金による支援実績

事業所名	支援先	主な支援内容	
神戸本社(兵庫県神戸市)	母子生活支援施設	一輪車など外遊び遊具や、キーボードなど音楽機器	
	児童養護施設	避難車や折りたたみテーブル	
	児童館	イベント時に使用する材料や景品	
神戸総合技術研究所(兵庫県神戸市)	体育協会	スポーツ大会で使用するピブス	
神戸製鉄所(兵庫県神戸市)	ボランティア団体	自然体験型イベントに使用する備品、機材庫	
	婦人会	子ども食堂で使う炊飯器や電子レンジ	
加古川製鉄所(兵庫県加古川市)	子育てプラザ	遊具や授乳用パーテーション、楽器	
	ボランティア団体	水路整備活動用の備品	
	ソフトボール協会	ソフトボール大会の会場設営費や消耗品	
高砂製作所(兵庫県高砂市)	認定こども園	絵本や遊具、収納庫	
	障がい者支援施設	絵本や遊具、収納庫	
	病児保育室	絵本や遊具、収納庫	
播磨工場(兵庫県加古郡播磨町)	ボランティア団体	環境学習用品、展示パネル制作用具	
	障がい児支援団体	健常者との交流イベントで使う備品	
藤沢事業所(神奈川県藤沢市)	野外活動施設	顕微鏡や木工具セット、収納庫	
福知山工場(京都府福知山市)	発達支援センター	ビデオカメラやバランスボード、座卓	
茨木工場(大阪府茨木市)	教育センター	プログラミングの教材	
	児童発達支援センター	室内用のソフト素材の遊具	
	学童保育室	一輪車	
西条工場(広島県東広島市)	小学校	学校内行事に使用する太鼓、パチ	
真岡製造所(栃木県真岡市)	小学校	学習用の実物投影機	
大安工場(三重県いなべ市)	子育て支援センター	室内用、持ち出し用の玩具や防災用品	
長府製造所(山口県下関市)	障がい者支援センター	野外遊びの用具、発達支援に必要な各種物品	
神戸製鋼グループ会社	神鋼造機(株)(岐阜県大垣市)	幼保園	ピクニックガーデンハウス
	神鋼建材工業(株)(兵庫県尼崎市)	保育所	積み木
	コベルコ建機(株)(兵庫県明石市)	小学校	運動会などの行事で使用するテント
	神鋼機器工業(株)(鳥取県倉吉市)	幼稚園、保育園	知育玩具
	ジャパンスーパーコンダクタテクノロジー(株)(福岡県北九州市)	図書館	科学系書籍

子どもの体験学習

ものづくりや環境保全に取り組む企業ならではの体験学習を通じて、子ども達の成長をサポートしています。

関西熱化学(株) 兵庫県

近隣の小学校へ赴き、「ものづくり教室」を開催

子ども達に、ものづくりの楽しさと素晴らしさを体験してもらうことを目的に、従業員が講師となった「ものづくり教室」を2005年度より12年連続で開催しています。

2016年7月には尼崎市立明城小学校5・6年生を対象に手作りヘッドホンの制作教室、2017年3月には加古川市立別府西小学校の児童を対象にラインシェード*の制作教室を開催しました。小学校の先生からも、子ども達は毎年開催されるものづくり教室を楽しみにしており、ものづくりの面白さを伝えたい、とコメントをいただいています。

*ラインシェード：風船にたこ糸を巻いて作る、ランプや電灯のかさ



▲ ラインシェード制作

灘浜サイエンススクエア 兵庫県

自然や科学と親しむ「自然教室」

神戸製鋼グループの地域交流施設・灘浜サイエンススクエアでは、子ども向けのビオトープ観察会やネイチャークラフト教室、昆虫と植物の標本鑑定会などの自然教室を開催しています。2004年の開館当初から、身近な自然との関わりを通じて環境を大切にする心や態度を育むために13年連続で開催しており、毎年約1,300人が参加しています。

子ども達から、「ヤゴを初めて見て、楽しかった」「少しの土の中にたくさん生き物がいた」など自然に対する発見に喜び声があがり、「子ども達の発想がとてもおもしろくて感心した」など親子でご満足いただいていることが伺えるコメントが多く寄せられました。「また参加したい」と評価されています。



▲ 土壌生物の観察



▲ 標本鑑定会

地域交流・地域振興

各地の事業所では、地域社会の一員として、さまざまな地域交流イベントや社会貢献活動を実施しています。

地域交流フェスティバルを各地で開催

神戸製鋼では、従業員やその家族、地元の方々に参加していただけるフェスティバルを2016年度も開催しました。どのお祭りも地域の恒例行事として定着し、毎年大勢のお客様が訪れています。

加古川製鉄所では、10月30日、「第26回神鋼かこがわフェスティバル」を開催しました。製鉄所構内や隣接するグラウンド、野球場、体育館などを会場にさまざまな催し物を行い、約8万人の参加者でにぎわいました。



▲ 加古川製鉄所
「たくさんの人でにぎわった構内」

高砂製作所では、11月12日に「高砂ファミリーホリデー」を開催し、約4,000人の皆さんにご来場いただきました。キャラクターショーや従業員によるバンド、和太鼓の演奏、近隣の中学校の吹奏楽など、参加者全員に楽しんでいただきました。



▲ 高砂製作所「従業員によるバンド演奏」

長府製造所では、10月15日、「長府フェスタ2016」を開催しました。玉入れや綱引き、子ども達が楽しみにしていた戦隊ショー、長府漁協の皆さんによる「マグロの解体ショー」など、約4,000人の参加者でにぎわいました。



▲ 長府製造所「綱引き」

藤沢事業所で行っている「神鋼祭」は、1973年に地域の盆踊りとして始まり、今では地域社会にすっかり定着したお祭りとなりました。2016年は8月3日に開催され、歌謡ショーや大道芸、お楽しみ抽選会、花の苗配布などのイベントで、約1,300人が盛り上がりました。



▲ 藤沢事業所「第44回 神鋼祭」

体育館・グラウンドを地元の皆様に開放

神戸製鋼グループの各地の事業所では、日頃地元の方々に体育館やグラウンドなどを開放し、地域のスポーツやイベントなどにご利用いただいています。その一部をご紹介します。



▲ 西条工場「近隣の少年野球チーム」



▲ 茨木工場「少年野球の練習風景」



▲ コベルコ マテリアル銅管「体育館でフットサル」



▲ コベルコ銅管「体育館で卓球の練習」

神戸製鋼の**西条工場**では、工場の休日に、近隣の少年野球チームや団体のレクレーションのためにグラウンドを開放しています。**茨木工場**では、地元の少年野球チームにグラウンドを、バレーボールやバドミントンチームに体育館を、定期的に開放しています。また、毎月、地域のサッカーチームを社内チームが招いて交流試合を実施しています。

(株)コベルコ マテリアル銅管では、毎週、野球の試合などにグラウンドを開放し、また公式フットサルクラブなどへ体育館を貸し出しています。**コベルコ銅管(株)**では、卓球、バドミントンなどスポーツや、カラオケ、三味線など趣味の集まりに、週3回程度、体育館を開放しています。

近隣の清掃活動

神戸製鋼グループの各事業所は、地域社会への貢献の一環として、事業所周辺や道路などの清掃活動を積極的に行っています。多くの事例の中から、一部をご紹介します。

福知山工場 京都府

工場周辺のゴミ拾い、落ち葉拾い

2006年より毎月、管理職など有志約20人が参加して工場周辺の遊歩道のゴミ拾いや落ち葉拾いを実施しています。



▲ 遊歩道のゴミ拾い

遊歩道は近隣住民の方々の散歩道や小学校の通学路として利用されています。

神戸総合技術研究所 兵庫県

研究所周辺の美化活動

1996年から年に1回、試作実験室の職班長会など有志約40人が、研究所周辺のごみ拾いなど美化活動を行っています。



▲ 美化活動に貢献

2005年からは月1回、総務室員とジャパンスーパーコンダクタテクノロジー(株)と合同で、この活動を実施しています。

神鋼リードミック(株) 福岡県

管理職による会社周辺の清掃活動

毎週水曜日の朝、管理職が参加し、会社周辺の清掃活動を約10年継続して行っています。当初は1回2人の参加で始めましたが、2016年度は1回10~15人程度に参加者を増やし、活動を拡大しています。近隣の皆様から「ご苦労さま」と声をかけていただくこともあります。



▲ 毎週水曜日は清掃活動

神鋼ノース(株) 茨城県

工場周辺や霞ヶ浦湖岸の清掃活動

2016年5月、関東地方環境美化運動の日に、工場事務所スタッフ25人が参加し、工場周辺地域の美化運動を実施しました。また、2017年3月には、第87回霞ヶ浦・北浦地域清掃大作戦と銘打ち、地域の工業協議会などの一員として、霞ヶ浦湖岸周辺の清掃活動に参加しました。釣りの仕掛けや弁当の容器など多くのゴミを回収して、湖岸の美化に貢献しています。



▲ 湖岸を美しく

コベルコシステム(株) 兵庫県

六甲山の自然を守る「森の世話人」活動

国土交通省や兵庫県などが推進する「六甲山系グリーンベルト整備事業」の一環である「森の世話人」活動の趣旨に賛同し、2010年3月から活動を開始しています。神戸市東灘区から六甲山に至る、保久良ルートと呼ばれる登山道の途中にある緩やかな斜面の森林を活動地とし、この森を「Kocoroちゃんの森」と名づけて社員ボランティアにより整備しています。

この活動は、NPO法人「六甲山の自然を学ぼう会」にご指導・ご協力をいただいております。50~60人規模の活動を年に3回、



▲ 林内のネザサ刈り



▲ ベンチ設置作業

10人前後の小規模な活動を年に10回程度、実施しています。また、休憩所の広場にベンチを設置するなど、多くのハイカーにも喜んでいただいております。

海外での社会貢献活動

グローバルに展開する神戸製鋼グループは、海外の事業所でも、現地の文化や慣習を尊重しながら、その国・地域の一員として社会に貢献しています。

Kobe CH Wire(Thailand) Co., Ltd. タイ

8年間続く、地方の学校への訪問・サポート活動

社内の福利厚生委員会を中心とした従業員有志が、社内外から寄付を募り、地方の学校を訪問して学用品などを寄贈するサポート活動を実施しています。

この活動は、2009年の会社設立10周年を契機に従業員が自発的に始めたものです。8年目となる2016年は、8月にペチャブーン県のバーンコンタパンピン学校を訪問しました。



▲ プレゼントを手にする子ども達

Kobelco Millcon Steel Co., Ltd. タイ

影絵芝居を保護・継承する活動に参画

地元の伝統文化の一つである影絵芝居を保護・継承するため、同社が所在するワットバンドン チョウエン ノーエン地区の若者を指導する活動を2015年から始めています。

この活動は、影絵芝居のワットバンドン協会の呼びかけに応じて、同社の社員が参加しているものです。



▲ 影絵に用いる透かし彫りの使い方を指導

Kobelco & Materials Copper Tube(Thailand) Co., Ltd. タイ

地元の方々のけがや病気をサポート

社内の医務室を開放して、地元の皆さんのけがや病気のサポートをしています。総務課の社員や看護師が、けがの応急処置や、発熱などよくある症状に対するアドバイスを行っています。この活動は地域住民の方々の健康に寄与し喜ばれています。



▲ 医務室の開放を示す看板

Kobe Electronics Material(Thailand) タイ

フットボールクラブのキッズ部門にヘッドキャップを寄贈

バンコクでラグビー教室を行っている、バンコクジャパニーズラグビーフットボールクラブのキッズ部門(BJ kids)にヘッドキャップを寄贈しました。2006年にも寄贈しましたが、2016年に同社が設立15周年を迎えることを記念して、10年ぶりに再度ヘッドキャップを贈りました。

BJ kidsでは、5歳から15歳の少年少女20人が元気に活動しています。子ども達はさっそくヘッドキャップを身に付け練習を開始していました。



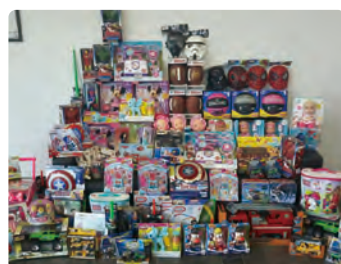
▲ ヘッドキャップをかぶって記念撮影

Kobelco Compressors America, Inc. アメリカ

子ども達におもちゃをプレゼント

2016年12月、本社があるコロナ市で、Toys for Tots*が主催するイベントに参加し、社員35人が子ども達におもちゃをプレゼントしました。

この活動は、クリスマスの時期、恵まれない子ども達のため、おもちゃを収集して寄付するものです。2015年よりこのような地域活動に参加し、地元では高く評価していただいています。



▲ 子ども達へのクリスマスプレゼント

*Toys for Tots:小さい子ども向けおもちゃの寄付を行うボランティア団体

Midrex Technologies, Inc. アメリカ

難病の子ども達の夢を応援する「メーク・ア・ウィッシュ」に協賛

「メーク・ア・ウィッシュ」は、難病と闘う子ども達の夢をかなえる米国のボランティア団体です。同社は、この活動に協賛し、ノースカロライナ州中央・西支部の組織委員会に参画して募金活動などを行っています。

この活動は2011年から継続しており、子ども達の願いを実現するため寄付を行っています。2016年は、260人以上の子ども達の夢を実現することができました。

白血病を患う少年は、自宅の庭に温室を持ち果物や野菜を栽培する夢をかなえた



スポーツを通じた社会貢献

スポーツを通じた社会貢献は、神戸製鋼グループのCSR活動の一環です。

日本のラグビーを支える大きな力となっている高校ラグビーの支援活動や、神戸製鋼ラグビー部による地域・社会との交流、多彩な地域のスポーツ支援活動など、スポーツを通じて社会を元気にする独自の活動を続けています。

ラグビーを通じた社会貢献活動

90年近くにわたり、日本ラグビーの最前線を走り続けてきた神戸製鋼のラグビー。その活動は、ラグビー部「コベルコスティーラーズ」のトップリーグでの活躍にとどまらず、ラグビーの裾野の拡大や、東日本大震災の復興支援など、ラグビーを振興し、社会に貢献する幅広い分野に広がっています。

「KOBELCO CUP 2016」を特別協賛

神戸製鋼グループは、高校ラグビーを支援するために「KOBELCO CUP」(「全国高等学校合同チームラグビーフットボール大会」「全国高等学校女子合同チームラグビーフットボール大会」)に特別協賛しています。これは、全国から選抜された選手たちがレベルの高い試合を通じて技能向上を図るものです。大会のサポート役として、神戸製鋼ラグビー部のOB「クラシックスティーラーズ」も参加しています。

「KOBELCO CUP」は、2005年に北海道夕張市で第1回を行い、2008年の第4回から開催地を長野県の菅平へ移しました。2016年度の第12回は7月28～31日にかけて開催され、全国9ブロックから選抜されたU17、U18の選手たちが、2019年に日本で開催されるラグビーワールドカップ、2020年に開催される東京オリンピックに向けて気迫あふれるプレーを繰り広げました。



▲「KOBELCO CUP 2016」集合写真

男女高校ラグビーを応援します

神戸製鋼グループは、「全国高等学校ラグビーフットボール大会」(通称:花園大会)にも特別協賛しています。2016年度の第96回大会には、各都道府県の予選を勝ち上がった代表51校が集結し、栄冠を目指しました。

今大会では、12月27日の開会式後に、15人制女子ラグビーの強化と裾野拡大のために、「U18花園女子15人制」を開催。全国から選ばれた高校3年生以下の女子選手44人が東軍・西軍に分かれて試合を行いました。

1月7日の決勝戦前には、部員不足のために花園の地を踏むことのできない高校生ラグーマンのために、「もうひとつの花園」と呼ばれる「U18合同チーム東西対抗戦」を開催。東西から25人ずつ選出された選手が火花を散らしました。



▲「U18花園女子15人制」の試合風景

東日本大震災の復興支援でラグビー教室を開催

神戸製鋼ラグビー部は、東日本大震災の被災地に向けた義援金の寄付や、選手・スタッフによる現地での復興支援活動を行ってきました。2017年3月25日には、「こども未来応援教室」で初めてラグビー教室を行いました。これは、地元の新聞社が主催する被災地支援活動の一環で、復興を担う子ども達に夢を育んでもらうために企業が社会科学習などを実施するものです。

ラグビー教室へは小学4～6年生の男女44人の参加があり、選手4人が講師を務めました。経験者と未経験者に分



▲ 東北の小学生にラグビーの楽しさを伝えました

かれ、経験者は試合形式で、未経験者は遊びを取り入れたゲーム感覚で、ラグビーの楽しさを知ってもらいました。小雪がちらつく中、グラウンドは歓声と熱気であふれていました。

「日本せきずい基金」への募金活動

神戸製鋼ラグビー部は、2016年10月28日、NPO法人「日本せきずい基金」に対し、昨シーズンの試合会場で実施した募金活動および、2016年7月17日に実施した「コベルコラグビーフェスティバル2016」における収益金の一部の合計218,428円を寄付しました。

せきずい損傷はラグビー選手にとっておこりやすいケガであり、神戸製鋼ラグビー部は14年前から同基金への寄付を行っています。これからも引き続き、募金活動を継続していきます。



▲ 「日本せきずい基金」の皆様と

岡山県医療リハビリセンターにスティールズ選手が激励訪問

2017年3月28日、岡山県にある吉備高原医療リハビリセンターを、神戸製鋼ラグビー部の佐藤選手と安井選手が訪ねました。前年9月のラグビーの試合中の事故で負傷した、高校生ラグーマンの原田さんを激励訪問したものです。原田さんは現在復帰に向けて、懸命にリハビリに励んでおられます。



▶ 訪問時の様子

佐藤選手・安井選手は約1時間、ラグビーの話や病院での生活・リハビリについて話をしました。復帰に向けて前向きに取り組んでいる原田さんと話をし、佐藤・安井の両選手は、逆に元気をもらった様子でした。神戸製鋼ラグビー部は、原田さんの復帰を心から応援しています。



多様なスポーツの支援活動

さまざまなスポーツの場や機会を提供し、地域交流や子ども達の健全な育成に貢献します。

スポーツを通じて地域交流を促進する「灘浜スポーツゾーン」

神戸製鋼ラグビー部の拠点に併設された「灘浜スポーツゾーン」では、人工芝グラウンドとテニスコートを地域の皆様に一般開放しています。人工芝グラウンドは、ラグビーやサッカー、アメリカンフットボールの他、グラウンドゴルフにも利用できるよう用具の一部を貸し出しており、近隣の学校やラグビー・サッカーのクラブチームなど、スポーツを愛する人々の交流の場として役立っています。



新スポーツ「スペースボール」の普及

「スペースボール」は、神戸製鋼が支援するスポーツNPO法人「SCIX」が考案したもので、ラグビーやサッカーのように「スペース(空間)」を活かしてボールをつないでいくことで、子ども達の身体能力や状況判断力などを養うことのできる新しいスポーツです。

当社グループならではのラグビーに関わる人材や設備を活用し、近隣の小学生を「灘浜スポーツゾーン」に招いて「スペースボール」を指導しています。



KOBELCO GREEN PROJECT (環境活動を通じた社会貢献)

神戸製鋼グループでは、環境の側面からも社会との共生・協調を目指しています。

2013年度からは、「KOBELCO GREEN PROJECT」として、さまざまな環境貢献活動をグループ全体で推進。子ども達の環境への思いを育む「KOBELCO森の童話大賞」、グループ従業員による森林整備活動や、児童館出前エコ教室への参画などを行っています。

第4回KOBELCO森の童話大賞

さまざまな自然の恵みをもたらす森を大切にすることを育んでもらうことを目的とし、全国の小中高校生から「森」をテーマにしたおはなしを募集しています。絵本作家の永田萌さん、Rokoさんの挿絵で金賞作品を絵本化しています。

2016年度の第4回は625件の応募をいただき、古角千代佳さんの「春のゆうびんやさん」(小学生の部)と、近藤沙紀さん

の「森のシャンデリア」(中高生の部)が金賞を受賞しました。

できあがった絵本は、兵庫県、神戸市教育委員会や兵庫県立図書館への贈呈式を経て、後援自治体所管の小学校・中学校・高校・特別支援学校・公立図書館などに、約2,000セットを寄贈しています。



▲ 絵本贈呈式(兵庫県立図書館 善部館長・写真右)



▲ 第4回金賞作品絵本



▲ 第4回表彰式

審査員長のコメント

KOBELCO森の童話大賞には、「森」と言う大きなテーマがあります。みなさんに童話を書いて、応募してもらう中で、森に対するいろいろな思いを物語にたくしていただくこと。これは外すことはできない大きなテーマです。回を重ねるにつれて、皆さんがより一段と森の学びを深くし、コンクールの趣旨を深く理解したうえで、なおかつ新しくみずみずしい作品を生みだすことを期待しています。

審査員長 永田 萌さん



金賞受賞者の声

小学生の部

「春のゆうびんやさん」

古角 千代佳さん
(小学6年生 兵庫県尼崎市)

「自分が想像していた以上の絵ができていたので、びっくりしました。とても嬉しかったです。」



中高生の部

「森のシャンデリア」

近藤 沙紀さん
(中学3年生 兵庫県西宮市)

「絵本になった時のことを想像して、そのイメージを文章に起こしました。その想像していたイメージと、挿絵がマッチしていて、とても驚きました。」



絵本の活用

寄贈された絵本は、さまざまな所で活用されています。神戸市立本山南小学校では、低学年に毎週1回、高学年は月に1回、朝の読書タイムに保護者ボランティアによる本よみ活動が行われており、2016年7月の本よみ活動で、第2回絵本「森のバースデーリース」が活用されました。

子どもが書いたおはなしが、こんな立派な絵本になるのはすごいと思います。子ども達に読んであげても、同年代が書いたおはなしだと紹介すると、とても驚きながらも、親しみを感じながら聞いていました。

保護者ボランティア 佐治 智美さん



▲ 本よみ活動の風景

森林整備活動

神戸製鋼グループは、2011年秋から、従業員のボランティアによる「森林整備活動」を実施しています。兵庫県内では、KOBELCOの森(三木市:約4.7ha)、ECOWAYの森(神戸市灘区:約0.6ha)の2カ所で活動を行っています。また、茨木工場では、2014年度より、大阪府茨木市銭原地区の里山・農地(約1.6ha)の保全を行っています。

これまでの活動で2,200人を超える参加者が参加し、森林エリアの除間伐、下草刈りなどの作業を続けてきた結果、太陽光が森の中に差し込み始め、少しずつ元気な森を取り戻しつつあります。



▲ KOBELCOの森 活動後の集合写真

児童館出前エコ教室

神戸製鋼は、神戸市が主催する「神戸子どもエコチャレンジ21倶楽部」の会員になっています。この倶楽部は、児童が環境に対する興味を持ち、環境に配慮した活動を継続して実践していけるように、「児童館出前エコ教室」を展開しています。

神戸製鋼は、鉄と電気をテーマにし、サイエンスショーやクイズ大会、エコカルタなどを通じて、環境や電気の大切さ、鉄の便利さを学ぶプログラムを提供しています。2016年度は、長田児童館(長田区)、北青木児童館(東灘区)、有瀬児童館(西区)の3カ所で実施し、138人の子ども達が参加しました。



▲ 出前エコ教室の様子(有瀬児童館)

社員が働きやすい職場環境

神戸製鋼は、社員の人格・個性を尊重し、活力あふれた魅力ある職場環境を実現していくために、仕事と生活の両立支援や女性の活躍推進などを図る各種の人事制度や、人材育成制度を展開しています。また、社員一人ひとりを活かし、グループの輪を尊ぶという「KOBELCOの3つの約束」を実現するために、グループ各社とさまざまな形で連携を強めています。

人権尊重の取り組み

神戸製鋼は、差別のない健全な職場環境の確保に取り組んでいます。

管理職や新入社員を対象とする全社階層別研修では、当社の「企業倫理綱領」に定めた人権に関する倫理規範や行動基準を周知すると共に、企業活動において人権を尊重し、差別のない健全な職場環境をつくっていくことの重要性について教育を行っています。

また「社員のための行動手引き」を全従業員に配布し、一人ひとりに人権を尊重して行動することをうながすと共に、各事業所での研修を通じて人権意識の向上を図り、人権問題の未然防止に努めています。

ハラスメント防止の取り組み

神戸製鋼は、セクシュアルハラスメントやパワーハラスメントなどの職場におけるハラスメント行為を容認しません。問題発生時には、迅速かつ断固たる処置をとります。

当社は、「企業倫理綱領」にハラスメントに関する方針や行動基準を定めると共に、管理監督職に対して、ハラスメント防止をテーマとするe-ラーニングや教育研修を実施し、ハラスメントの起きにくい職場環境づくりに取り組んでいます。

また、職場の一人ひとりがハラスメントについて正しく理解し、問題を見逃すことのないよう、「セクシュアルハラスメント防止マニュアル」などのコンプライアンスマニュアルにより、この問題に関する意識啓発を行っています。また、セクハラ相談のための窓口を全事業所に設置し、窓口担当者には適切に相談に応じるための研修を行うなど、ハラスメントの未然防止や、発生時の早期解決に向けた取り組みを幅広く進めています。



▲「セクシュアルハラスメント防止マニュアル」

企業倫理綱領 企業行動基準

第2.3 人権の尊重とあらゆる差別的取り扱いの禁止に関すること

当社は、人種、信条、肌の色、性別、宗教、国籍、言語、身体的特徴、財産、出身地等の理由で嫌がらせや差別を受けない健全な職場環境を確保します。特に、社会問題化している性的嫌がらせ（セクシャルハラスメント）やパワーハラスメントなどの職場におけるハラスメント行為について会社として容認しません。問題発生時には、迅速に調査し、被害者の救済と再発防止に向けた断固たる処置をとっていきます。

ダイバーシティ推進

神戸製鋼は、取り巻く事業環境や社会の変化に柔軟に対応し、継続的な発展と成長を目指すためには、事業運営において多様性（ダイバーシティ）の観点が必要であり、ダイバーシティ推進を重要な経営課題の一つに位置付けています。2014年10月に、ダイバーシティ推進室を新設。社員一人ひとりが持つ多様性を尊重し、それぞれが最大限の能力を発揮し、いきいきと働く職場・会社づくりを目指して取り組んでいます。特に女性の活躍推進においては、採用における女性比率に対する数値目標を設け、より積極的な採用活動を展開します。若手女性総合職には将来にわたる活躍を後押しするような、独自のキャリアアッププランを実施するなど、女性活躍のためのさまざまな取り組みを行っています。

●「準なでしこ」に選定

神戸製鋼は、女性活躍推進に優れた上場企業が選定される2016年度「なでしこ銘柄」において、2015年度の「なでしこ銘柄」選定に続き、「なでしこ銘柄」に準ずる企業として、「準なでしこ」に選定されました。「なでしこ銘柄」は、経済産業省と東京証券取引所が2012年より毎年発表しており、「準なでしこ」は、企業の成長性を期待する観点から「なでしこ銘柄」に準ずる企業として今回初めて選定が行われ、当社を含めた25社が選ばれました。

●女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画の策定と実行

ダイバーシティ推進や女性の活躍推進には、男性を含めた会社全体で働き方の見直しが求められており、長時間労働の削減、年次有給休暇の取得率向上や生産性向上などの取り組みを通じ、全従業員にとって「働きやすい職場環境づくり」にも取り組んでいます。

主なダイバーシティ推進・女性活躍推進の制度と取り組み

- キャリア継続休職制度（配偶者の転勤などに伴う休職制度）
- 再雇用エントリー制度（結婚・育児・介護などを理由とした退職者の再雇用制度）
- 育休からの早期復帰支援制度（最大60万円）
- ダイバーシティサポートネットの開設
- 早期の能力引出し支援策（若手女性社員のキャリアアッププラン）
- メンター制度/総実労働時間削減/年休取得向上の取り組み
- 女性社員交流会の開催/上位職向けダイバーシティ研修の実施
- マタニティ作業服の整備
- 管理監督職を対象とした全事業所ダイバーシティ研修の実施



▲ダイバーシティ研修の様子



▲妊婦用作業服のデザインイラスト

▶ 従業員の状況

(2017年3月31日現在)

	男性	女性	総計	女性比率
従業員数	10,241	793	11,034	7.2%
管理職*	1,717	28	1,745	1.6%
総合職	1,942	143	2,085	6.9%
基幹職(技能)	5,938	70	6,008	1.2%
基幹職(事技)	361	506	867	58.4%
医務職	—	15	15	100.0%
その他(嘱託・受け入れ・出向)	283	31	314	9.9%
採用者数	719	125	844	14.8%
新卒	421	64	485	13.1%
中途	298	61	359	16.9%
勤続年数	16.8年	16.2年	16.7年	

※神戸製鋼では、課長以上を管理職としています。

▶ 管理職に占める女性比率の推移

	2014年度	2015年度	2016年度
女性管理職の比率	1.4%	1.5%	1.6%

仕事と生活の両立支援

神戸製鋼は、仕事と生活の両立を図るための環境整備に積極的に取り組んでいます。これまでの取り組みが評価され、子育てを積極的にサポートする企業に与えられる次世代認定マーク(愛称『くるみん』)を2度(2012年、2015年)取得しました。



- 次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画の策定と実行
 - 育児・介護に関し法定を上回る制度の整備と拡充
- 女性社員のみならず男性社員も子育てに積極的に参加し、ワーク・ライフ・バランスの充実が図れるよう、社内制度の周知や定着活動も並行して進めています。

主な子育て・介護支援制度と取り組み

- 育児休業期間の延長(子が満3才に達するまで)
- 育児のための就業時間等配慮期間の拡大(子が小学生まで)
- 在宅勤務日制度(4日/月、妊婦・介護の子が小学生まで拡大)
- 介護休業期間の延長(最大3年間まで)
- 子の看護・家族の介護休暇の有給化
- 仕事と育児の両立支援ハンドブックの配布
- 育児・介護支援提携サービスの提供
- 福利厚生制度における育児メニューのポイント優遇

▶ 育児休業取得の状況

	2014年度	2015年度	2016年度
育児休業取得者(内、男性取得者)	21(1)	20(5)	36(6)

※育児休業は、上記期間中に出生した女性社員全員が取得しています。

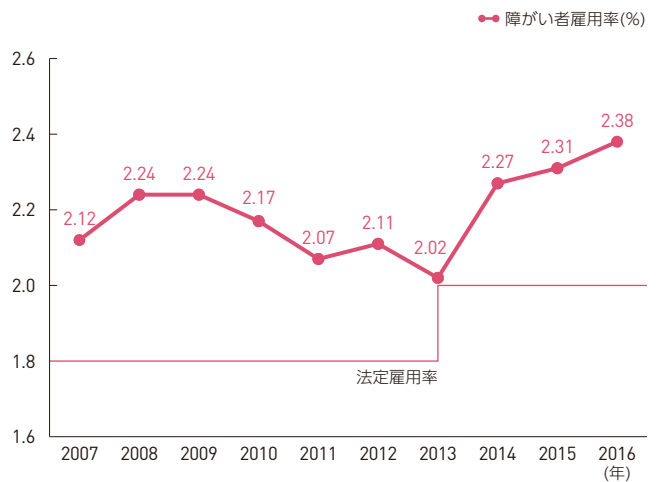
障がい者雇用への取り組み

神戸製鋼グループは、障がい者雇用を積極的に推進すると共に、個々人が持てる能力を十分に発揮でき、安心して働ける職場環境の整備に努めています。

神戸製鋼では、通年採用を実施し、地元のハローワークや障がい者職業能力開発校との連携、合同就職面接会への参加、近隣の学校訪問など障がい者雇用の拡大に取り組んでいます。

2016年6月1日時点の神戸製鋼の障がい者雇用率は2.38%と法定雇用率(2.0%)を上回っていますが、引き続き雇用率アップに向けた取り組みを継続していきます。

▶ 障がい者雇用率推移(神戸製鋼)



高齢者雇用への取り組み

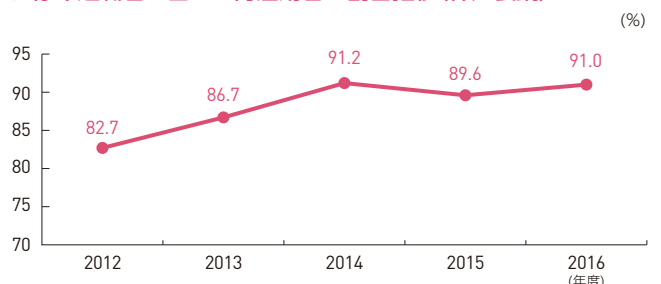
神戸製鋼は、停年退職後の再雇用制度として「熟練社員再雇用制度」を導入しています。グループ会社などでの再雇用者を含め、ベテラン層の有する技術・技能を引き続き活用することで、技能継承の円滑な推進や本人の働き甲斐の実感を通じて、職場活力の維持・向上を図っています。

現在では、停年退職者に占める再雇用者の割合も約90%に達しており、ほとんどの従業員が60歳の停年退職後も業務に従事している状況にあります。

労務構成の若返りも進む中、こうしたベテラン従業員の技能・技術力の発揮が当社の「ものづくり」を支えていると共に、それを後進に伝承していくことにより、明日の当社の「ものづくり力の礎」となっています。

また、グループ会社においても、同様の取り組みを進めています。

▶ 停年退職者に占める再雇用者の割合推移(神戸製鋼)



安全衛生管理方針

「安全・衛生・健康は事業経営の基盤であり、全ての事業活動に優先する」という理念のもと、安全で安心して働くことのできる、活気あふれた職場の実現に向け、さまざまな安全衛生活動を行っています。

安全衛生管理計画で目指す姿

法令・社内ルールを正しく理解し、それを確実に遵守できる組織・体質をつくり上げる。

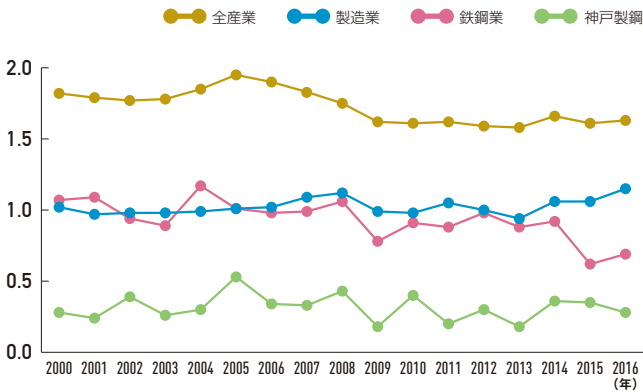
生産・品質・人・組織・環境などに応じた“変化”を見逃すことなく速やかに対応する。

自らはもとより、職場の仲間の安全を守り、健康を気遣う風土をつくる。

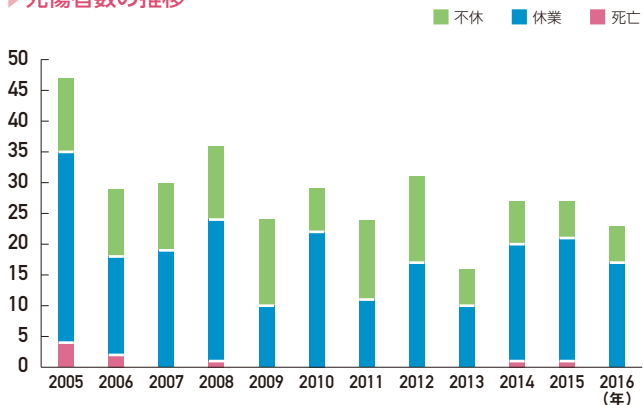
安全管理

神戸製鋼は、中長期的な視点で継続して労働災害防止に取り組んできた結果、労働災害は減少し、度数率も低位で推移してきましたが、2014年度に2008年以来となる死亡災害が発生しました。2017年度も2016年度に引き続き、従業員の生命と健康を守ることが企業の社会的責任を果たす上で大前提となるという認識のもと、神鋼グループ・協力会社一体となって人・設備・管理の観点からさらなる安全レベル向上を図っていきます。

▶ 休業災害度数率推移



▶ 死傷者数の推移



衛生管理

● 「健康経営銘柄」に3年連続で選定

「健康経営銘柄」は、従業員への健康保持・増進活動を推進する企業を、経済産業省と東京証券取引所が共同で認定するものです。

「健康経営」とは、従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践することです。企業が従業員の健康管理を気遣い、健康経営を実践することは、生産性の向上をもたらす、ひいては企業価値の向上にもつながる「投資」であるという考えです。

2017年2月に、第3回健康経営銘柄として24社が選定され、神戸製鋼は3年連続で選定されました。



● 疾病予防への活動強化

神戸製鋼では、基本理念に基づき、健康管理を進めていく上で、「疾病の早期発見・早期対応」「生活習慣の改善(予防)」が重要との認識にたち、『こころ』と『からだ』の両面の管理体制を充実し、“予防”への活動展開を一層強化して取り組むことにしています。

(1) 作業関連疾病予防対策の徹底

(16年度:新規職業性発症者数:ゼロ)

(2) 疾病の早期発見・早期対応

① 全額会社負担による1日人間ドックの受診

(コベルコメディカルチェック50)

・50歳を一つの区切りとして自身の健康状態を把握し、健康管理の意識づけを高めるための取り組みとして、50歳に到達した全従業員を対象にした1日人間ドックの実施

・50歳時に夫婦で健康意識を高めてもらう取り組みとして、「夫婦健康チェック50」と名付けた人間ドックのオプション項目(腫瘍マーカー、脳血管疾患など)への費用補助

② ハイリスク肥満(メタボリックシンドローム)への早期対応
(「脳・心臓疾患」、「新生物」等の発症との因果関係が高いといわれるハイリスク肥満の早期対応)

・35歳から法的に義務付けられる健康診断の血液検査を20歳、25歳、30歳という節目年齢にも実施し、若年時よりの発見と対応に留意
・有所見の従業員への産業医、保健師による保健指導の充実強化

③ がん検診の充実(全額健保負担)

・35歳以上を対象に内視鏡を用いた「胃がん検診」「大腸がん検診」の実施
・全女性従業員を対象に「子宮がん検診」や「乳がん検診」の実施

④ カウンセリング受診の充実(精神疾患の予防措置)

・全事業所にカウンセラーを配置し、社内での異動や昇進昇格時といった業務上の変化に対応したカウンセリング受診、不調者のケア、階層別教育を積極的に実施

(3) 生活習慣改善に向けた取り組み(予防対策・健康意識の高揚)

・ハイリスク肥満(メタボリックシンドローム)の原因となる食生活、飲酒、運動などの生活習慣が一人ひとりで異なり、本人単独では生活習慣の改善・維持が難しいと考えられるため、「運動」「禁煙」「減量」などに一定期間取り組む「健康チャレンジ活動」を展開し、目標達成者への褒賞を実施

神戸製鋼は、安全で安心して働くことのできる、活気あふれた職場環境の実現に向け、安全衛生活動に取り組んでいきます。

人材育成

育成方針、ものづくり力を支える人材育成

●人材育成方針

神戸製鋼は、社員が仕事への誇りと働き甲斐を持つことを人材育成の目標としています。そのためには、社員一人ひとりが、具体的目標を持ち、日々成長していくことが重要です。社員自らのたゆみなき研鑽による成長を会社は全面的に支援します。また、社員一人ひとりが多種多様な価値観を共有し、誇りと意欲を持って日々の仕事をやり遂げることを目指し、「神戸製鋼のあるべき人材像」を以下のとおり定めています。

『私たちは、グローバルに展開するKOBELCOの信頼に貢献する人材でありたいと日々努力します。』

- 【誠実】 事実を真摯に受け止め、誠意を持って行動する人材
- 【協働】 自分の考えを発信し、相手の意見を受信し、切磋琢磨しながら取り組む人材
- 【変革】 現状に満足せず、常に挑戦し変革を目指す人材

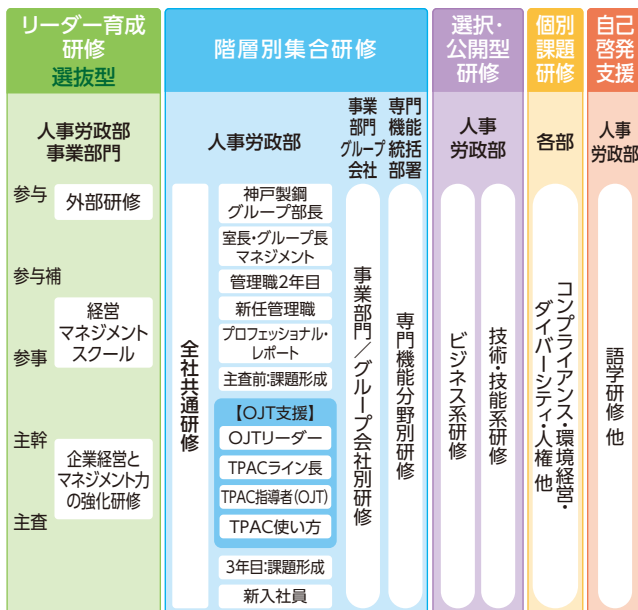
●キャリア開発・能力開発支援

社員の成長を支援する目的で、管理職・総合職・基幹職(事技系・技能系)の職掌ごとに研修体系を定め、毎年その内容の見直しを行っています。そして毎年4～5月にかけて上司と部下の間で業務目標と将来のキャリアプランについて話し合う場を全社員に設け、キャリア形成を図っています。

管理職・総合職

管理職・総合職の能力開発支援として、OJT教育を補完するためのオフライン研修の充実にも重点を置いています。最近では、選択型研修の拡充や若手社員の基礎教育の強化、中堅社員の課題解決力、専門性や語学力の向上、管理職層を対象としたリーダー育成などの取り組みに力を入れています。

▶管理職・総合職 育成体系図



社員の自己啓発を支援するしくみでは、語学習得のための通信教育の受講料を会社が支援する制度があります。また、カフェテリアプラン(選択型福利厚生制度)では、資格取得費用や書籍購入費、外部の教育機関への通学費用を会社が補助するメニューがあります。また、自律的なキャリア形成を促進するための人材公募制度も導入しています。

基幹職(技能系)

ものづくりの現場を支える基幹職技能系社員には、入社後5年間必修の技能教育に加え、技能検定等の資格取得支援や、産業技術短期大学への派遣などを通じ、若手技能者の育成を積極的に進めています。また、現場監督者層の「マネジメント能力」向上のための監督職任命教育も本社および各事業所において実施しています。

その他、品質、生産の管理教育はもちろん、その根底となる安全、環境、コンプライアンス、人権など、管理監督者の職責としての知識に関する教育も充実させています。

資格・役職	階層別教育	産短大派遣
係長	新任係長フォロー教育 係長任命教育	産業技術 短期大学 への派遣
職長	新任職長フォロー教育 職長任命教育	
班長	新任班長教育	
リーダー	リーダー育成教育	
基幹	基幹社員教育	
入社	職種別技能教育 (オペレータ職・保全整備職・加工職) 組立職・溶接職・検査分析職 共通技能教育	

基幹職(事技系)

基幹職事技系社員の能力開発支援として、OJTを通じた業務遂行能力向上に加えて、役割に応じた階層別教育を行っています。さらに2017年度からは、それぞれのキャリアや業務習熟度に応じて選択できるオフライン研修メニューを充実させ、さらなる専門スキル向上を支援しています。

▶階層別教育

役割別	研修名
新主事	OJT コーチング研修
副主事	課題形成研修 WBSの基本研修(仕事の段取りと見える化)
新副主事	セルフエスティーム研修
担当	MACS(マネジメント・サイクル・シミュレーション)
担当	問題解決のしくみ研修(応用)
担当	基幹社員教育
担当	問題解決のしくみ研修(基礎)
担当	ビジネス・スタンダード研修

▶選択型研修

各組織のニーズに応じて、業務遂行能力を高めるために、本人が希望し、上司の了解を元に受講する研修。

	研修名
業務改善 スキル	・業務改善研修 ・事務職のための業務改善研修～オペレーションミス防止する編～ ・事務職のための業務改善研修～ファイリング編～ ・職場環境の改善・活性化研修～5S活用編～ ・マニュアル作成研修～改善・合理化を促す業務マニュアルの作り方～
業務遂行 能力向上	・情報活用力養成研修～情報の収集・整理・分析編～ ・整理力向上研修 ・タイムマネジメント研修～仕事を効率的に進めるための時間管理を学ぶ～ ・段取り力開発研修(基礎・応用)
文章力・ 思考力	・ロジカルシンキング研修 ・ロジカルライティング研修 ・論理的でわかりやすい文章の書き方研修
コミュニ ケーション	・アサーティブコミュニケーション研修 ・コミュニケーション研修 ・分かりやすい説明の仕方研修
財 務	・財務基礎研修 ・仕事のコスト見える化研修
情報リテラシー (パソコン)	・各種パソコン研修(Word/Excel/PowerPoint)

防災の取り組み

神戸製鋼グループは、グループを挙げて法令の遵守や設備事故対策、自然災害への備えに努めています。災害時における防災体制の整備、防災訓練など継続的に実施し、事故の未然防止や災害時の被害の最小化に積極的に取り組んでいます。今後とも従業員一人ひとりの防災意識を高め、グループ全体で防災活動を進めていきます。

2016年度 全社防災管理方針

1

設備事故の防止

2

自然災害への
備え強化

3

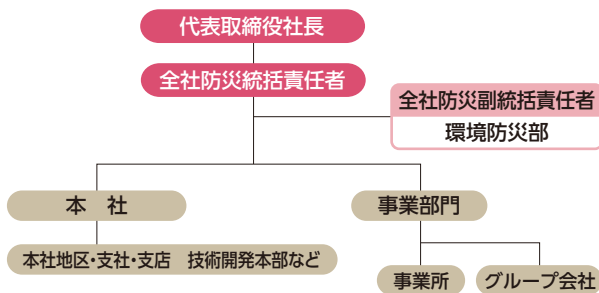
法令の遵守

「人命の尊重、企業活動の継続、地域の安心の実現」

全社防災管理体制

神戸製鋼グループは、社長、全社防災統括責任者のもと、本社、事業部門、事業所、グループ会社それぞれにおいて、防災管理活動を推進しています。

全社防災管理体制



神戸製鋼グループ防災会議

神戸製鋼グループの防災情報の共有化、災害防止の取り組み強化を目的に、毎年「神戸製鋼グループ防災会議」を開催しています。2016年度は、グループ会社51社を含め、130人が参加しました。防災中期計画、通報連絡基準、防災確認調査の計画などの報告に加え、グループ内のトラブル事例報告を行いました。



▲ 神戸製鋼グループ防災会議

災害時の対応訓練

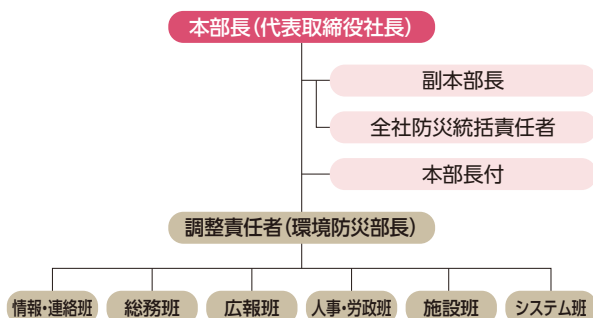
大規模な地震などの緊急時には、東京本社または神戸本社に災害総合対策本部を設置し、救援や復旧などにあたります。

2017年3月10日には、南海トラフ巨大地震を想定した災害総合対策本部設置訓練を実施しました。今回の訓練では、通信

網の断絶を想定し衛星電話やIP無線機を活用して、各事業所の情報収集や東京本社～神戸本社間の連絡を行いました。

万が一の災害に備え、今後も、よりスムーズな対応ができるよう、教育・訓練を継続して行います。

災害総合対策本部組織図



▲ 被災状況の情報収集



▲ 衛星電話の活用

設備事故対策

神戸製鋼グループは、火災などの事故の未然防止に努めています。2016年度は社内事業所で2件、グループ会社で1件の事故が発生し、それぞれ原因究明を行い、対策を講じました。

今後も、類似事故を含めた再発防止の徹底、社内外の事故情報の共有化、業界団体の自主行動計画と連携した特別活動など、グループ全体で事故防止に努めていきます。

2016年度 社内事業所での設備事故例

日時・場所	内容
2016年4月 加古川製鉄所	原料ヤードリクレーマーのブームコンベアベルトがフレームに接触・着火して火災
2016年6月 高砂製作所	鋳物砂成型用樹脂タンクにおいて、通気口つまりにより、補給時に変形

定期的な防災訓練の実施

神戸製鋼グループは、各事業所において定期的な防災訓練を実施しています。

1月17日には、神戸本社で「シェイクアウト訓練」を行いました。各事業所においても、地震発生時には、まず自分の身を守ることが大切であることを教育し、訓練を行っています。



▲シェイクアウト訓練(神戸本社)

大規模災害を想定した帰宅訓練

地震など大規模災害の発生で交通機関が不通になったことを想定し、社内5拠点では、帰宅訓練を実施しています。

神戸本社では11月に223人、東京本社では10月に121人が参加し、6~9km離れた目的地まで、途中にあるコンビニや公共トイレなどを確認しながら帰宅訓練を行いました。実際に帰宅ルートを体験しておくことで、災害発生時に余裕をもって行動することができます。



▲帰宅訓練(神戸本社)



▲帰宅訓練(東京本社)

防災確認調査

防災関係法令の確認や設備事故につながるリスク低減を目的に、神戸製鋼グループ内の事業所の現地防災確認調査を実施しています。

2016年度の社内事業所・グループ会社の防災確認調査で

は、重大な法令違反はありませんでした。

今後も神戸製鋼グループ全体の防災管理体制の強化を図っていきます。

地域・社会の皆様から信頼・安心される企業グループを目指し、防災活動に取り組んでいきます。

全社防災統括責任者(執行役員) 後藤 有一郎

神戸製鋼グループでは、「設備事故の防止」、「自然災害の備え強化」、「防災関連法令の遵守」を3つの基本方針として、防災管理活動を実践しています。

事故の防止については、再発防止対策の徹底と災害事例の共有化を図り、事故につながるリスクの低減活動を推進しています。

大規模地震への対応など自然災害への備えについては、倒壊や浸水などのリスクを想定し、ハード対策や、教育・訓練の実施など、防災・減災の取り組みを行ってきました。

今後も、一つひとつの活動を地道かつ着実にやり、災害に強く地域社会やお客様から信頼・安心される企業グループを目指してまいります。



各事業所の 環境保全への取り組み

神戸製鋼の全事業所および主なグループ会社の事業所における環境保全の取り組みについて、各事業所の責任者よりご報告します。一つひとつの現場が常にチャレンジし、新たな努力を積み重ねることで、神戸製鋼グループの環境保全活動は進歩していきます。

1 事業所名・グループ会社名

所在地

T E L

主要製品

F A X

事業所長・環境責任者からのコメント



氏名

神戸製鋼の事業所

グループ会社

鉄鋼事業部門

- 1 加古川製鉄所
- 2 神戸製鉄所
- 3 神鋼建材工業株式会社 本社・工場
- 4 神鋼鋼線工業株式会社 尼崎事業所
- 5 神鋼鋼線工業株式会社 ロープ事業部 尾上事業所
- 6 コベルコ鋼管株式会社 本社・下関事業所
- 7 神鋼ボルト株式会社 本社・工場
- 8 株式会社セラテクノ 本社・明石工場
- 9 株式会社セラテクノ 備前工場
- 10 日本高周波鋼業株式会社 富山製造所
- 11 関西熱化学株式会社 加古川工場
- 12 日本エアロフォーシ株式会社 本社工場

アルミ・銅事業部門

- 19 真岡製造所
- 20 長府製造所
- 21 大安工場
- 22 神鋼メタルプロダクツ株式会社 本社・工場
- 23 神鋼アルミ線材株式会社 本社工場
- 24 神鋼ノース株式会社 本社・霞ヶ浦工場
- 25 神鋼リードミック株式会社 本社・工場
- 26 株式会社コベルコ マテリアル銅管 秦野工場

機械事業部門

- 27 播磨工場
- 28 神鋼造機株式会社 本社

溶接事業部門

- 13 藤沢事業所
- 14 茨木工場
- 15 西条工場
- 16 福知山工場
- 17 神鋼アクテック株式会社 日高工場
- 18 阪神溶接機材株式会社 岡山工場

エンジニアリング事業部門

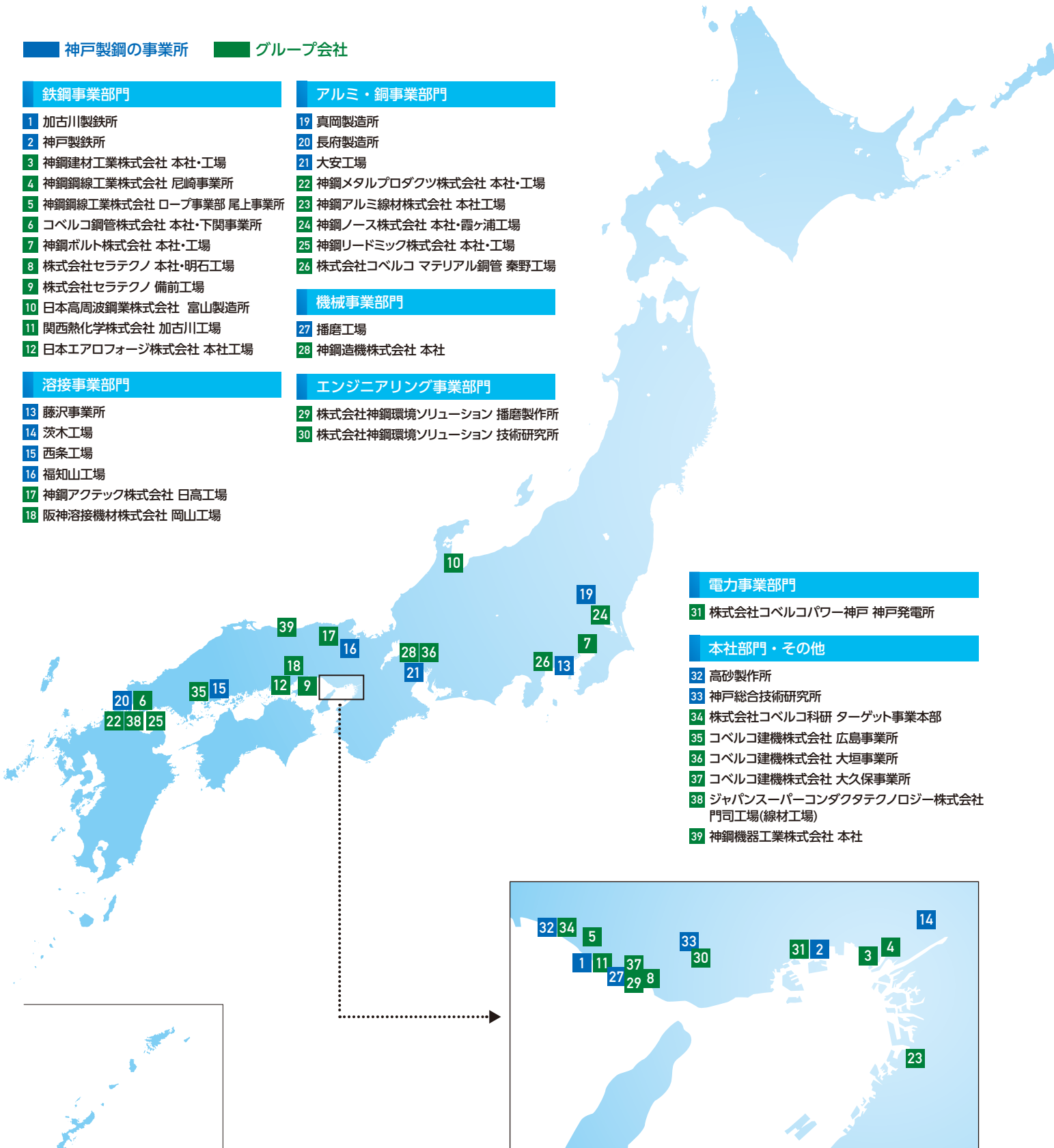
- 29 株式会社神鋼環境ソリューション 播磨製作所
- 30 株式会社神鋼環境ソリューション 技術研究所

電力事業部門

- 31 株式会社コベルコパワー神戸 神戸発電所

本社部門・その他

- 32 高砂製作所
- 33 神戸総合技術研究所
- 34 株式会社コベルコ科研 ターゲット事業本部
- 35 コベルコ建機株式会社 広島事業所
- 36 コベルコ建機株式会社 大垣事業所
- 37 コベルコ建機株式会社 大久保事業所
- 38 ジャパンスーパーコンダクタテクノロジー株式会社 門司工場(線材工場)
- 39 神鋼機器工業株式会社 本社



1 加古川製鉄所

所在地 〒675-0137 兵庫県加古川市金沢町1
TEL 079-436-1111 FAX 079-436-1400
主要製品 厚板、熱延鋼板、冷延鋼板、表面処理鋼板、線材



所長
柴田 耕一郎

「安全・環境・防災」を最優先し、法・協定の遵守は当然のこととして、降下ばいじんの低減、省エネルギー・リサイクルの推進、環境配慮型の製品開発など、環境負荷の低減を通じて社会に貢献するよう取り組んでいます。環境に対する意識の一層の向上のため、教育・訓練を継続的に実施すると共に、各種コミュニケーションを通じて地域の皆様との共生を図ってまいります。

2 神戸製鉄所

所在地 〒657-0863 兵庫県神戸市灘区灘浜東町2
TEL 078-882-8030 FAX 078-882-8290
主要製品 線材、棒鋼



所長
宮崎 庄司

神戸に生まれ育った都市型製鉄所として、常に地域との共生を意識して環境保全活動に取り組んでいます。2017年10月末に製鉄・製鋼工場をシャットダウンすることになりますが、きめ細かな環境管理を継続・発展させて、新生産体制下においても地域住民に安心していただける製鉄所を実現します。

3 神鋼建材工業株式会社 本社・工場

所在地 〒660-0086 兵庫県尼崎市丸島町46番地
TEL 06-6418-2621 FAX 06-6418-6701
主要製品 ガードフェンス、高欄、グレーチング、アンチスリップ鋼板、アルミ道路資材



製造副本部長
梶原 政徳

当社は、「エコアクション21」に取り組み、9年が経過しました。2016年度は、全工場にインバーター式コンプレッサーの導入や改善などで、積極的な省エネルギー、省資源活動を展開できました。今後も環境負荷低減により、社会貢献に努めてまいります。

4 神鋼鋼線工業株式会社 尼崎事業所

所在地 〒660-0091 兵庫県尼崎市中浜町10番地1
TEL 06-6411-1071 FAX 06-6411-9644
主要製品 PC鋼材、PC鋼材加工品、めっき鋼線・ばね用鋼線



所長
岡崎 達也

当所は2007年に「エコアクション21」の認証・登録を取得しています。線材二次製品メーカーとして、高強度・高耐食・長寿命化などを図り、土木・建築分野や自動車/IT関連製品などハイテク産業を支える製品を開発・製造しており、CO₂排出量や資源・エネルギー使用量の削減に寄与しています。2017年度は、省エネおよびコンプライアンス活動の推進に注力し、さらなる環境負荷低減を図ってまいります。

5 神鋼鋼線工業株式会社 ロープ事業部 尾上事業所

所在地 〒675-0027 兵庫県加古川市尾上町今福128番地
TEL 079-424-2681 FAX 079-424-2686
主要製品 一般ワイヤーロープ、特殊ワイヤーロープ、ロープ加工品、その他線材二次製品



所長
谷川 文男

省エネルギー・省資源を柱とした環境改善活動の中で、2016年度は歩留り・品質向上活動、および「エコアクション21」活動を推進し、環境負荷低減に取り組んでまいりました。2017年度は、新型伸線機の有効活用および電力見える化による無駄な電力の削減を推進し、環境保全に貢献する事業所を目指します。

6 コベルコ鋼管株式会社 本社・下関事業所

所在地 〒752-0953 山口県下関市長府港町13-1
TEL 083-246-3781 FAX 083-245-1092
主要製品 継目無ステンレス鋼管、精密細管、特殊管、チタン管



常務取締役
下関事業所長
廣田 晃一

当社は持続可能な発展を目的として、製品の開発・生産・廃棄の各段階での継続的改善、汚染の予防並びに環境保護活動を推進し、廃棄物削減で成果を得ました。2017年度は品種構成変化に伴う環境負荷の変化への対応に重点を置いて活動を進めていきます。

7 神鋼ボルト株式会社 本社・工場

所在地 〒272-0002 千葉県市川市二俣新町17番地
TEL 047-328-6551 FAX 047-328-6558
主要製品 高力ボルト(トルコン、ハイテン)



取締役
製造部長兼技術部長
三谷 芳弘

2016年度は、2007年の「エコアクション21」認証取得以降、10年連続取得できたことに対し、エコアクション事務局から表彰されました。また、ボルトフォーマー係の現場従業員からの提案で実施した、圧造時に発生する油煙低減対策が職場環境の向上と清掃コストの低減に大きく寄与したことから、社長からの特別表彰を実施しました。他の部署にも奮起をうながしています。

8 株式会社セラテクノ 本社・明石工場

所在地 〒673-0037 兵庫県明石市貴崎5丁目11番70号
TEL 078-923-8678 FAX 078-923-8397
主要製品 耐火レンガ、各種不定形耐火物



工場長
多田 秀徳

省エネルギー、廃棄物削減、有害物質の使用低減を中心に各職場で「エコアクション21」活動を実施しています。特に省電力、ピーク電力低減に積極的に取り組んでいます。今後も環境負荷低減、地域社会の環境保全を目的に継続的な改善に努めてまいります。

9 株式会社セラテクノ 備前工場

所在地 〒705-0033 岡山県備前市穂浪2835番地の7
TEL 0869-67-0011 FAX 0869-67-1346
主要製品 耐火レンガ、各種不定形耐火物



工場長
有馬 慎弥

地域社会の生活環境保全のために、環境関連法規制を遵守すると共に工場全体で「エコアクション21」活動を通じて、省エネルギー・節水・産業廃棄物の発生抑制並びにリサイクルなどに積極的に取り組み、環境負荷のさらなる低減を図ってまいります。

10 日本高周波鋼業株式会社 富山製造所

所在地 〒934-8502 富山県射水市八幡町3丁目10番15号
TEL 0766-84-3181 FAX 0766-84-3468
主要製品 特殊鋼鍛鋼品(ダイス鋼・プラスチック金型用鋼・その他精密鍛造材)、特殊鋼圧延鋼材



取締役
富山製造所長
堀川 健一

2017年度は、加熱炉の都市ガスへの燃料転換と工場照明のLED化による省エネルギーおよびダスト・スラグ・スラッジなど鉄鋼副産物の低減と再利用を重点実施して、地域社会との共生の下、「安全環境最優先」を掲げ環境改善に努めていきます。

11 関西熱化学株式会社 加古川工場

所在地 〒675-0137 兵庫県加古川市金沢町7番地
TEL 079-436-1500 FAX 079-435-1626
主要製品 コークス、コークス炉ガス、化成品



工場長
岡井 務

加古川工場では、「安全でクリーンな工場づくり」を目標に、大気汚染・水質汚濁の防止をはじめ、省エネルギー活動や廃棄物適正処理など、環境保全活動を推進し、加古川製鉄所と一体となり、地域社会に信頼される工場を目指します。

12 日本エアロフォージ株式会社 本社工場

所在地 〒713-8103 岡山県倉敷市玉島乙島字新湊8264番7
TEL 086-523-0135 FAX 086-523-0137
主要製品 航空・発電用チタン合金/ニッケル合金大型鍛造品



代表取締役社長
岡野 正之

世界最大級の5万トン油圧プレス機により、航空機・発電用大型部品を鍛造する事業所です。2016年度にはエンジン部品の量産を開始し、製品メニューが拡大しました。ロット拡大や連続操業、再工程削減にてエネルギー使用効率を向上していきます。

13 藤沢事業所

所在地 〒251-8551 神奈川県藤沢市宮前100-1
TEL 0466-20-3111 FAX 0466-20-3115
主要製品 フラックス入りワイヤ、溶接ロボットシステム

工場長
永田 学

2016年度は水資源の使用量、廃棄物の発生量を削減し、環境負荷を低減することができました。2017年度はISO14001:2015年版への移行を進め、さらに実力レベルを上げ、システムを運用していきます。また、事業所周辺清掃活動など地域との共生・協調を通じて、環境マネジメントシステムに対する意識の向上を目指します。

15 西条工場

所在地 〒739-0024 広島県東広島市西条町御園宇6400-1
TEL 082-423-3311 FAX 082-420-0038
主要製品 被覆アーク溶接棒

工場長
藤本 直樹

2016年度は過去に発生した工場内環境不適合の再発防止策の有効性を再検証し、機能していることを確認しました。今後も継続して廃棄物削減や化学物質の適正管理を実施し、環境負荷低減に努めます。また、海外生産拠点の支援を積極的に展開します。

17 神鋼アクテック株式会社 日高工場

所在地 〒669-5302 兵庫県豊岡市日高町岩中682
TEL 0796-42-1212 FAX 0796-42-1218
主要製品 溶接用裏当て材・高機能材脱炭フィルター

工場長
村田 忠博

2016年度の産業廃棄物に関わる重大不適合を猛省し、環境方針で全従業員に法令順守を再度周知徹底しました。一人ひとりが環境意識を高め「エコアクション21」活動をスパイラルアップさせながら環境に配慮した生産活動を実践していきます。

19 真岡製造所

所在地 〒321-4367 栃木県真岡市鬼怒ヶ丘15(第2工業団地)
TEL 0285-82-4111 FAX 0285-84-0231
主要製品 アルミ板・条

所長
谷川 正樹

鬼怒川の清流と緑豊かな大地に恵まれた真岡市で操業をさせていただき49年目となります。この豊かな自然と共存するため、さらなる省エネルギー活動、産業廃棄物の有効利用を継続・推進していきます。また、自動車の軽量化による燃費向上に寄与する製品の提供にも注力しており、企業活動を通じ地域の皆様との共生に努めていきます。

21 大安工場

所在地 〒511-0284 三重県いなべ市大安町梅戸1100
TEL 0594-77-0330 FAX 0594-77-2249
主要製品 アルミ・マグネシウム鋳造品、アルミ・マグネシウム鍛造品

工場長
沼部 裕次

大安工場では「規律のある、風通しの良い、明るく元気で、何でも議論できる職場の構築」を目標に取り組んでいます。そのような職場風土において、各従業員の力を集結し、さまざまな課題に取り組んでいます。環境保全においても、国内生産活動での環境配慮や海外生産拠点に対し、その国の法令遵守、環境に配慮した生産活動を積極的に支援しています。

23 神鋼アルミ線材株式会社 本社工場

所在地 〒593-8315 大阪府堺市西区菱木2丁目2153番地の1
TEL 072-271-1481 FAX 072-271-1486
主要製品 アルミ合金線・棒、アルミ線棒加工品

取締役社長
杉下 幸男

2016年度は、省エネ法に基づく事業者クラス分け制度でSランク評価を受けました(エネルギー消費原単位が5年度平均原単位変化が1%以上の低減であること)。2017年度は、製造可能サイズのブレードスルーの拡大でさらなる省エネルギーを目指します。また、神鋼開発合金で自動車分野のボルトのアルミ化に向けて拡販してまいります。

25 神鋼リードミック株式会社 本社工場

所在地 〒800-0007 福岡県北九州市門司区小森江2丁目2番1号
TEL 093-381-1337 FAX 093-381-3352
主要製品 電子部品・半導体・集積回路部品

代表取締役社長
杉浦 淳雄

当社では、「地球にやさしい会社」を基本理念とし、社員全員で地球環境の保護・省エネルギー活動に取り組んでいます。2016年度は酸廃液の有効利用で、特別管理廃棄物の大幅な削減に成功しました。2017年度は、環境リスク対策強化活動を推進してまいります。

14 茨木工場

所在地 〒567-0879 大阪府茨木市東宇野辺町2-19
TEL 072-621-2111 FAX 072-621-2015
主要製品 被覆アーク溶接棒、フラックス入りワイヤ、配合溶剤

工場長
河野 知志

住宅地に隣接する都市型工場として、周辺環境に配慮した操業を心がけています。2016年度は環境関連設備の導入や環境管理の強化に取り組みました。また、茨木市の豊かな自然環境を保つため里山保全活動を推進しています。2017年度もこの活動を引き続き推進します。

16 福知山工場

所在地 〒620-0853 京都府福知山市長田野町3-36
TEL 0773-27-2131 FAX 0773-27-6358
主要製品 ソリッドワイヤ

工場長
迫 勝幸

2016年度は老朽化した設備やインフラからの化学物質漏れなどの対策のため、重要設備の更新や保全により環境負荷軽減に取り組むと共に、緊急事態想定訓練や環境教育を通じて従業員の環境に対する意識向上を図ってきました。今後も、継続して環境負荷軽減のための設備対応を行っていくと共に、従業員の環境に対する意識向上のための取り組みを行っていきます。

18 阪神溶接機材株式会社 岡山工場

所在地 〒709-2105 岡山県岡山市北区御津伊田1028-12
TEL 086-724-4181 FAX 086-724-4340
主要製品 サブマージアーク溶接フラックス

代表取締役社長
樋田 幸雄

「エコアクション21」認証取得後10年が経過しました。その間、省エネルギー・廃棄物削減を中心とした活動に注力し一定の成果を得られました。「環境活動に終わりなし」の精神で止まることなく継続していきます。

20 長府製造所

所在地 〒752-0953 山口県下関市長府港町14-1
TEL 083-246-1211 FAX 083-246-1271
主要製品 アルミ押出材、アルミ加工品、伸銅板・条

所長
城田 剛造

当製造所では、ISO14001をベースにした省エネルギーや省資源・廃棄物削減活動に継続的に取り組んでいます。これからも、環境に配慮したもののづくりを進め、従業員が一丸となって法令順守と環境負荷の低減に努めると共に、地域との協調・共生を目指していきます。

22 神鋼メタルプロダクツ株式会社 本社工場

所在地 〒800-0007 福岡県北九州市門司区小森江2丁目2番1号
TEL 093-381-1331 FAX 093-381-3833
主要製品 銅合金管、モールド、複合材、熱加工品

代表取締役社長
安藤 裕幸

2016年度も「エコアクション21」に基づき環境負荷低減の活動を展開しました。省エネルギーに関しては、焼鈍炉などの熱設備の集中稼働を図り、エネルギー原単位の低減活動を推進し、環境負荷低減に引き続き取り組んでいきます。

24 神鋼ノース株式会社 本社・霞ヶ浦工場

所在地 〒315-8523 茨城県かすみがうら市上稻吉1758-1
TEL 0299-59-4111 FAX 0299-59-4597
主要製品 建設仮設材・自動車部材などアルミ加工品

代表取締役社長
畑中 邦彦

2016年度は省エネルギー・省資源・3R活動をベースに環境負荷低減活動を実施してまいりました。今後も環境配慮型の製品開発の推進や全員参加の5S活動により継続した環境負荷低減活動を実施し地域社会の一員としての責任を果たし企業価値を高めてまいります。

26 株式会社コベルコ マテリアル銅管 秦野工場

所在地 〒257-0015 神奈川県秦野市平沢65番地
TEL 0463-82-3111 FAX 0463-83-1920
主要製品 空調用、給水・給湯用銅管および銅合金管

工場長
土屋 昭則

当工場は銅管トップメーカーとして「～課題の本質を見極めて「ものづくり」を進化させる～」をスローガンに、高い生産性の維持と省エネルギー活動を継続し、たゆまぬ技術開発を通じて、環境保全に貢献してまいります。

27 播磨工場

所在地 〒675-0155 兵庫県加古郡播磨町新島41
TEL 079-436-2101 FAX 079-436-2199
主要製品 空気圧縮機、冷凍機および蒸気関連商品



工場長
中南 政彦

私どもは「地球温暖化対策」や「循環型社会の構築」などが人類共通の重要課題と認識し、①環境に配慮した生産活動、②技術・製品・サービスの環境への貢献、③社会との共生・調和を実践し、社会に貢献し企業価値の向上を目指してまいります。

29 株式会社神鋼環境ソリューション 播磨製作所

所在地 〒675-0155 兵庫県加古郡播磨町新島19番地
TEL 079-436-2500 FAX 079-436-2506
主要製品 化学・医薬品製造用機器



所長
今中 照雄

環境コンプライアンス遵守を最重要課題と認識し、環境保護に取り組んでいます。2016年度は特高受電設備更新、工場棟塗装やLED化を進め、2017年度はさらに新規生産設備導入や生産効率改善などにより、エネルギー原単位低減に取り組めます。

31 株式会社コベルコパワー神戸 神戸発電所

所在地 〒657-0863 兵庫県神戸市灘区灘浜東町2番地
TEL 078-882-8036 FAX 078-882-8037
主要製品 発電事業



代表取締役社長
三木 尚司

美しい神戸の山並みと港に囲まれた都市型発電所として、従業員全員で環境保全活動に取り組んでいます。適切な操業管理、保全管理によるエネルギーの安定供給を通じて、皆様から信頼される発電所を目指しています。

32 高砂製作所

所在地 〒676-8670 兵庫県高砂市荒井町新浜2-3-1
TEL 079-445-7111 FAX 079-445-7231
主要製品 鋳鍛鋼製品、チタン、鉄粉、産業機械、圧縮機、エネルギー・原子力機器



所長
滋野 敦士

高砂製作所は、鋳鍛鋼、チタン、鉄粉、産業機械、圧縮機、エネルギー関連機器など、特色あるオンリーワン製品の提供を通じて社会に貢献していきます。今後も、「安全・環境・防災・コンプライアンス」を常に意識し、環境負荷低減活動を継続しながら、地域の皆様との共生を目指します。

34 株式会社コベルコ科研 ターゲット事業本部

所在地 〒676-8670 兵庫県高砂市荒井町新浜2丁目3番1号
TEL 079-445-9020 FAX 079-445-9025
主要製品 スパッタリングターゲット材



ターゲット事業本部長
楠本 栄典

ISO14001:2015の規格要求事項の一つでもある「ライフサイクルの視点」による製品の設計・開発に取り組む、環境負荷の少ないものづくりを行っていきます。また、フラットパネルディスプレイ用配線材料などの製造を行う中で、再利用・再資源化への取り組みと共に我々の製品を組み込んだスマートフォンや省エネルギー型高機能TVを通じ社会の環境改善への貢献を継続してまいります。

36 コベルコ建機株式会社 大垣事業所

所在地 〒503-0932 岐阜県大垣市本今町1682番7号
TEL 0584-80-0500 FAX 0584-87-0018
主要製品 建設機械



事業所長
秋山 健

2016年度は、老朽化した加工機を更新して生産効率の向上、部品納入のトラックのミルラン化を推進して便数を減らし、CO₂排出量の削減に取り組まれました。2017年度は特化物、有機溶剤の含有量が少ない塗料への切り替えを計画し、環境負荷の低減に努めます。

38 ジャパンスーパーコンダクタテクノロジー株式会社 門司工場(線材工場)

所在地 〒800-0007 福岡県北九州市門司区小森江2-2-1
TEL 093-391-2835 FAX 093-391-2847
主要製品 超電導線材



工場長
倉橋 秀文

「究極の省エネルギー技術」である超電導線の供給を通じて「地球環境に対する貢献」に努めています。2016年度も「エコアクション21」の環境目標達成に向けて継続的改善を進めてきました。今後も地域社会の一員として環境対策に取り組んでまいります。

28 神鋼造機株式会社 本社

所在地 〒503-8505 岐阜県大垣市本今町1682番地の2
TEL 0584-89-3121 FAX 0584-87-0020
主要製品 試験機、動力伝達装置、発電装置



代表取締役社長
早田 隆昭

総合機械メーカーとして、世界に通じる第一級のQCDC工場を目指し、環境に配慮した生産活動と技術・製品・サービスの提供に取り組むと共に、法令順守、環境管理活動を通じて、社会に貢献してまいります。

30 株式会社神鋼環境ソリューション 技術研究所

所在地 〒651-2241 兵庫県神戸市西区室谷1丁目1番4号
TEL 078-992-6500 FAX 078-997-0550
主要製品 -



所長
田頭 成能

技術研究所では、水処理・廃棄物処理に関する技術開発を通して、環境にやさしい地域づくりに貢献したいと考えております。当研究所から発生する排水については、場内に処理設備を設けて管理しています。このほか、廃棄物の減量や再資源化にも取り組んでいます。

33 神戸総合技術研究所

所在地 〒651-2271 兵庫県神戸市西区高塚台1丁目5-5
TEL 078-992-5600 FAX 078-992-5532
主要製品 -



開発業務部長
川中 岳穂

神戸総合技術研究所では、当社グループの事業収益力強化と将来の成長に向けて幅広い分野の研究開発活動を行っており、環境に配慮した新製品・新技術の開発にも注力しています。また、環境マネジメントシステムである「エコアクション21」活動を通じて、全員参加で環境負荷低減活動に取り組んでいます。

35 コベルコ建機株式会社 広島事業所

所在地 〒731-5161 広島県広島市佐伯区五日市港2丁目2番1号
TEL 082-943-5303 FAX 082-943-5348
主要製品 建設機械



事業所長
龍川 誉

当事業所では7トン以上の重機ショベルを生産しており、排ガス規制対応とさらなる燃費向上を実現した新機種を上市しました。生産工場では省エネルギーの設備導入や有機溶剤を含まない塗料を採用し、また電子マネーの導入を進めました。2017年度はさらなる省エネルギー化、有機溶剤の削減を推進して、環境保全に貢献してまいります。

37 コベルコ建機株式会社 大久保事業所

所在地 〒674-0063 兵庫県明石市大久保町八木740
TEL 078-936-1331 FAX 078-936-1390
主要製品 クレーンなど土木建設機械、その他諸機械



事業所長
齋藤 敬治

当事業所は低燃費・低騒音・軽量化を目指したクレーン開発や、廃棄物削減、構外清掃の活動を通じ環境保護に取り組んでいます。2016年は産業廃棄物の適正廃棄を担保する処理業者の視察を9社実施しました。2017年度よりスタートする塗装ブース合理化では、法令遵守、環境リスクコミュニケーションは勿論、塗装作業の効率向上による省エネルギー・省資源を目指して取り組みます。

39 神鋼機器工業株式会社 本社

所在地 〒682-0014 鳥取県倉吉市海田東町112番地
TEL 0858-26-8111 FAX 0858-48-1077
主要製品 高圧ガス容器などのプレス加工品・製品



生産本部長
泉谷 雅人

当社は自然豊かな倉吉の地域の皆様との共生を図るため、環境に配慮した操業を心がけています。2016年度は蒸気使用量の削減、およびコンプレッサの電力使用量の削減に取り組み、成果を得ることができました。2017年度はこの活動をさらに拡大し、環境負荷の低減に努めてまいります。

読者の皆様からの評価

神戸製鋼グループでは、ステークホルダーとのコミュニケーションの一環として、「環境・社会報告書」の発行にあたり、毎年、読者の皆様にアンケートを実施しています。2016年度版に関して、たくさんのご意見やご質問をいただきました。その一部をご紹介します、回答させていただきます。

VOICE

私たちが利用している車や飛行機の軽量化の取り組みに興味を持ちました。

(株主・男性)

自動車や航空機の軽量化は、環境負荷低減のため、ますますニーズが高まっています。神戸製鋼グループでは、「輸送機の軽量化」を成長分野の一つとして位置付け、軽くて強い超ハイテンやアルミ製品、チタン製品などを提供しています。今後も、輸送機の軽量化を促進する技術や製品を通じて、地球環境の保全に貢献していきます。

VOICE

最近、地震が多発していますので、地震に対する社会貢献がありましたら教えてほしい。

(株主・男性)

1995年1月に発生した阪神・淡路大震災において、神戸製鋼グループは被災した地域の支援や、世界の自動車生産に欠かせない、自動車用弁ばね用線材の供給確保など、できる限りの対応を行いました。この時の教訓を活かし、地域を含めた「安全・防災」や、大地震の際にも取引先に迷惑をかけないBCP(事業継続計画)の策定などを進めています。また、東日本大震災の被災地にも、ラグビー部を中心とした復興支援活動を継続しています。阪神・淡路大震災で被災した企業の一つとして、今後も地震や自然災害に対する社会貢献の道を模索していきます。

VOICE

エネルギー源としての水素の活用と将来の展望に興味がある。

(公益法人職員・男性)

神戸製鋼グループは「エネルギー・インフラ」を成長分野の一つと位置付け、水素関連ビジネスに注力しています。昨年、「水素ステーション総合テストセンター」を新設し、水素ステーション向けユニットの開発を進め、国内外の燃料電池車の需要拡大に備えています。今後も、来るべき水素社会に貢献する技術・製品開発を推進します。

VOICE

KOBELCO GREEN PROJECTの森林整備活動に注目しています。

森林の環境保全に対する役割は大変重要と思われるため。

(団体職員・男性)

神戸製鋼グループは、KOBELCO GREEN PROJECTとして、従業員が主体のさまざまな環境貢献活動を推進しています。森林整備活動はその一つで、KOBELCOの森(兵庫県三木市)、ECOWAYの森(兵庫県神戸市)などで森林の除間伐や下草刈りなどを行っており、これまで2,200人を超える従業員が参加しています。また、森を大切にすることを育むため、小中高生から森に関わる童話を募集し、金賞作品を絵本にする「KOBELCO森の童話大賞」を主催しており、2016年度で4回目となりました。神戸製鋼グループは、今後も森林など自然環境を保護する活動に取り組んでいきます。

VOICE

社員が働きやすい職場環境、ダイバーシティ推進、健康経営の取り組みなどの成果について興味深く拝見しました。

これからの時代の働き方に積極的に取り組まれている点が印象に残りました。

(研究者・男性)

政府による働き方改革が進む中、神戸製鋼グループではKOBELCO流動働き方改革の「スタッフ働き方変革活動」を推進しています。会議やメールなど当たり前と思われていた業務習慣の無駄を見直すことで、時間を創出し仕事とくらしの充実を図る新しい働き方を追求しています。また、女性の活躍推進を中心とした「ダイバーシティの推進」も、専門部署を設置して全社で取り組んでいます。これからの活動にご注目いただければ幸いです。

貴重なご意見、ありがとうございました。より良い環境・社会報告書づくりに活かしてまいります。

編集
後記

(株)神戸製鋼所
CSR委員会

「環境・社会報告書2017」の発行にあたっては、製造業ならではの「ものづくり」を通じた環境と社会への貢献活動について、幅広いステークホルダーの皆様にはわかりやすくお伝えすることを意識しました。社長メッセージでは神戸製鋼グループの次の100年に向けた活動である「KOBELCOの約束 Next100プロジェクト」を川崎会長兼社長が説明しています。

巻頭特集ではKOBELCO流動働き方改革である「スタッフ働き方変革活動」を紹介しました。また、環境報告では、バリューチェーンの中でも今年度は溶接事業部門をクローズアップしています。写真やグラフなども積極的に掲載し、当社グループの取り組みをご理解いただけるよう努めました。今後も読者の皆様から忌憚のないご意見を賜り、内容の充実にも努めてまいります。

COMMENT

[第三者コメント]



神戸製鋼グループ 「環境・社会報告書2017」を読んで

株式会社日本政策投資銀行 サステナビリティ企画部長

田原 正人

PROFILE

田原 正人(たはら まさと)

1991年、東京大学教養学部卒業。同年、日本開発銀行(現(株)日本政策投資銀行)入行。企業金融第1部課長、事業開発部課長、業務企画部課長、産業調査部ソリューション企画室長、環境・CSR部長などを経て、現職。環境省「低炭素社会づくりのためのエネルギーの低炭素化検討会・エネルギー供給WG」委員、「廃棄物系バイオマス利活用導入促進事業検討会」委員、東京都「水素社会の実現に向けた東京推進会議」委員などを歴任。

「環境・社会報告書2017」は、企業理念および新しい行動規範、すなわち貴社グループの社会に対する「約束」と「誓い」に基づき、企業活動を通じて社会への貢献を果たさんとする、貴社の強いメッセージが伺えます。

特に今号は、ここ数年の環境・社会報告書で表現してきた深部、すなわち企業価値の源泉となる「人」に焦点を当てた報告となっている点が特徴的です。冒頭の、KOBELCO流“働き方改革”における、ワークスタイル・就業ルール・業務変革への取組が従業員の声を通じて鮮やかに描き出されており、単なる制度設計に留まらず、着実に貴社内に浸透し、組織力の強化に繋がっていることを実感させます。また、在社率や定例会議の総時間の削減等のKPIを用いて働き方改革の効果が定量的に示されている点も、非財務情報開示の潮流に沿った優れたポイントであることに加え、こうした内容は、「素材」「機械」「電力」の3本柱を中心に多岐に亘る事業領域がシナジーを発揮し、多様な人材が活躍している貴社から語られるからこそ、より説得力を増します。

続く環境・社会パートでは、「環境先進企業グループ」として3つのビジョンを掲げ、本業と一体となった環境への取組や戦略的な社会貢献活動を継続的に実践している様子がここ数年の環境・社会報告書で構築された体系に沿って丁寧に報告されています。

また、溶接部門のバリューチェーンを通じた環境配慮や社外からの表彰実績など、貴社の本業を通じて実現する価値がステークホルダーに判りやすく伝わる構成となっています。

時代に先駆けて事業を通じたCSR活動に取り組まれてきた貴社だけに、今後は、非財務面の情報開示にも時間軸の概念を取り入れ、経営と一体的にCSR活動が展開されていることを示す発展的な開示のあり方もご一考に値すると思います。例えば、企業価値の源泉となる技術開発を通じた価値創造や新興国への技術移転など、国内外の環境・社会課題の解決に貢献する取組について、定量的なKPIを用いて説明することにより、貴社の事業活動が多様なステークホルダーに受け容れられている姿がより効果的に読み手に伝わり、ひいては貴社ブランド価値のさらなる強化にも繋がっていくことでしょう。

こうした情報開示の工夫は、「KOBELCOの約束Next100プロジェクト」を掲げ、長期的視野で自社と社会の持続的発展に向けた取組を進めている貴社の方向性とも合致すると思います。冒頭で提示されたグループ全体で共有する価値観「3つの約束」、「6つの誓い」がグループ全体に浸透し、貴社がよりよい社会づくりに貢献しつつ成長を遂げていくストーリーをこれからの環境・社会報告書で拝見できることを期待します。

KOBELCO

株式会社神戸製鋼所

神戸本社 〒651-8585 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通2丁目2-4
東京本社 〒141-8688 東京都品川区北品川5丁目9-12

発行:(株)神戸製鋼所 CSR委員会

ホームページでもご覧になれます

http://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/csr/